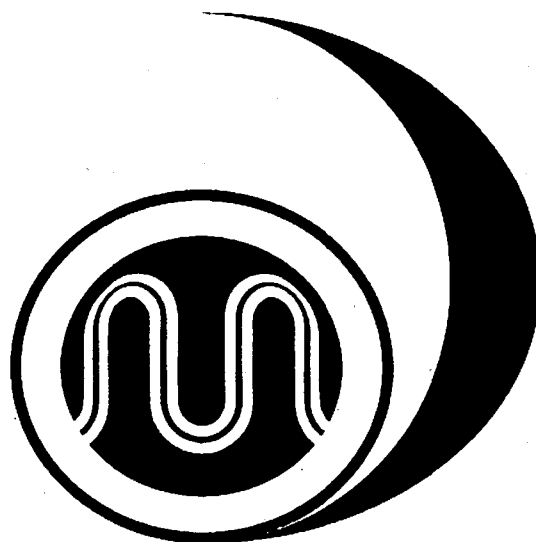


第306回  
地震防災対策強化地域判定会

記者レクチャー資料



平成23年10月24日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

## 目次

### 定例資料

1. 地震活動概況 ..... P. 1-6
2. 活動指数 ..... P. 7-11
3. 静穏化・活発化領域の抽出 ..... P. 12-13
4. 領域別地震活動 ..... P. 14-24
5. ひずみ計による地殻変動観測 ..... P. 25-50
6. GPS による面的地殻変動監視 ..... P. 51-57

## 平成 23 年 9 月～10 月 19 日の主な地震活動

(平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した地震については $M \geq 5.0$ のみ記述)

○ 想定震源域およびその周辺； $M \geq 3.0$  または震度 1 以上を観測した地震

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
9/1	12:50	静岡県東部	13	2.5	1	—
9/19	0:53	静岡県東部	12	2.2	1	—

※ 深部低周波地震活動

長野県で深部低周波地震が観測された。

○ 南関東； $M \geq 4.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
9/4	5:52	埼玉県南部	90	4.7	4.7	5.0	3	東北東—西南西に圧力軸を持つ逆断層型
9/11	19:09	東京湾	73	4.3	4.3	4.5	3	東西に圧力軸を持つ逆断層型
10/9	1:08	茨城県南部	60	4.3	4.3	—	2	東西に圧力軸を持つ逆断層型

発震機構は初動発震機構解による。

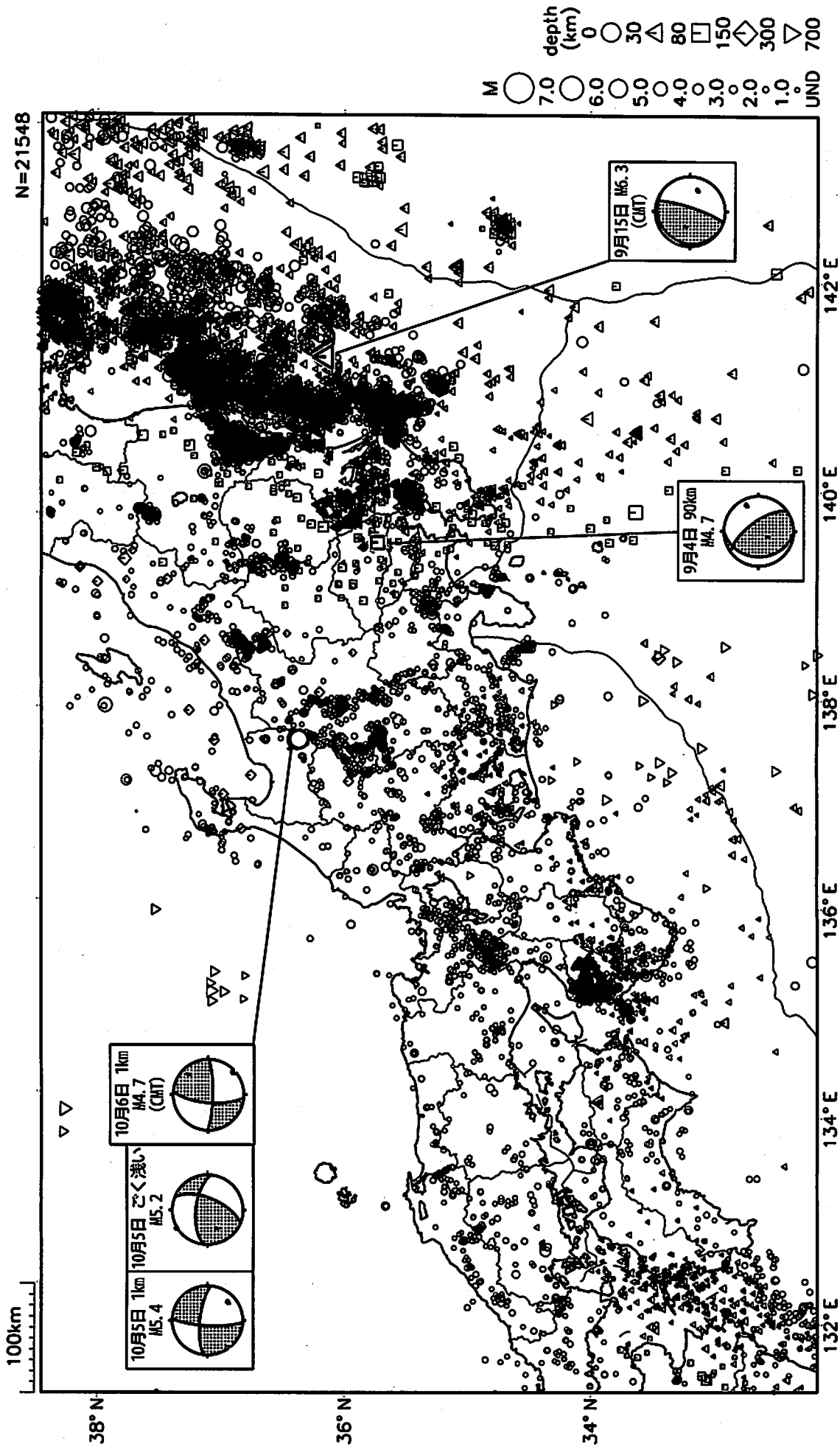
○ その他の地域； $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
9/15	17:00	茨城県沖	—	6.3	6.3	6.2	4	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
9/17	4:26	岩手県沖	—	6.6	6.6	6.6	4	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型
9/17	6:08	三陸沖	—	6.1	6.1	5.9	3	西北西—東南東に圧力軸を持つ逆断層型

Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

発震機構は CMT 解による。

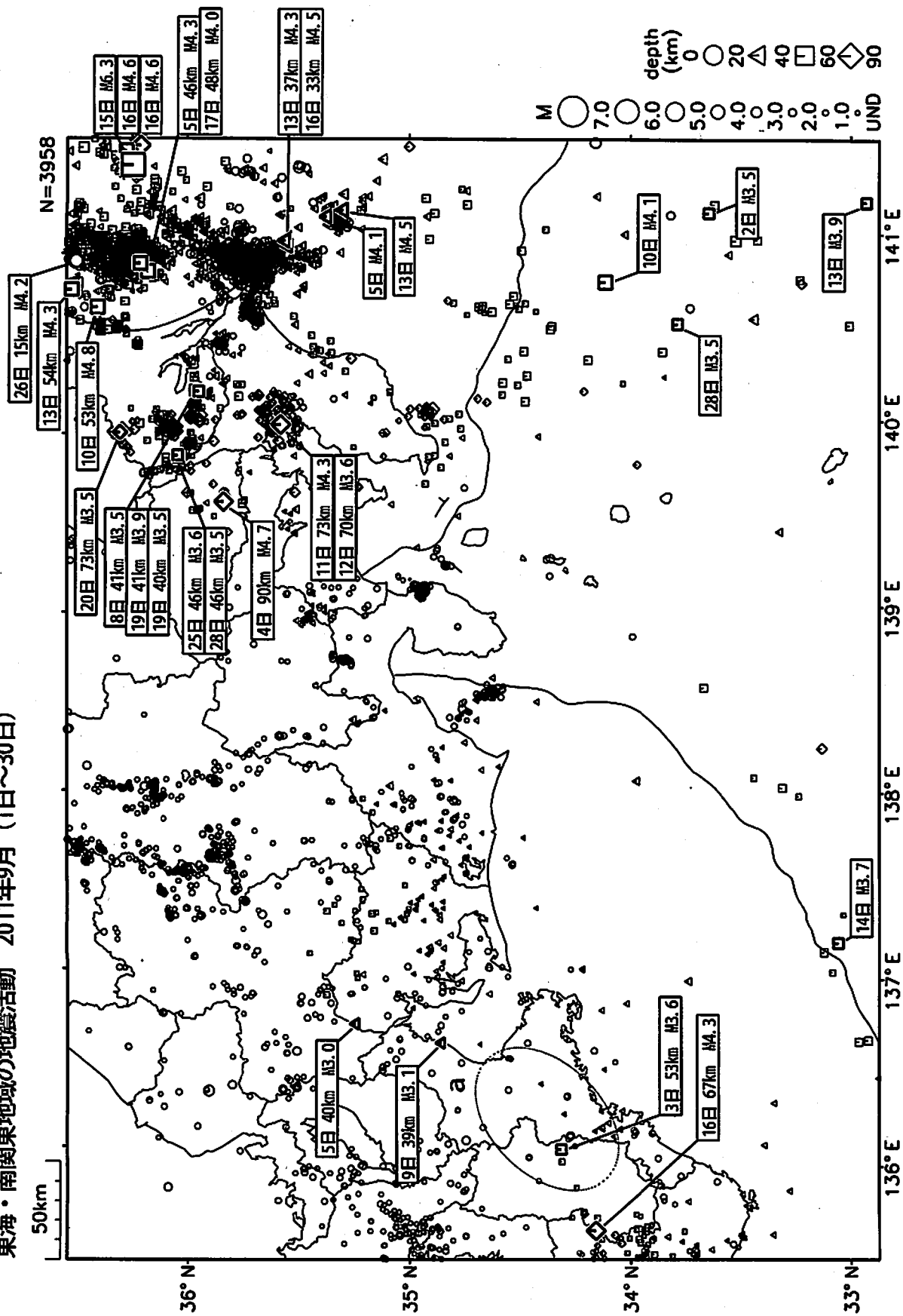
東海地方とその周辺の広域地震活動 2011年9月1日～10月19日



図中の吹き出しは、陸域M4.5以上・海域M5.0以上とその他の主な地震  
 ただし、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震域で発生した地震については、M6.0以上の地震

気象庁作成

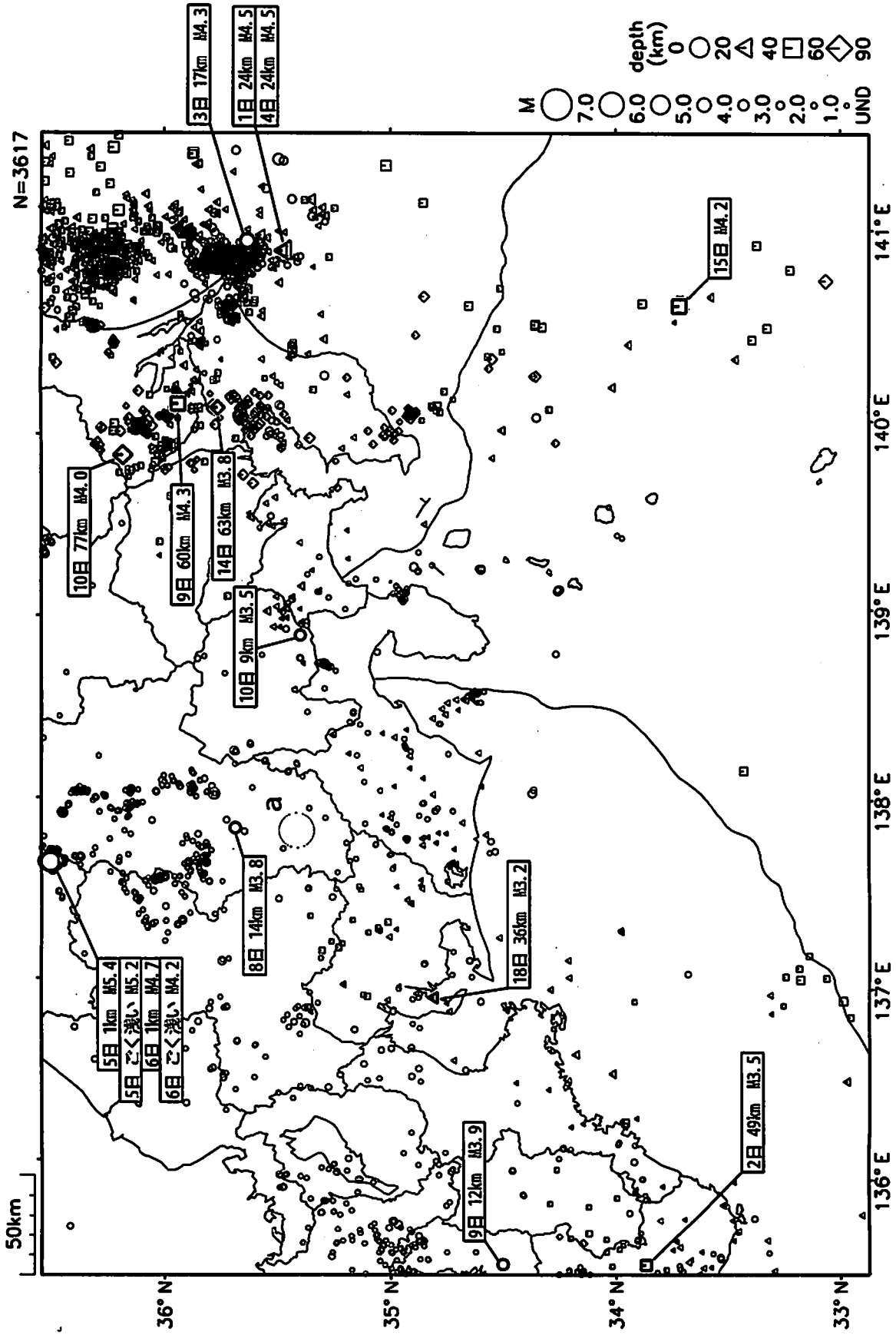
東海・南関東地域の地震活動 2011年9月 (1日~30日)



気象庁作成

精度良く震源決定された地震のみを表示している。  
 三河湾中部～奈良県(領域a)で9/12日から16日まで深部低周波地震が頻発された。

東海・南関東地域の地震活動 2011年10月(1日~19日)

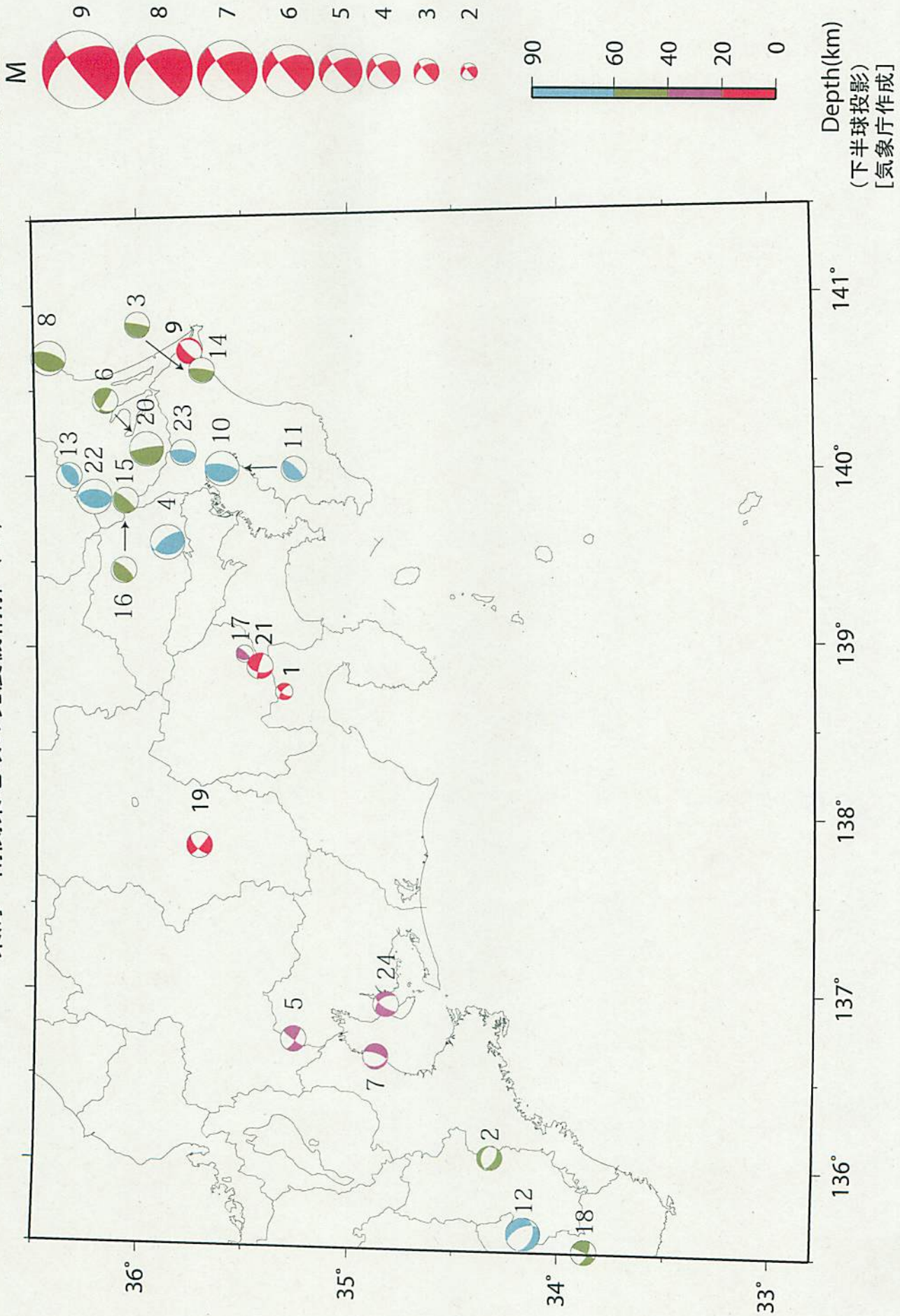


気象庁作成

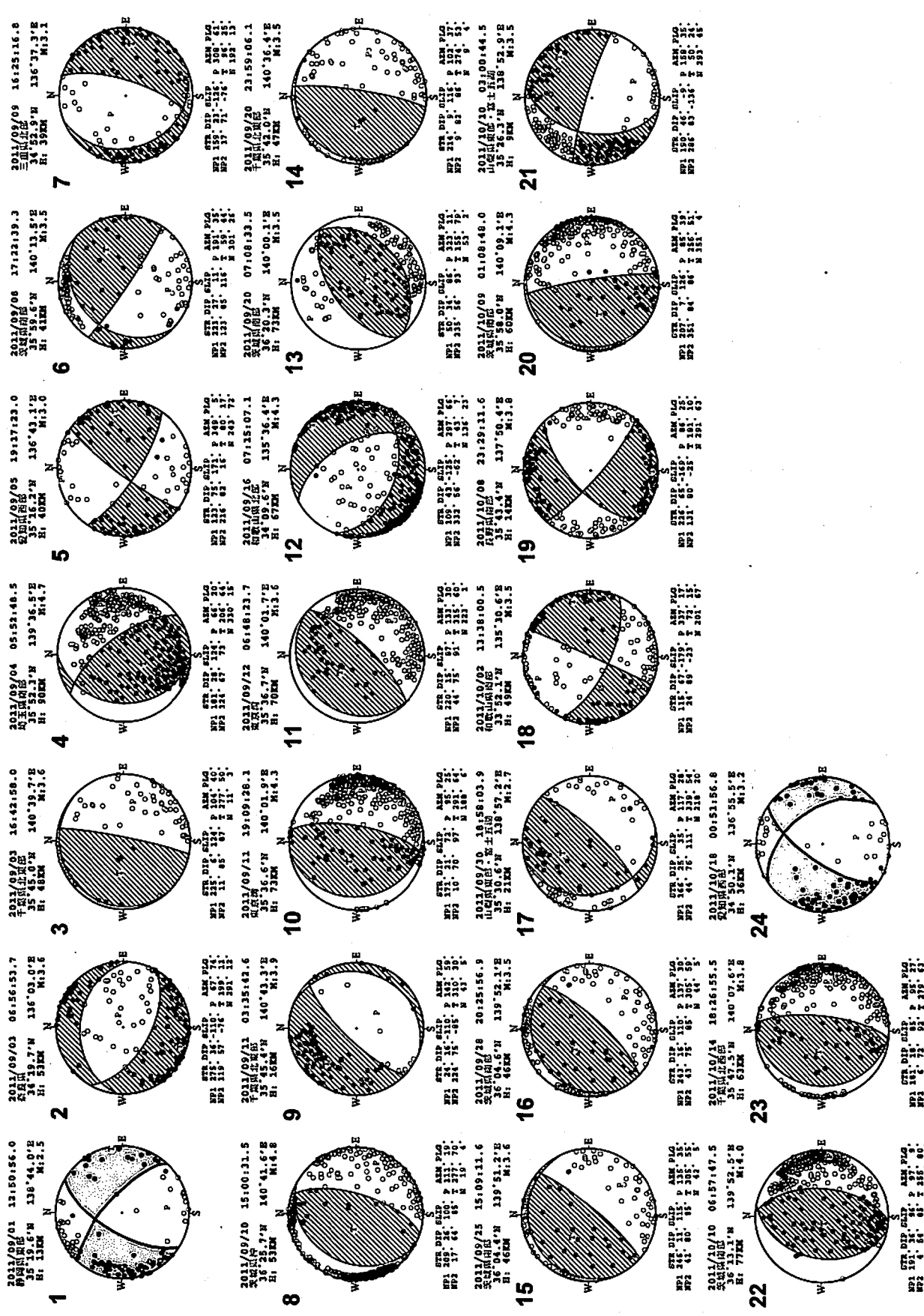
精度よく震源決定された地震のみを表示している。  
北関東沖部(概緯a)で10/11日に深部低周波地震が観測された。

東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period:2011/09/01 00:00--2011/10/19 24:00



# 東海・南関東地域の発震機構解 (2)



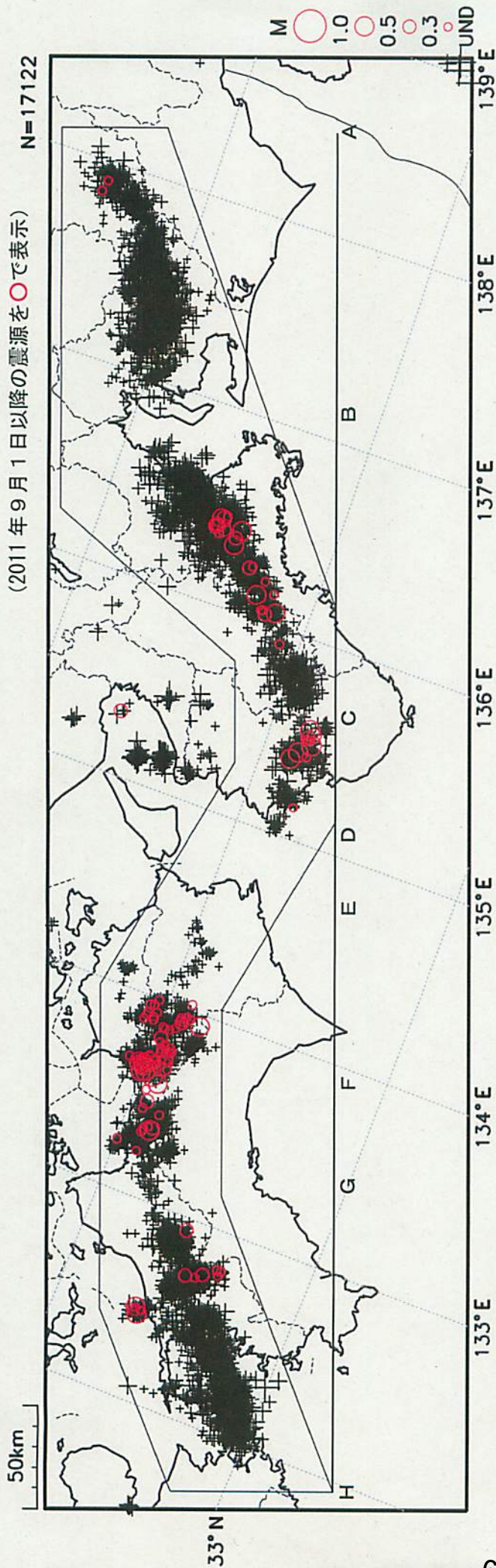
※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。  
 各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。  
 断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

(下半球投影)  
 [気象庁作成]

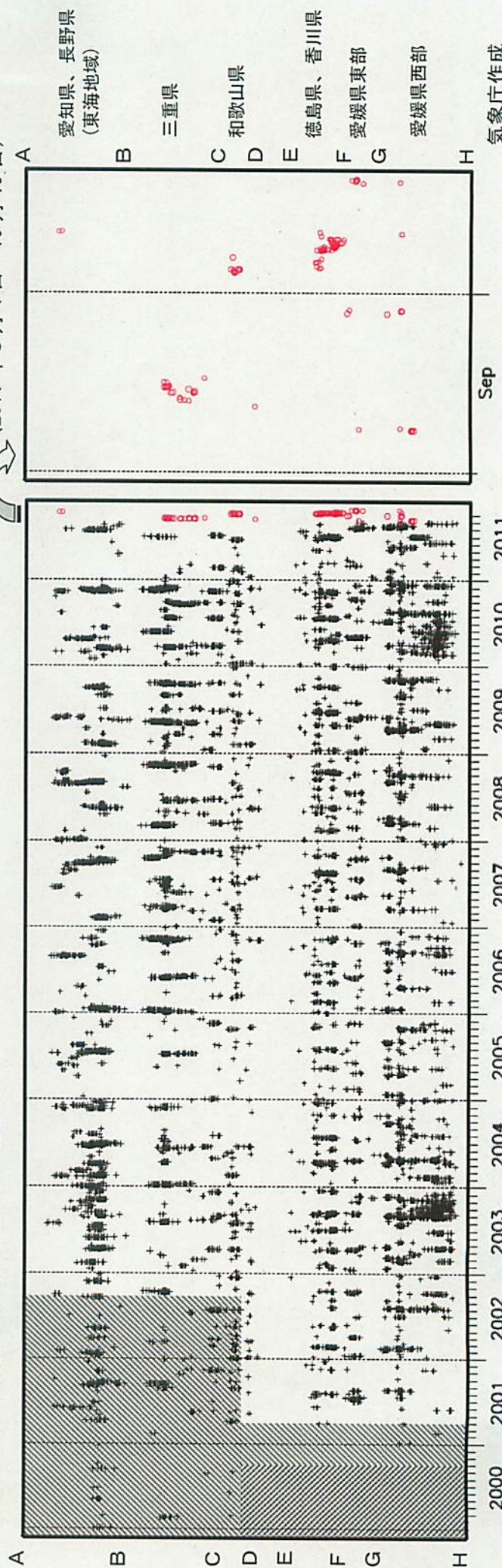


# 深部低周波地震活動 (2000年1月1日～2011年10月19日)

(2011年9月1日以降の震源を○で表示)



上図矩形内の時空間分布図 (A-H投影)



※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

気象庁作成



## 東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2011年10月19日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内		全域	
					全域	西側		東側
短期活動指数	4	5	5	5	1	3	1	5
短期地震回数 (平均)	4 (5.29)	8 (7.00)	15 (13.16)	17 (14.15)	1 (6.16)	1 (2.46)	0 (3.70)	7 (6.06)
中期活動指数	7	5	7	4	0	2	0	5
中期地震回数 (平均)	24 (15.87)	24 (21.00)	53 (39.48)	43 (42.44)	3 (12.32)	2 (4.93)	1 (7.39)	15 (12.12)

\* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M $\geq$ 1.1、駿河湾：M $\geq$ 1.4

\* クラスタ除去：震央距離が $\Delta r$ 以内、発生時間差が $\Delta t$ 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$

駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$

\* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

\* 基準期間： おおむね長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

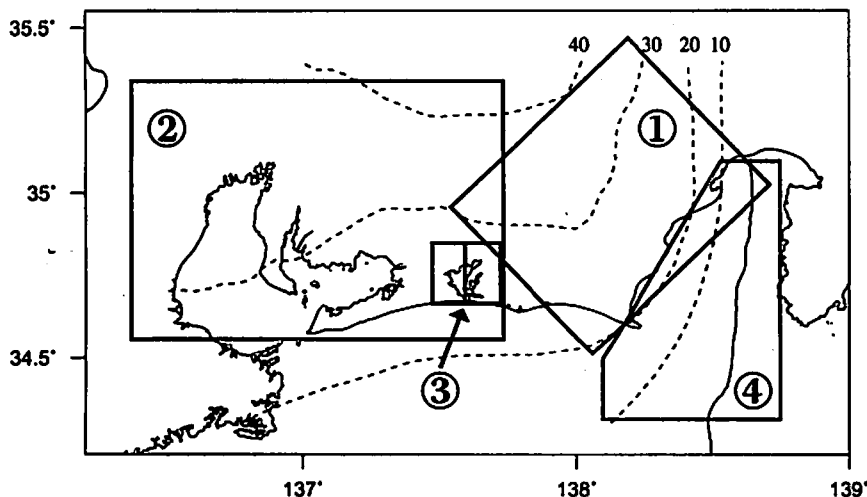
浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

[各領域の説明] ①静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

②愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③浜名湖周辺：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。



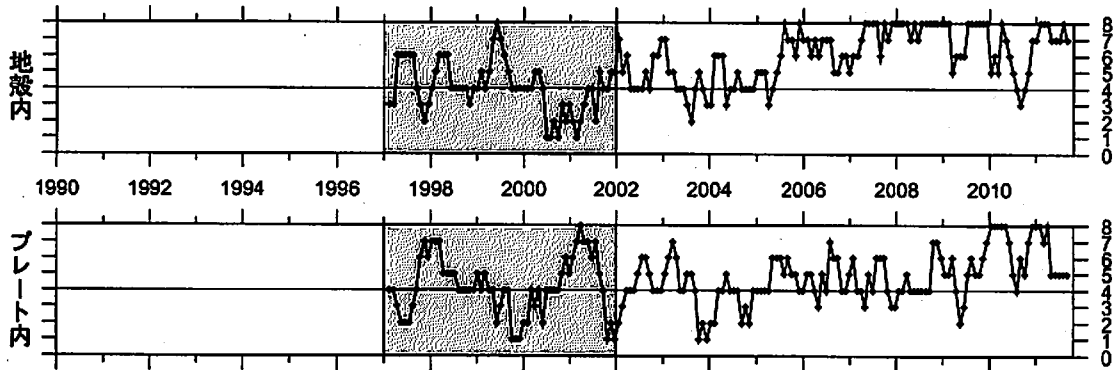
\* プレート境界の等深線を破線で示す。

指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	
6	10	やや多い
5	15	
4	40	ほぼ平常
3	15	
2	10	やや少ない
1	4	
0	1	少ない

# 地震活動指数の推移（中期活動指数）

① 静岡県中西部（対象期間：90日）

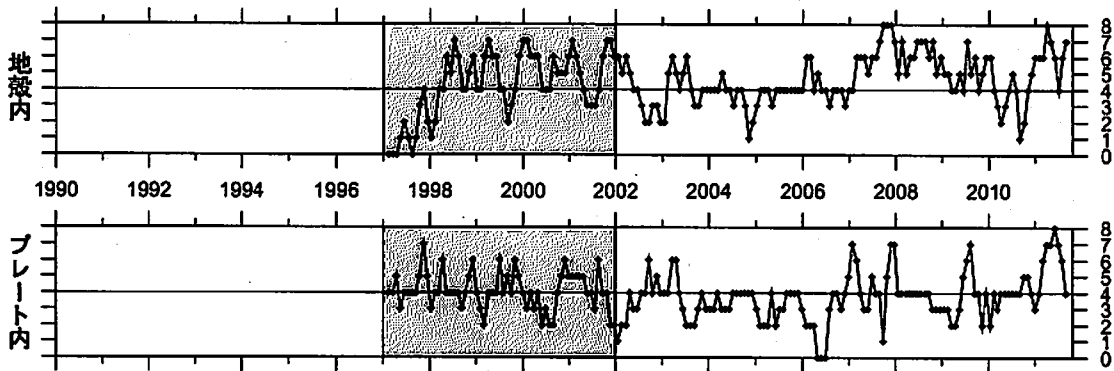
1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1



やや多い  
(継続中)

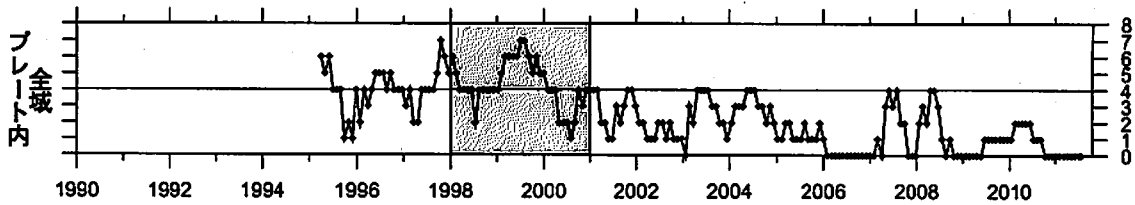
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1



③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

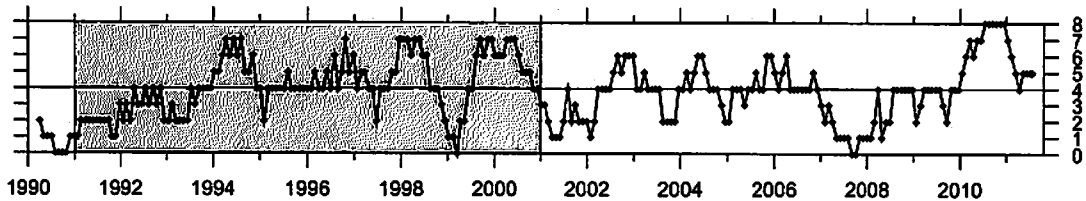
1995/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1



やや少ない  
(継続中)

④ 駿河湾（対象期間：180日）

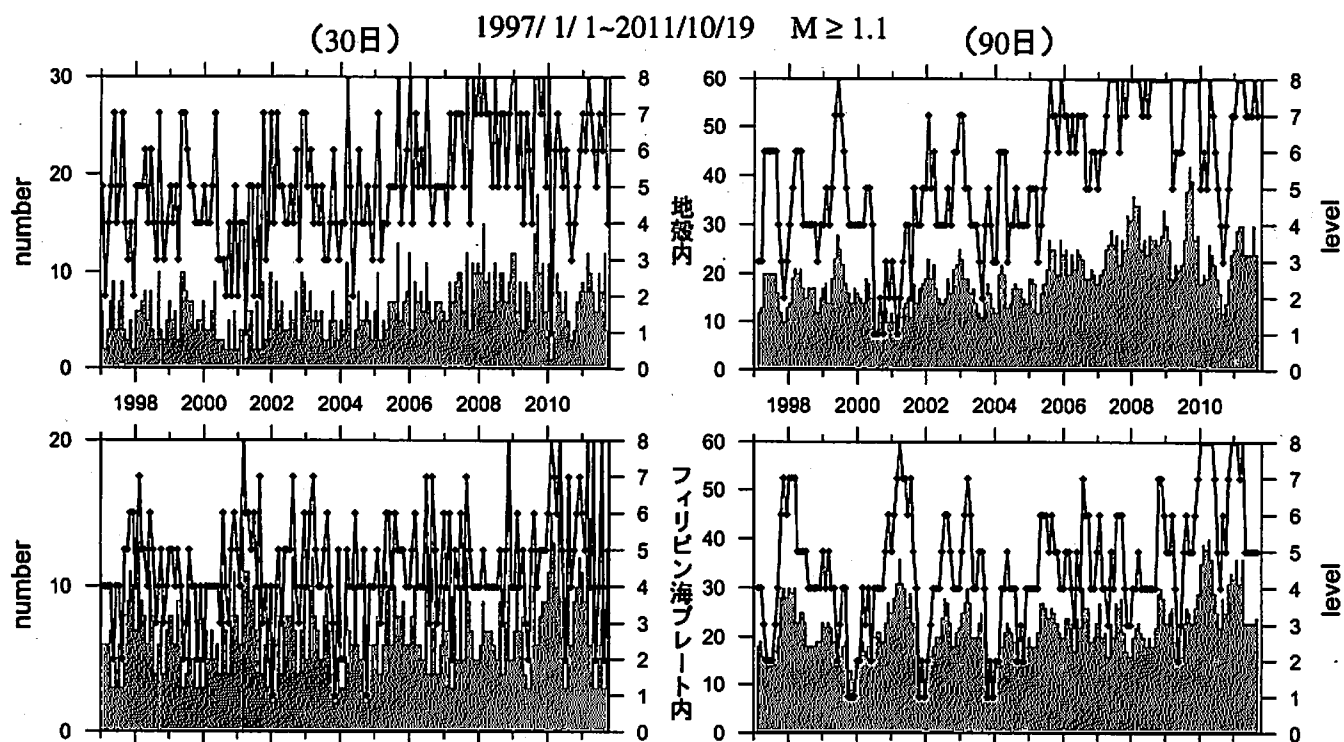
1990/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.4



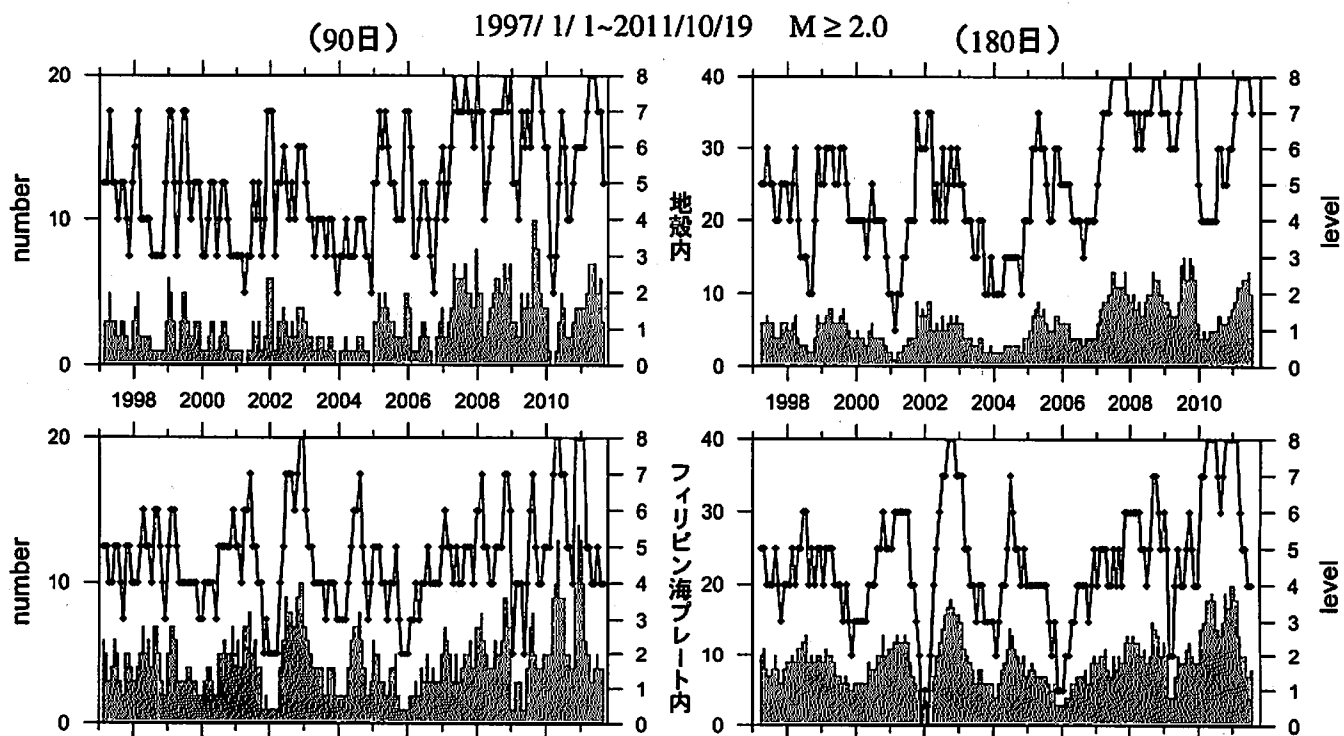
■ : 基準期間      / : 地震活動指数 (0-8)

# 地震活動指数の推移

## ① 静岡県中西部



地殻内はやや高い(4から7)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(5)。



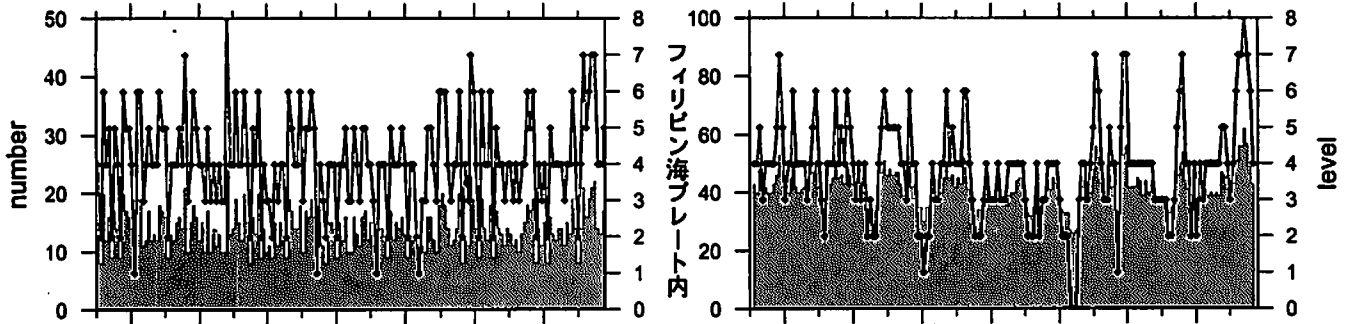
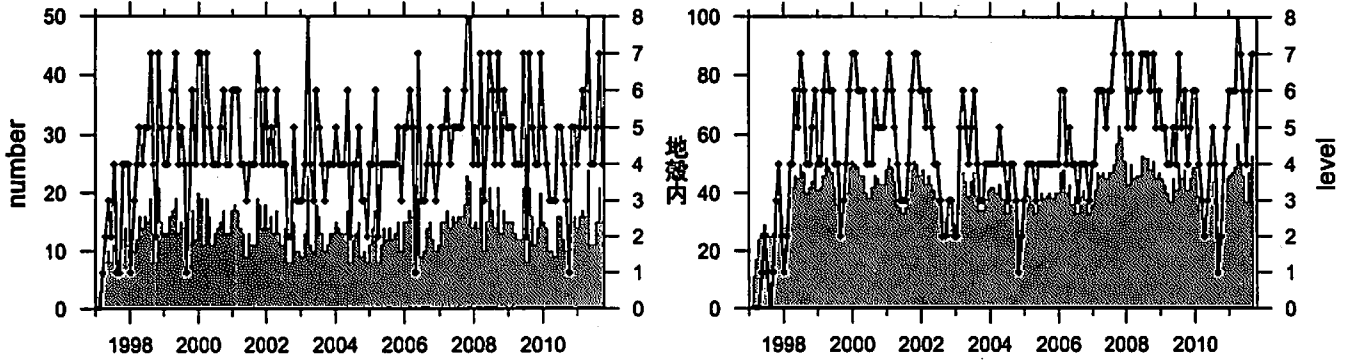
地殻内はやや高い(5から7)。  
フィリピン海プレート内はほぼ平常(4)。

／ : 地震活動指数 (0-8)  
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

# 地震活動指数の推移

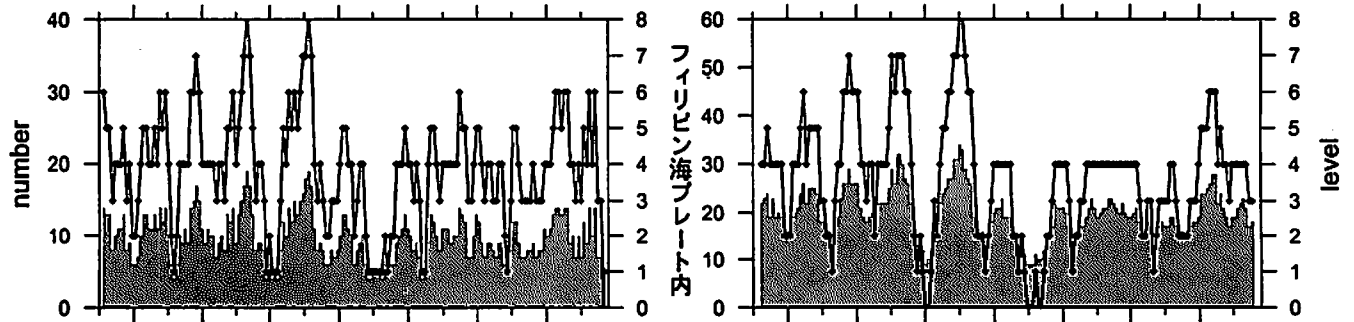
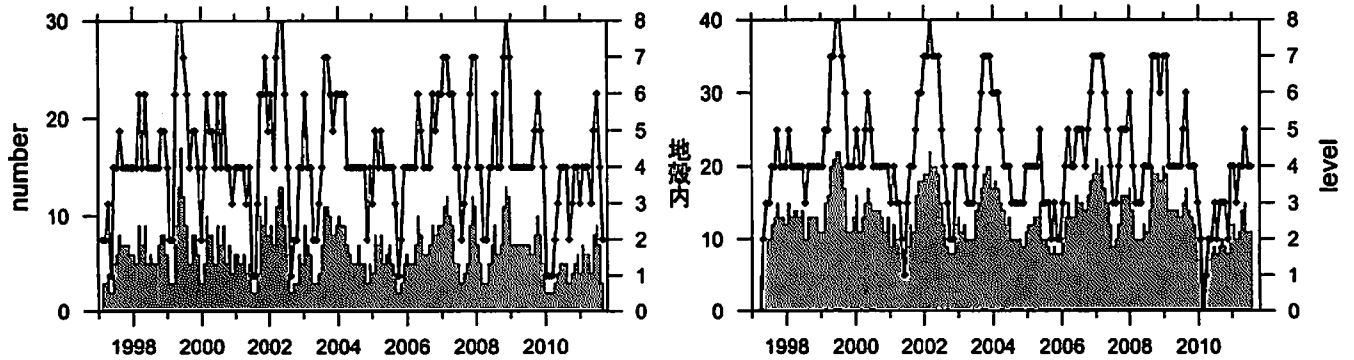
## ② 愛知県

(30日) 1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1 (90日)



地殻内はやや高い(5から7)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(4から5)。

(90日) 1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 2.0 (180日)



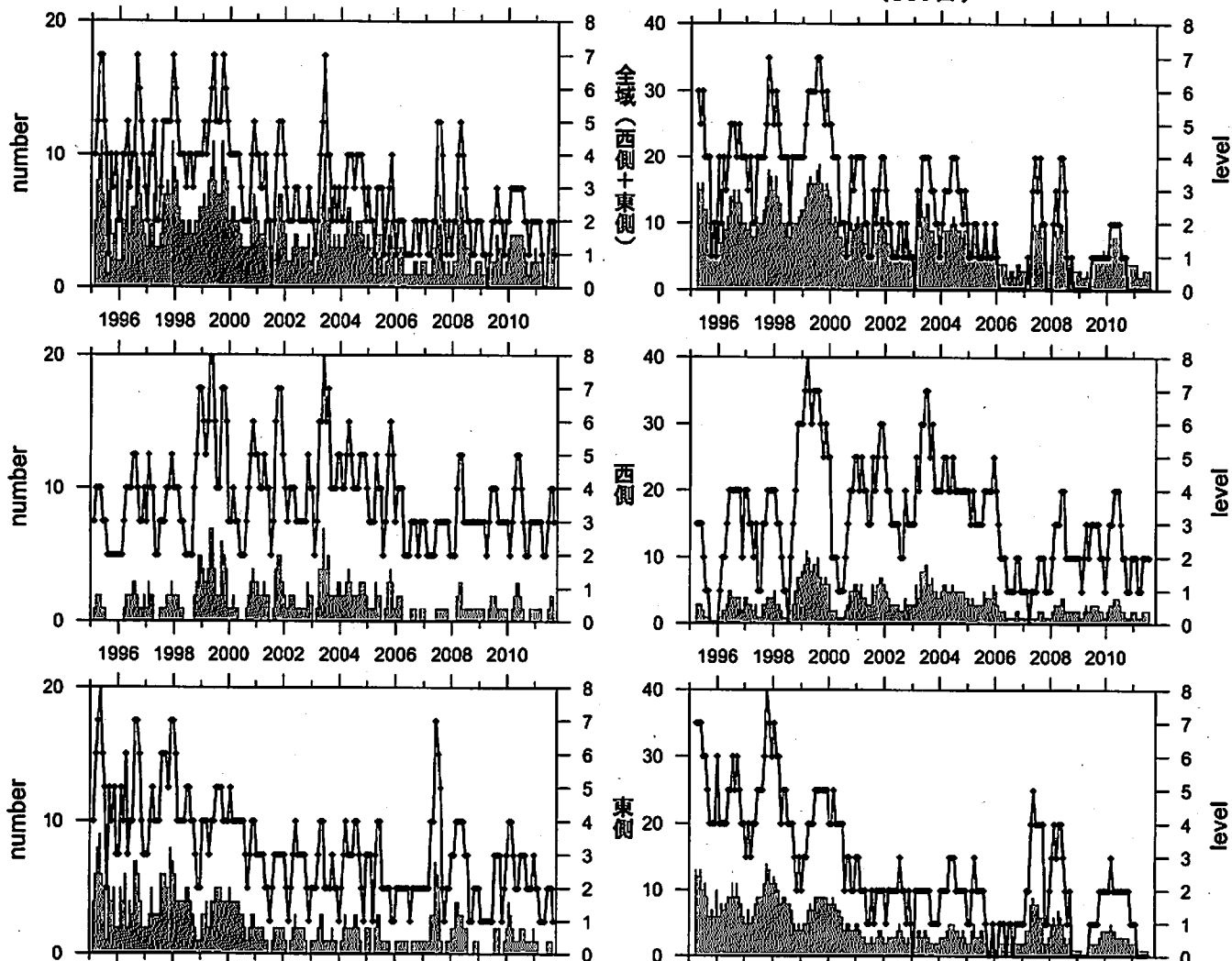
地殻内はやや低い(4から2)。フィリピン海プレート内もやや低い(3から1)。

／ : 地震活動指数 (0-8)  
 ■ : 地震回数 (クラスタを除く)

## 地震活動指数の推移

### ③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

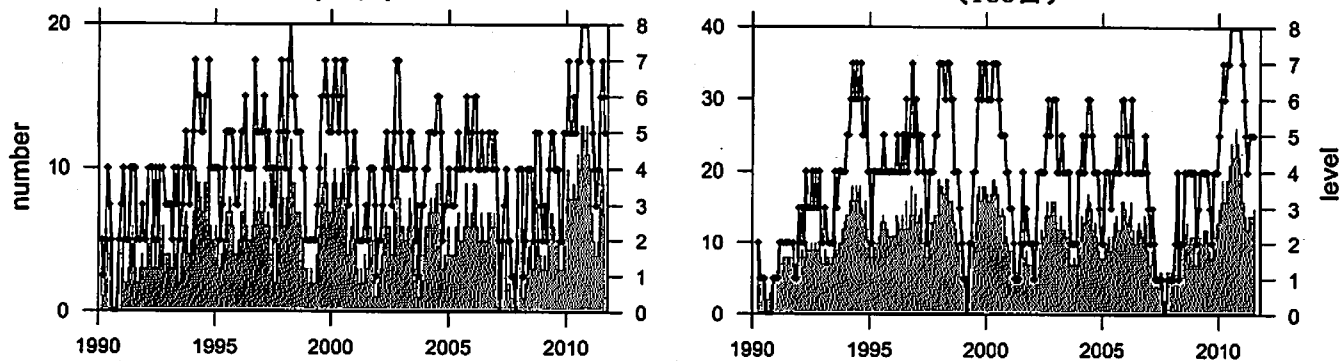
(90日) 1995/1/1~2011/10/19 M $\geq$ 1.1 (180日)



フィリピン海プレート内の地震活動は低い(3から0)。

### ④ 駿河湾

(90日) 1990/1/1~2011/10/19 M $\geq$ 1.4 (180日)



地震活動はほぼ平常(5)。

— : 地震活動指数 (0-8)  
 ■ : 地震回数 (クラスタを除く)

## 静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）

**抽出した地震**  
 東海地方、地殻内で発生した  
 M 1.1 以上の地震

- : 全期間の地震
- : 解析対象期間内に発生した地震

**クラスタ除去（デクラスタ）**  
 震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内  
 の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

**図の注釈**

**静穏化**

- : 半径 15.0 km 以内でレベル 0
- ⊙ : 半径 20.0 km 以内でレベル 0

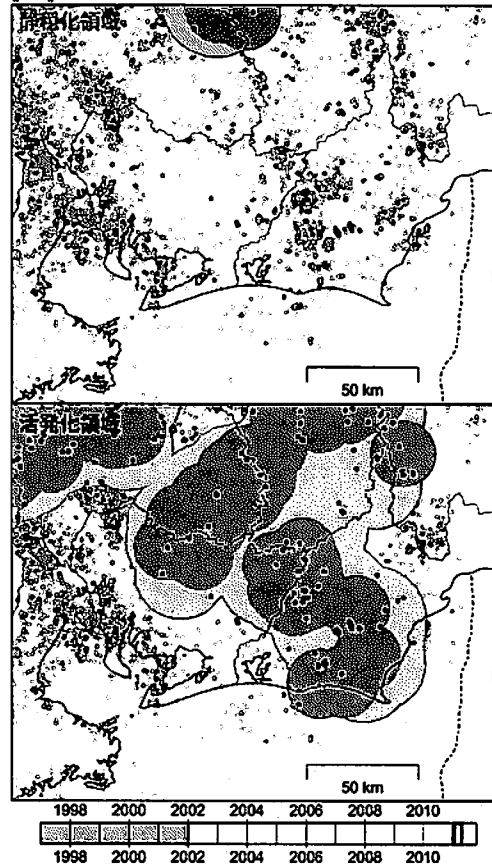
**活発化**

- : 半径 15.0 km 以内でレベル 8
- ⊙ : 半径 20.0 km 以内でレベル 8

**タイムバー**

- 全体 : 検出領域中心として解析に用いたデータの期間
- : 基準期間
- : 解析対象期間

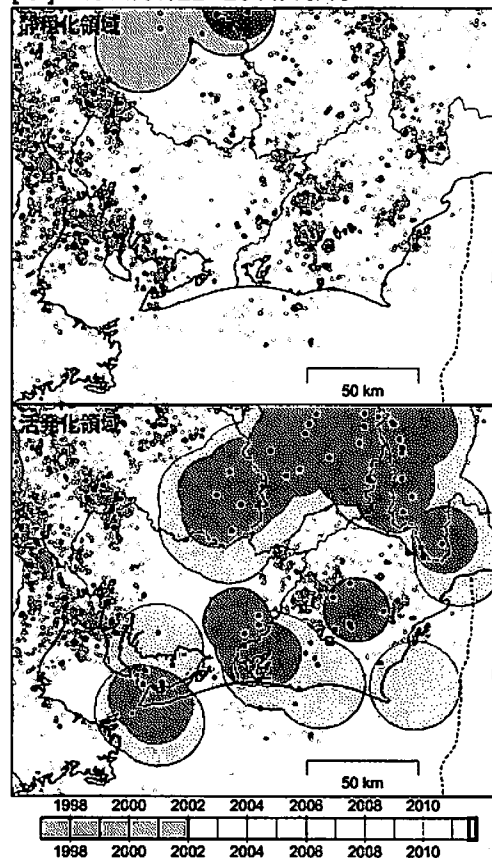
[1] 2011/01/23~2011/04/22



[2] 2011/04/23~2011/07/21



[3] 2011/07/22~2011/10/19



想定震源域周辺では、今期(最新の[3])は静岡県中西部、愛知県東部で活発化領域が検出されている。静穏化領域は検出されていない。 気象庁作成

## 静穏化・活発化領域の検出 (東海地方、プレート内)

**抽出した地震**  
 東海地方、プレート内で発生した  
 M 1.1 以上の地震  
 ○ : 全期間の地震  
 ◦ : 解析対象期間内に発生した地震

**クラスタ除去 (デクラスタ)**  
 震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内  
 の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

**図の注釈**

**静穏化**  
 ● : 半径 15.0 km 以内でレベル 0  
 ○ (点線) : 半径 20.0 km 以内でレベル 0

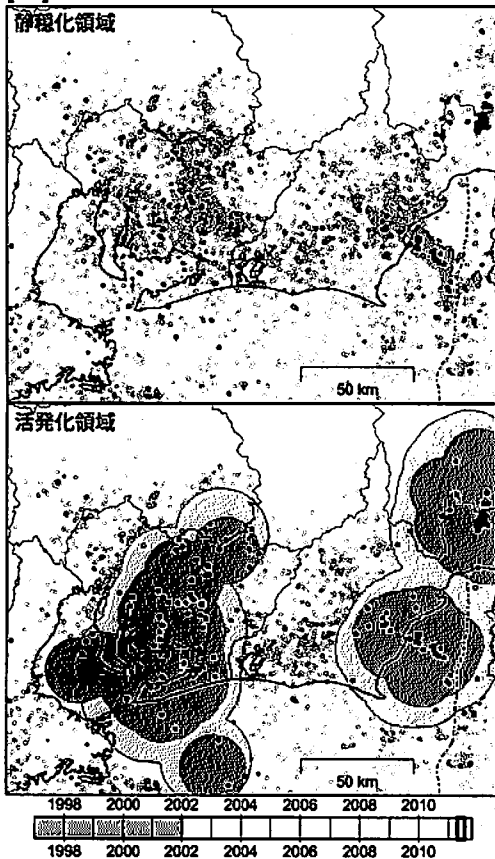
**活発化**  
 ● (点線) : 半径 15.0 km 以内でレベル 8  
 ○ (点線) : 半径 20.0 km 以内でレベル 8

**タイムバー**  
 全体 : 検出領域中心として解析に用いたデータの期間  
 ■ (斜線) : 基準期間  
 □ (白) : 解析対象期間

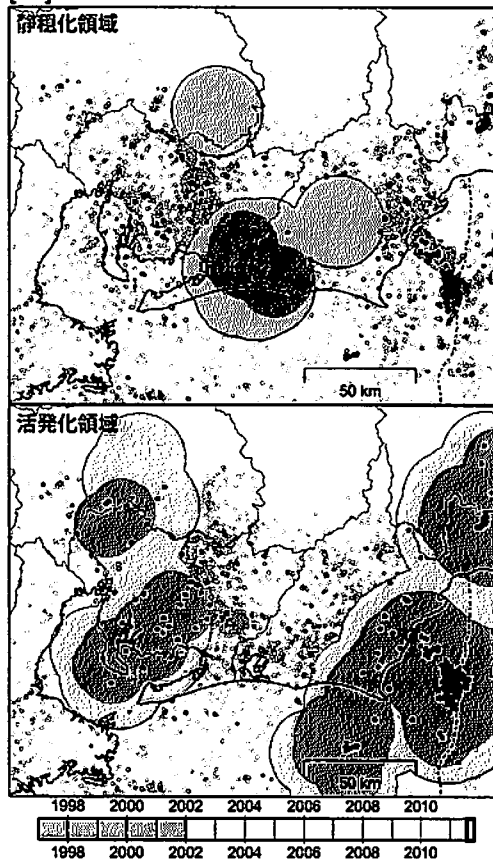
[1] 2011/01/23-2011/04/22



[2] 2011/04/23-2011/07/21



[3] 2011/07/22-2011/10/19



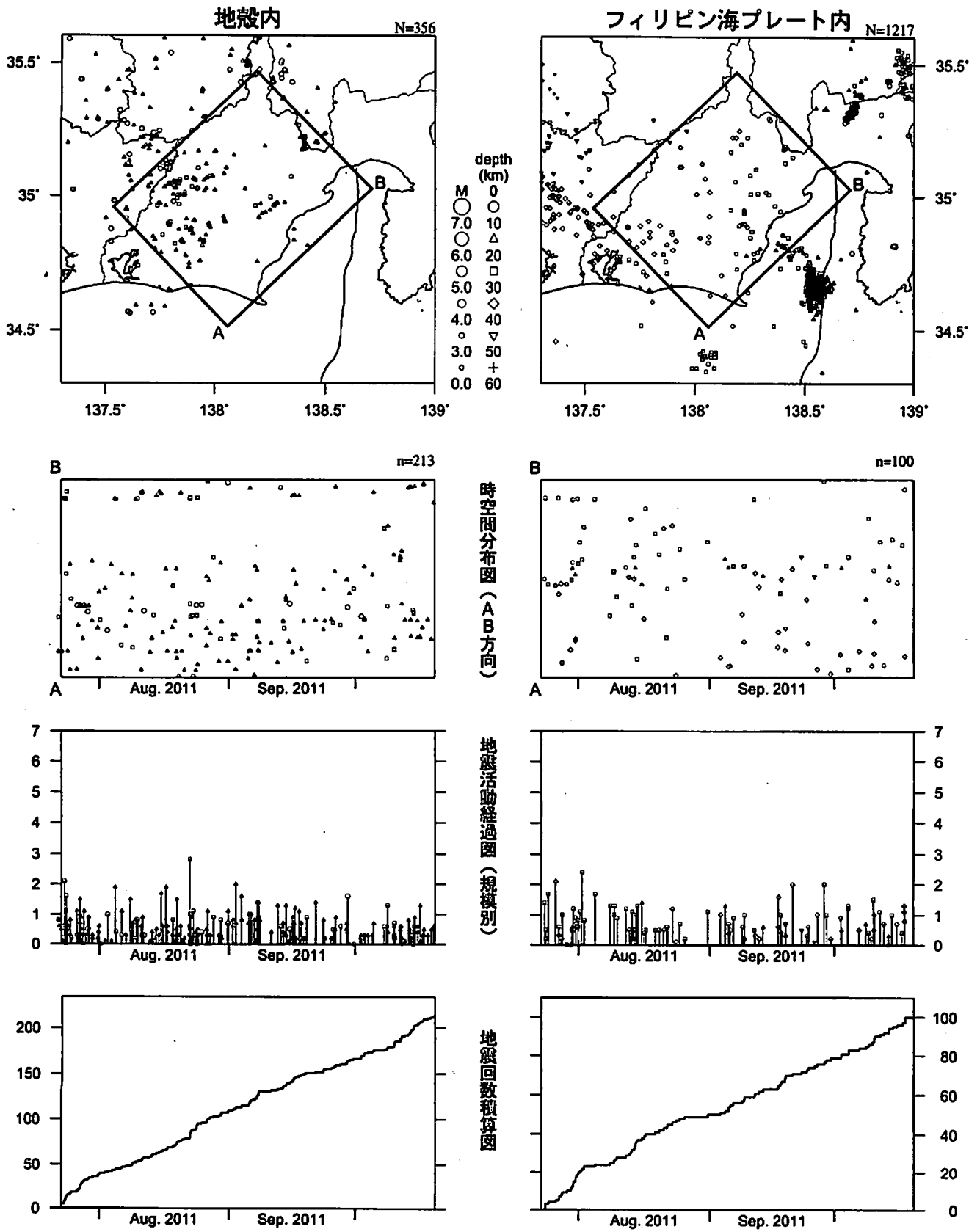
想定震源域周辺では、今期(最新の[3])は静岡県中西部、駿河湾、遠州灘で活発化領域が検出されている。浜名湖周辺、愛知県東部で静穏化領域が検出されている。

気象庁作成



# 静岡県中西部 (最近90日)

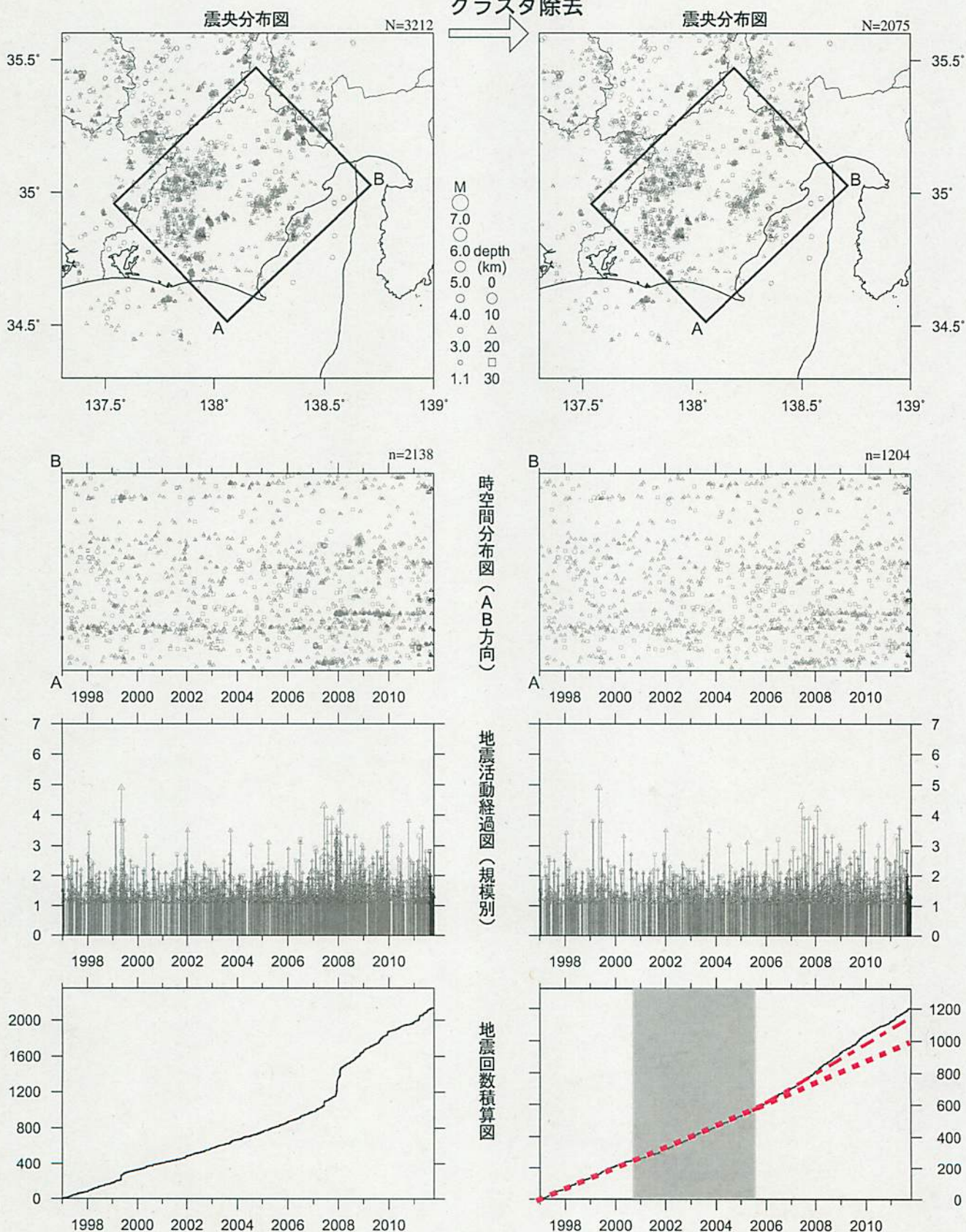
2011/7/22~2011/10/19 M ≥ 0.0 0 ≤ 深さ(km) ≤ 60



# 静岡県中西部（地殻内）

1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1

クラスタ除去



### 最近60日以内の地震を濃く表示

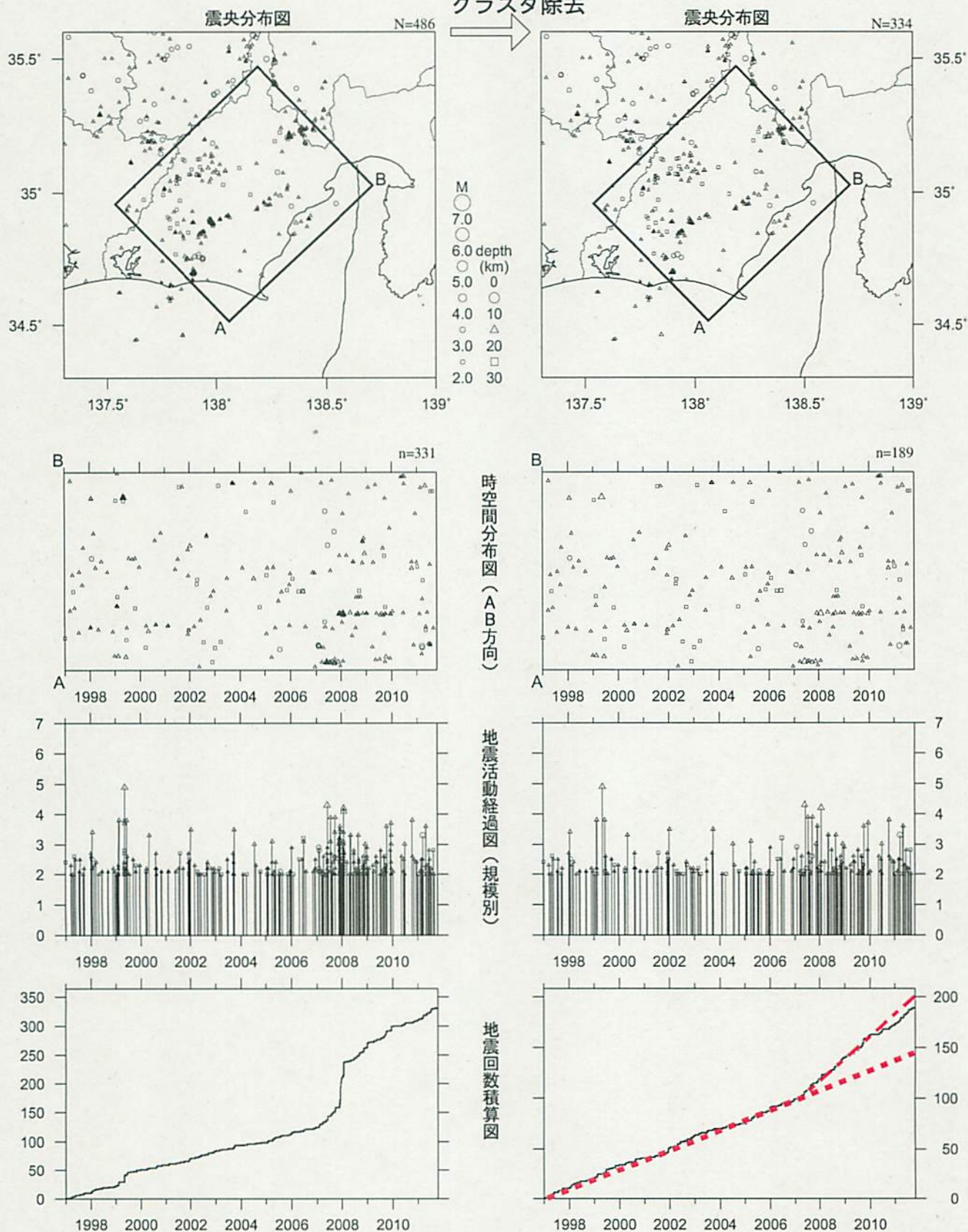
クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急でやや活発、その後2005年半ばまでは傾きが緩やかでやや低調、2005年半ば以降はやや活発、という傾向が見られる。この地震活動変化は、概ね長期的スロースリップの進行(右下図網掛け領域)・停滞の時期に対応している。2007年後半以降はさらに活発な傾向が見られていた。2010年の春頃からは一時的にほぼ平常な状態に推移していたが、現在の地震活動指数は再びやや高い状態である。

気象庁作成



静岡県中西部（地殻内）  
1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 2.0

クラスタ除去

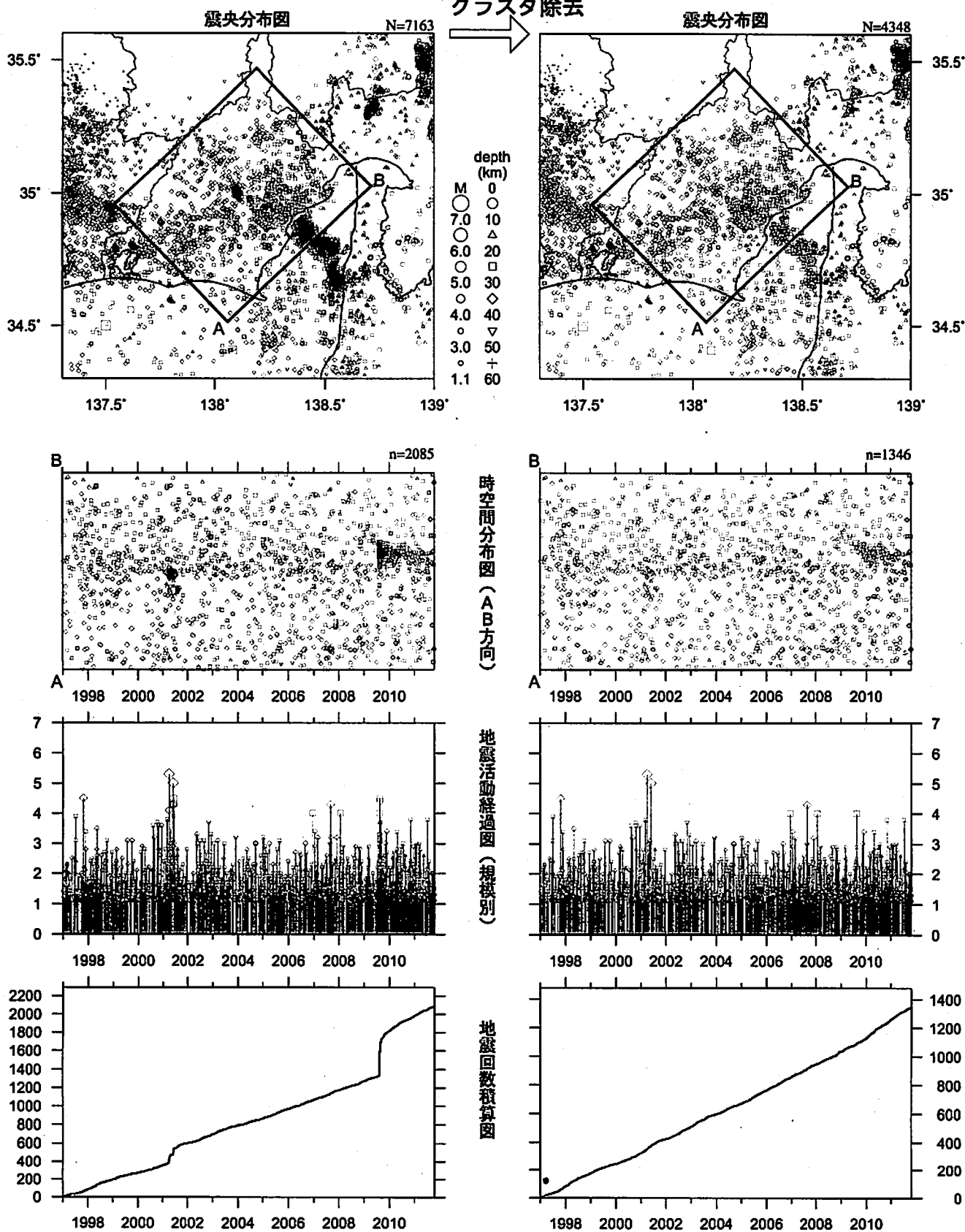


クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2007年に入ってから傾きが急でやや活発な状態を示している。

# 静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1

クラスタ除去

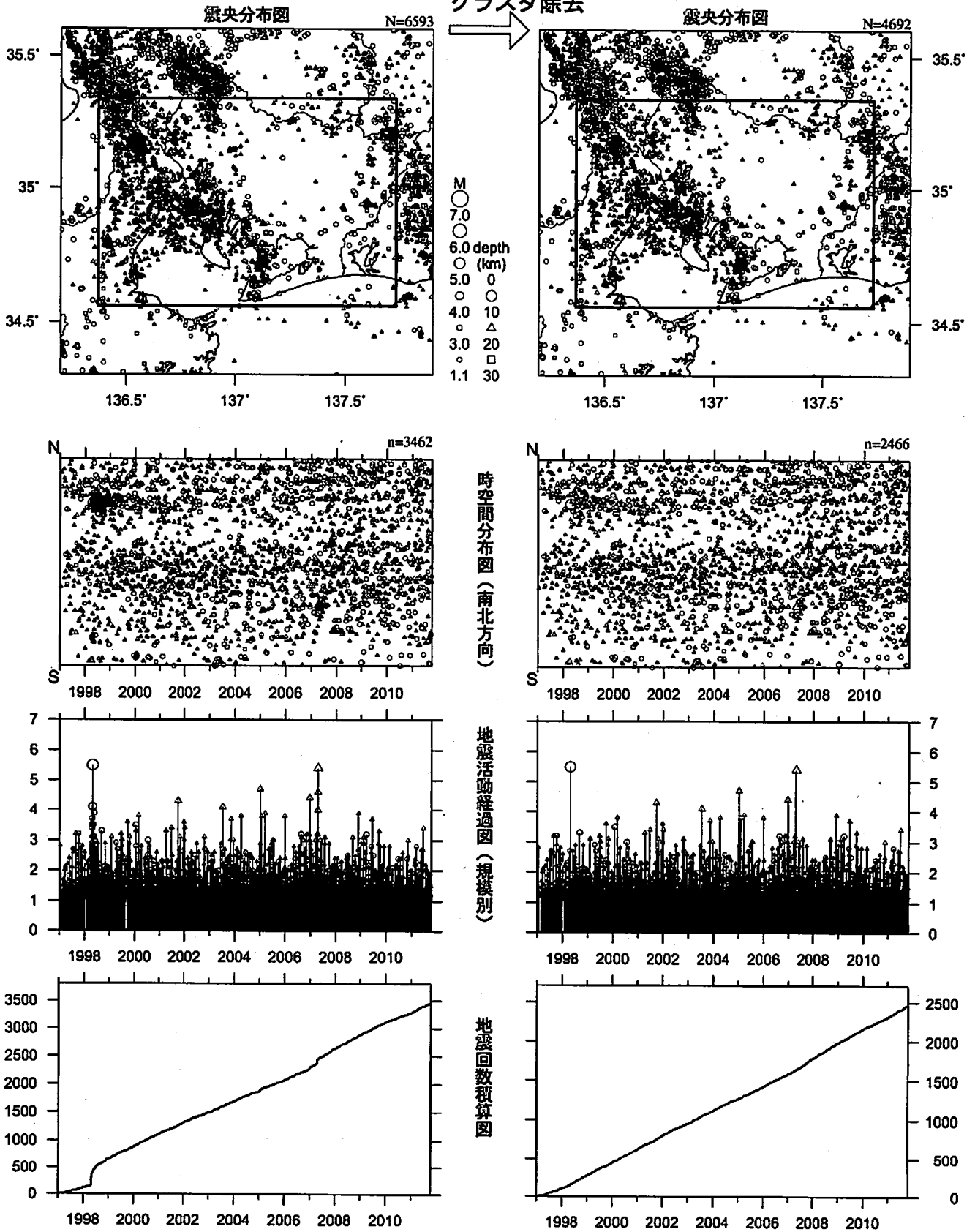


最近60日以内の地震を濃く表示  
 地震活動指数はやや高い状態を示していたが、クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）からも2009年後半からやや活発になっている様子が見られていた。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラス  
 気象庁作成 夕されていないためである。現在の地震活動指数はほぼ平常となっている。

# 愛知県 (地殻内)

1997/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1

クラスタ除去

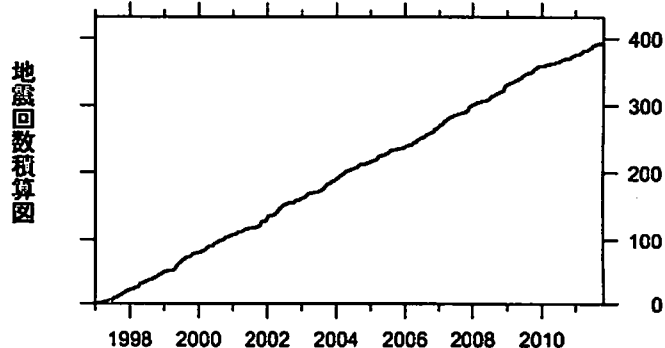
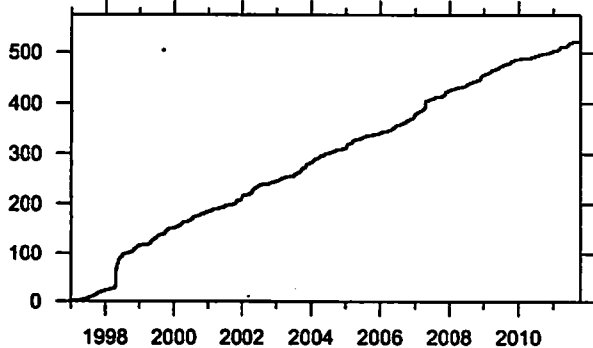
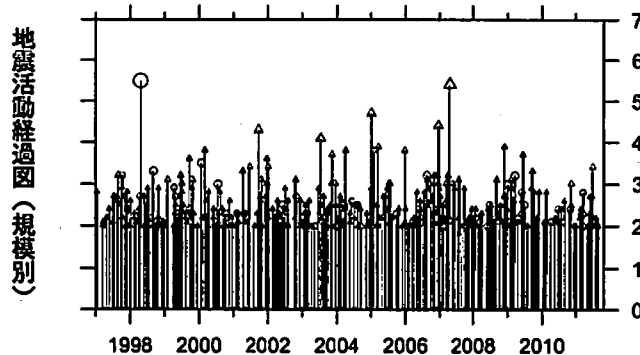
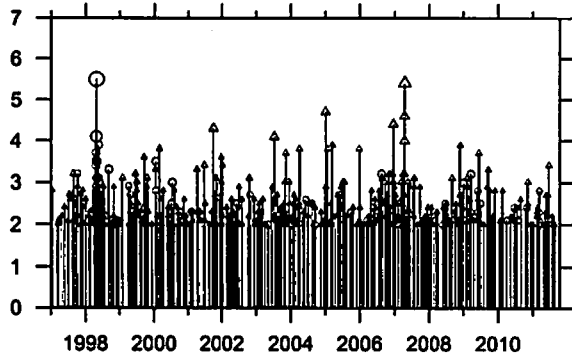
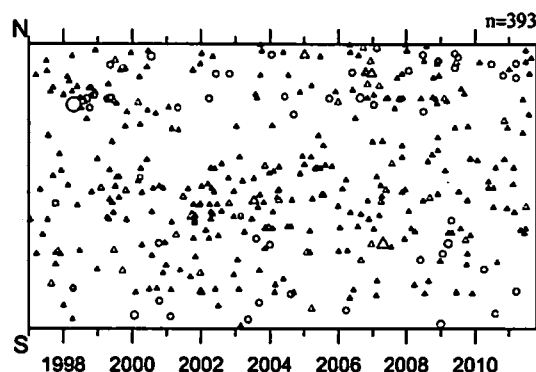
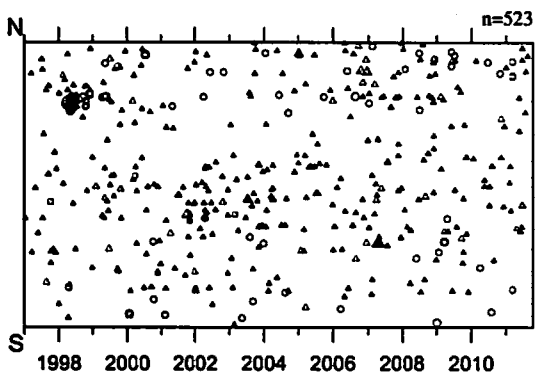
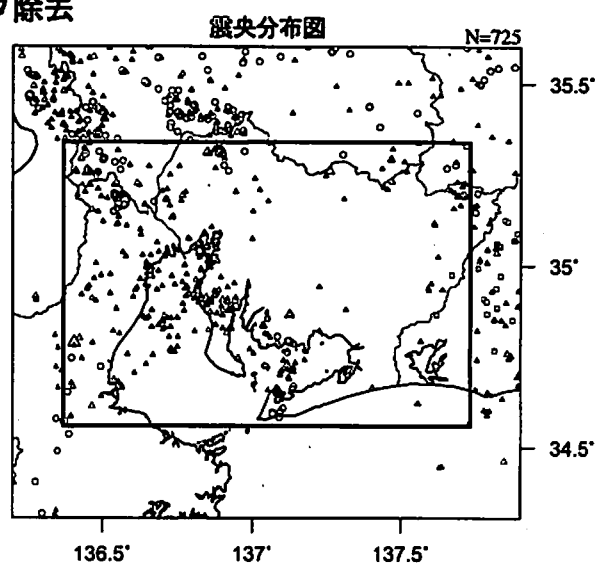
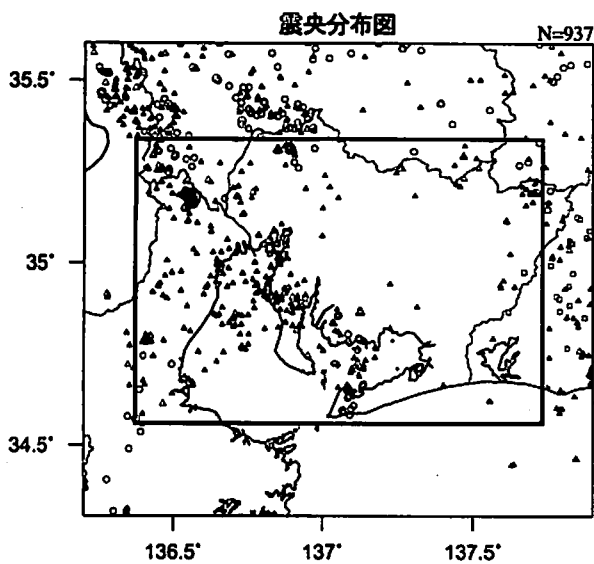


地震活動指数はやや高い状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からは顕著な変化は見られない。

# 愛知県（地殻内）

1997/1/1-2011/10/19 M ≥ 2.0

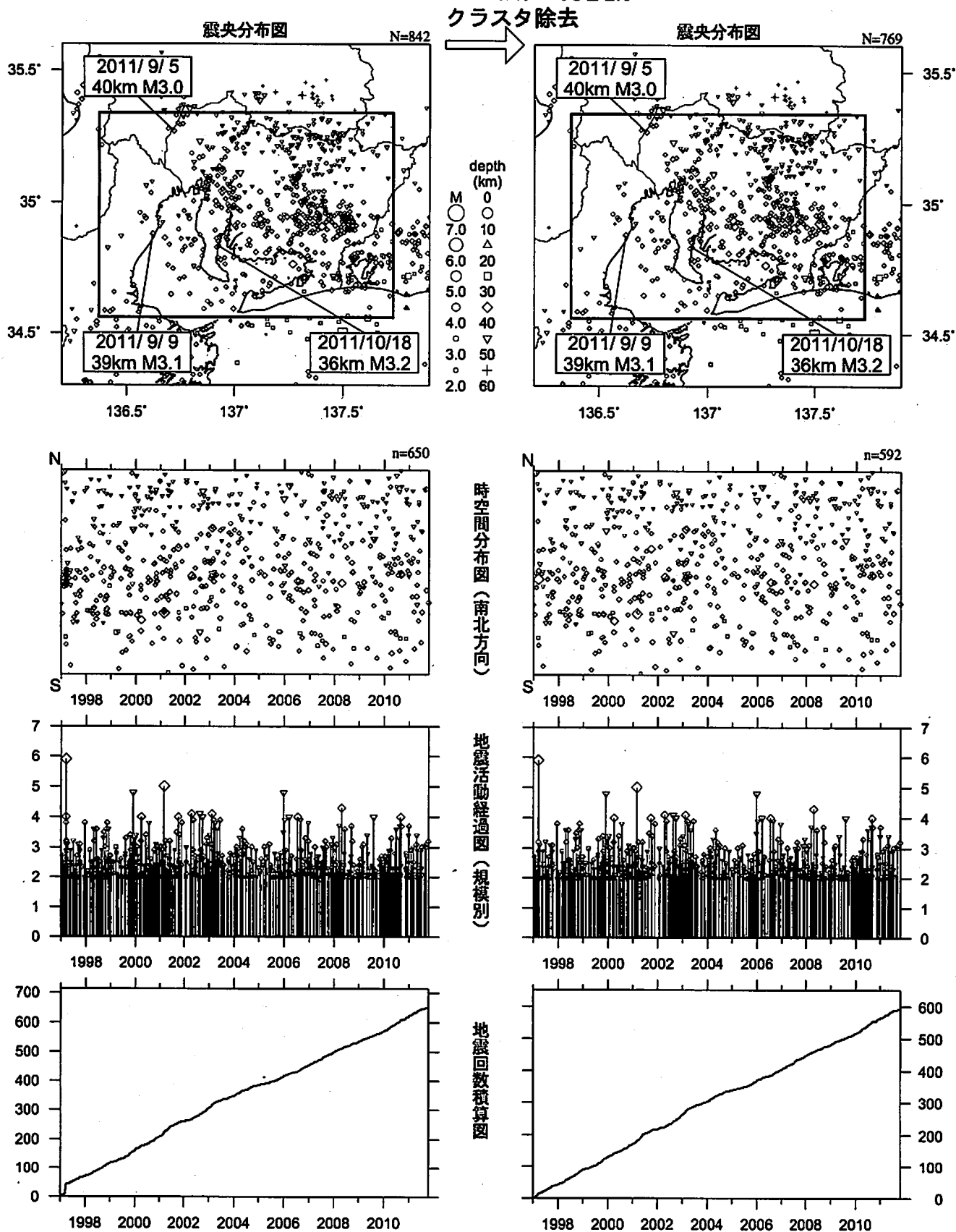
クラスタ除去



地震活動指数はやや低い状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からは2009年終わり頃から地震活動がやや静穏な状態になっているように見える。

# 愛知県 (フィリピン海プレート内)

1997/1/1~2011/10/19 M $\geq$ 2.0



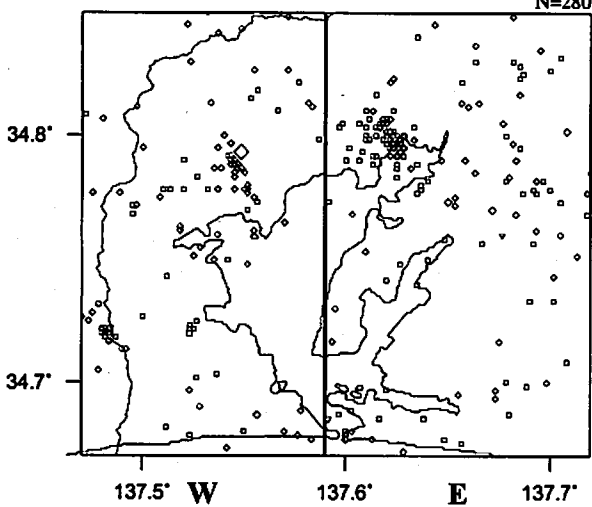
\*吹き出しは最近60日以内、M $\geq$ 3.0

地震活動指数はやや低い状態を示しているが、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも2011年中頃からやや静穏になっている様子が見られる。このような状態は、2004年から2005年にかけてなど、度々見られる。

# 浜名湖周辺 (フィリピン海プレート内)

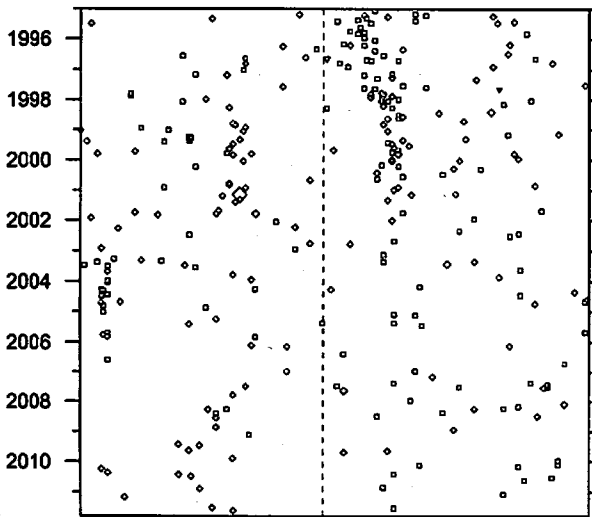
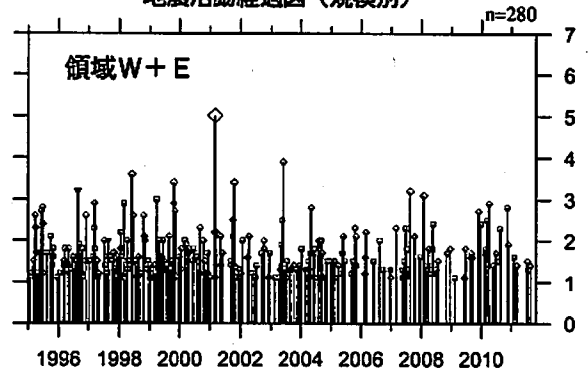
1995/1/1~2011/10/19 M ≥ 1.1 \* クラスタ除去したデータ

震央分布図



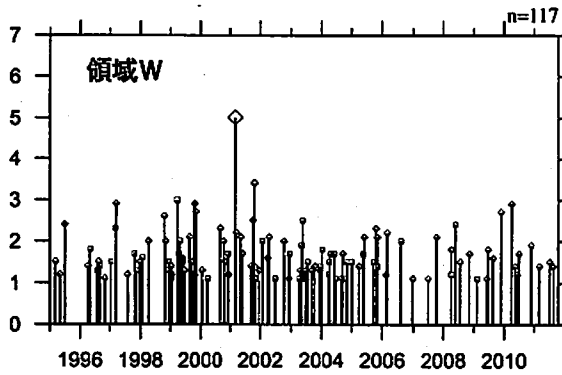
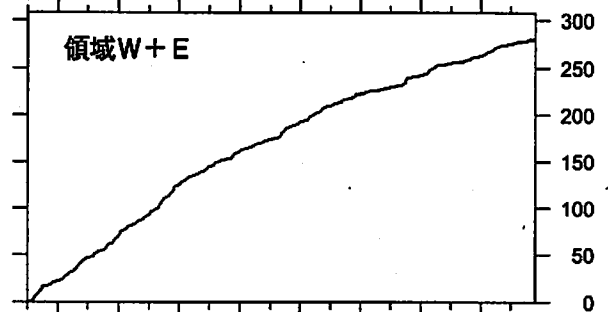
depth (km)  
 M ○ 0  
 □ 10  
 △ 20  
 ◇ 30  
 ▽ 40  
 + 50  
 × 60

地震活動経過図 (規模別)

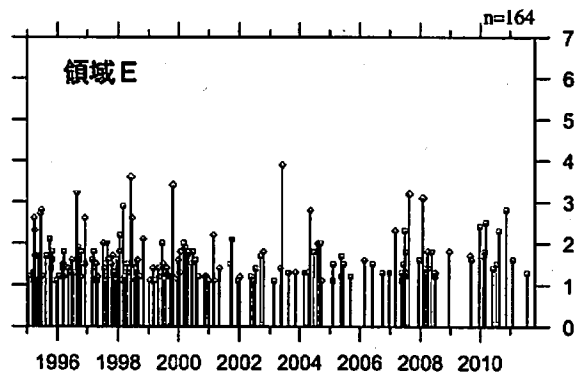


時空間分布図 (東西方向)

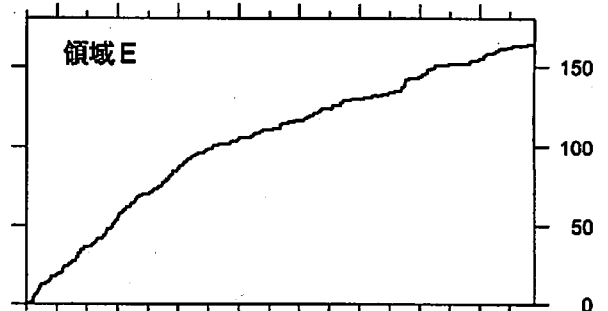
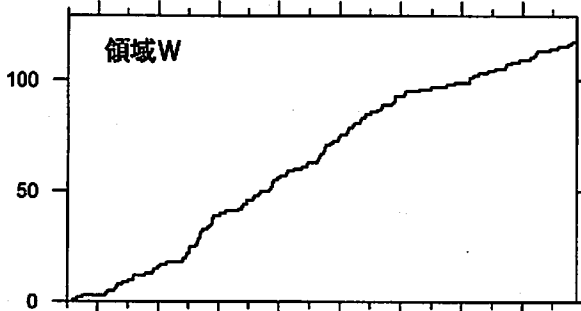
地震回数積算図



地震活動経過図 (規模別)



地震回数積算図



[東側] 地震回数積算図 (右下図) を見ると、地震活動は2000年以降やや低調。  
 [西側] 地震回数積算図 (左下図) を見ると、2006年以降やや低調。



# 9月～10月 伊豆東部※の活動

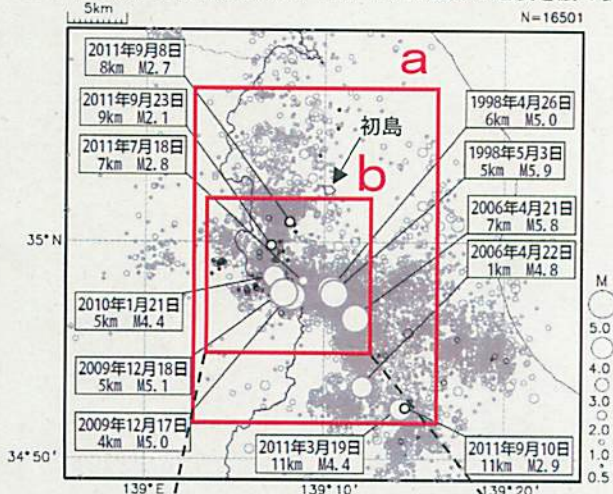
※ 「伊豆東部の地震活動に関する情報」で対象としている領域

9月18日夜から伊豆東部で地震活動が活発となり、9月23日16時00分にはM2.1の地震（震度1以上の観測なし）が発生した。この活動は9月24日以降収まっており、これ以外に特に目立った活動はなかった。

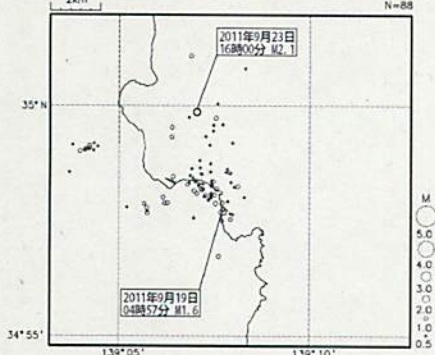
9月末以降、伊豆東部の体積ひずみ計（東伊豆奈良本）及び傾斜計（伊東猪山、岡、徳永、吉田）では、目立った変化は観測されていない。

震央分布図（1997年10月1日～2011年10月19日、 $M \geq 0.5$ 、深さ0～20km）

2011年8月までの地震を薄く、2011年9月以降の地震を濃く表示。



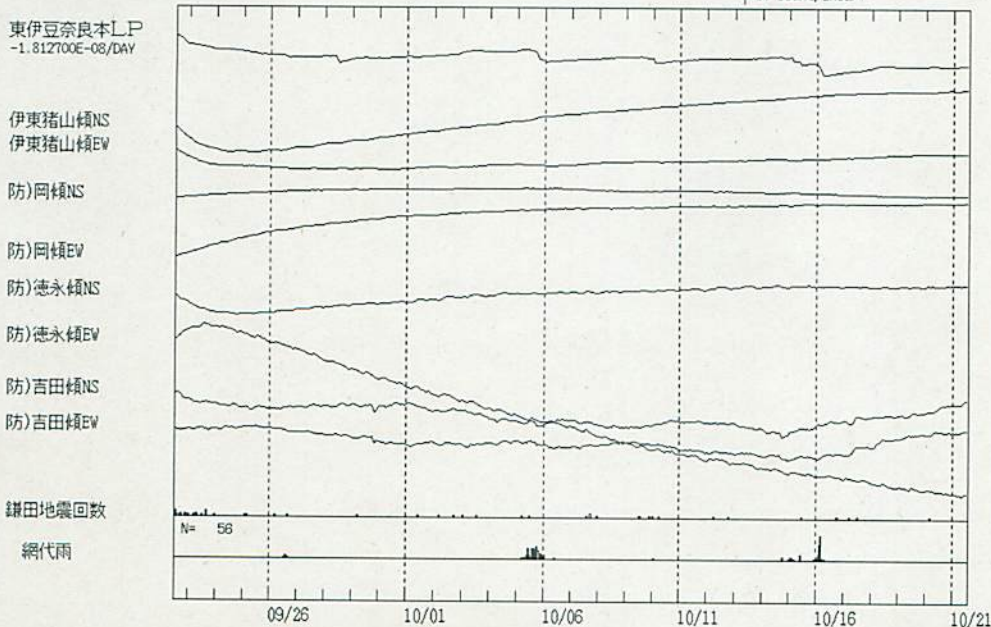
領域b内の拡大図（2011年9月18日～10月19日）



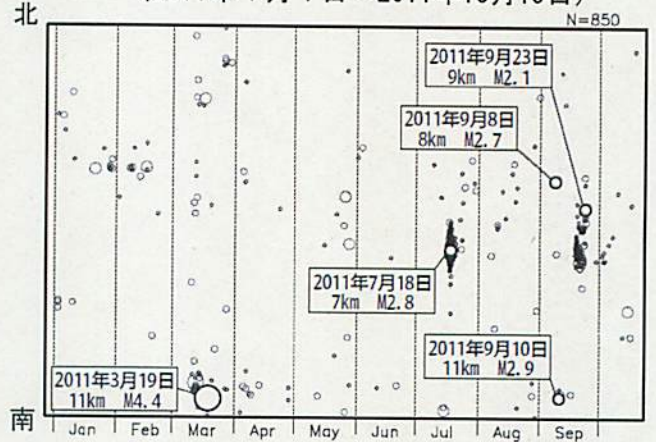
東伊豆地域の体積ひずみ計・傾斜計の記録  
（2011年9月22日12時～10月21日13時）

体積ひずみ・傾斜（気圧・潮汐補正;時間値）伊豆東部  
2011/09/22 12:00 - 2011/10/21 13:00

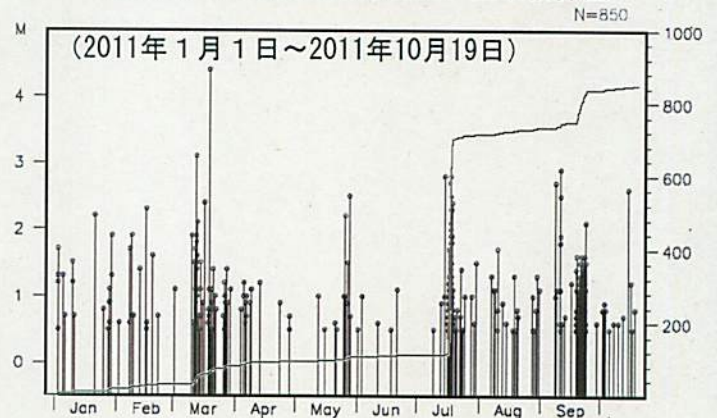
EXP. NEup ↑ 1.0E-07 strain 30 hPa  
1.0E-06 radian 30 mm/hour  
0.5 degree  
50 count/hour



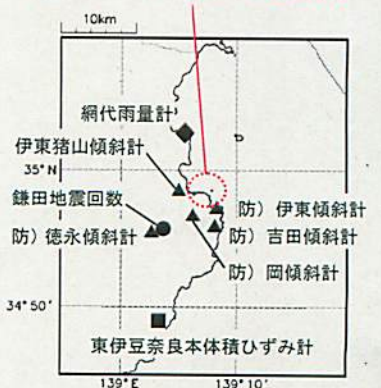
領域a内の時空間分布図（南北投影）  
（2011年1月1日～2011年10月19日）



領域a内の地震活動経過図、回数積算図



今回（2011年9月）の活動領域



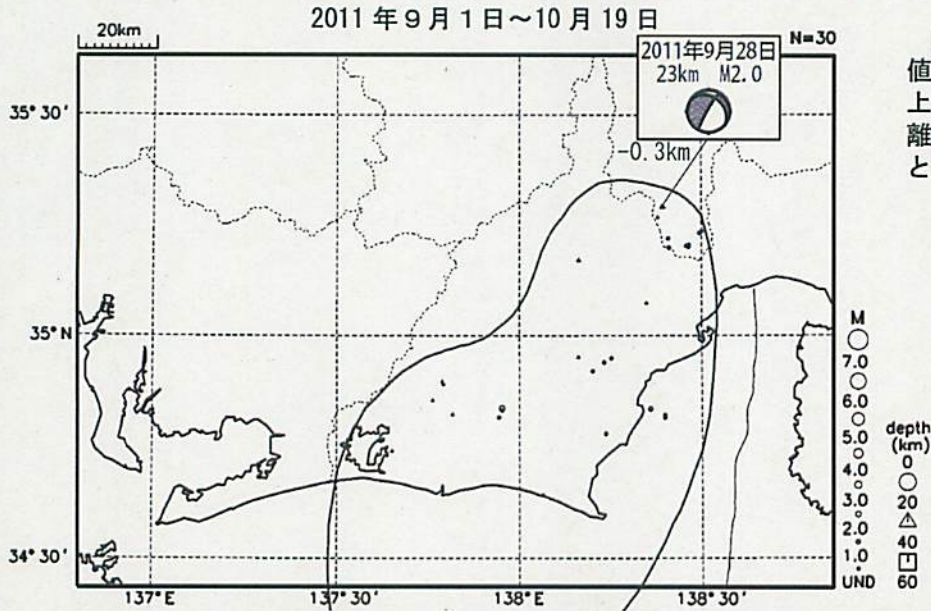
防)は独立行政法人防災科学技術研究所の観測点である。



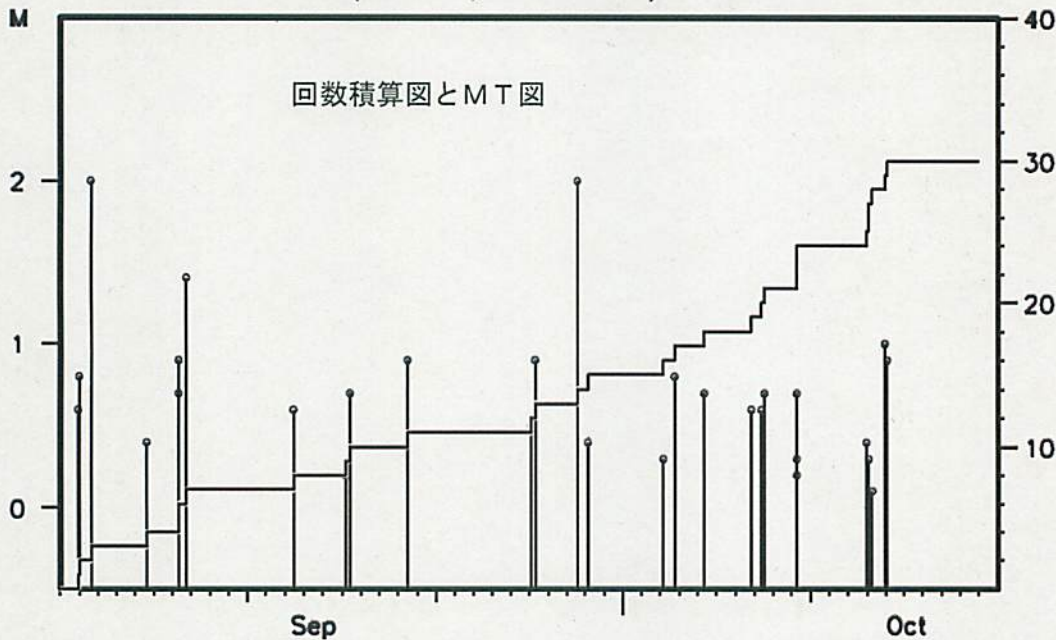
# プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海スラブ上面深さの±3kmの地震を抽出)

プレート境界とその周辺の地震の震央分布(最近約1ヶ月半、Mすべて)

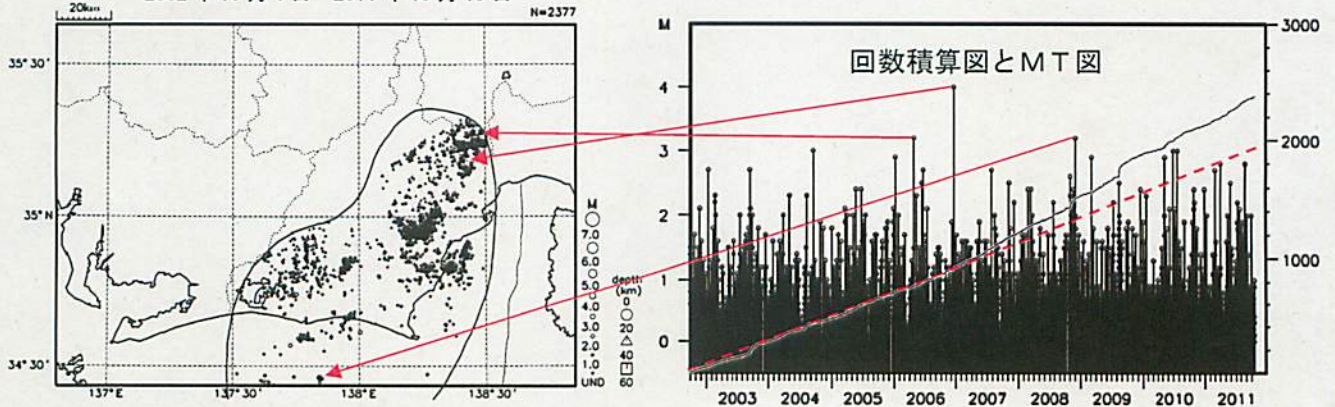


吹き出しの傍に書かれた値は、フィリピン海スラブ上面からの鉛直方向の距離。+は浅く、-は深いことを示す。



プレート境界とその周辺の地震の震央分布(2002年10月以降、Mすべて)

2002年10月1日~2011年10月19日

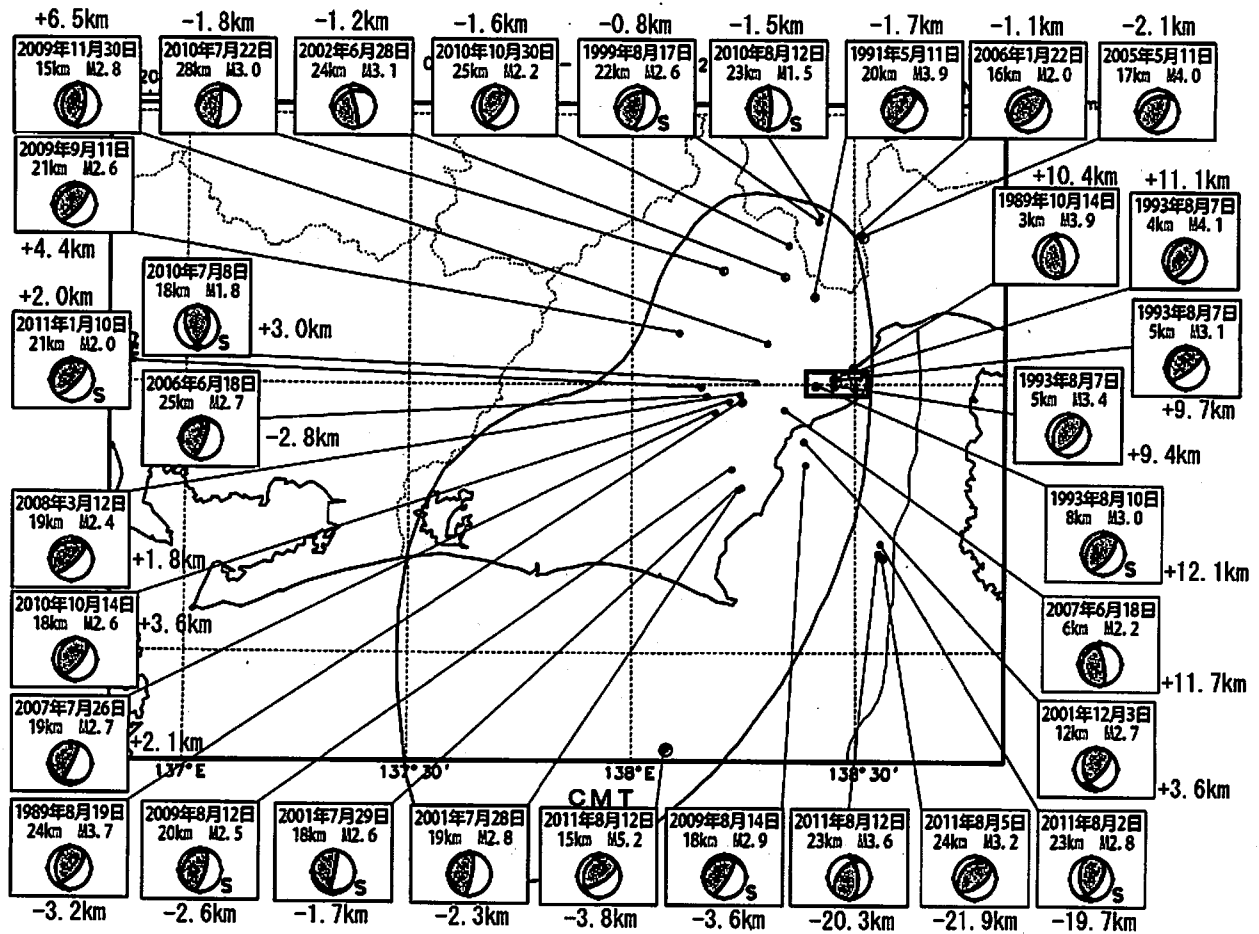


2002年10月以降(Mすべて)で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震(M6.5)の余震活動の一部を抽出している。M3を超える地震については、その震央を矢印で示しているが、これらの地震の発震機構解は想定東海地震のものとは類似の型ではない。

気象庁作成

# 想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

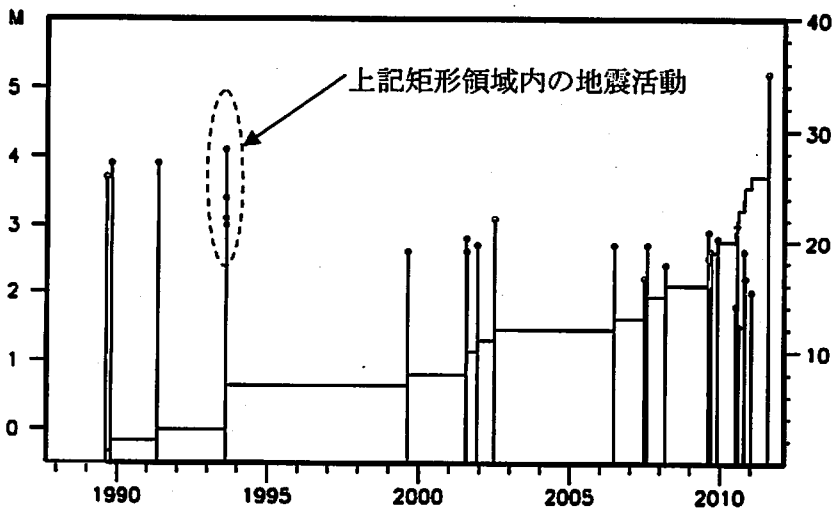
1987年9月1日～2011年10月19日



想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、P軸の傾斜角が45度以下、かつP軸の方位角が65度以上145度以下、かつT軸の傾斜角が45度以上、かつN軸の傾斜角が30度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内またはスラブ内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008)の3次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りにSの表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



上記イベントの、想定震源域内における地震活動経過図と回数積算図。

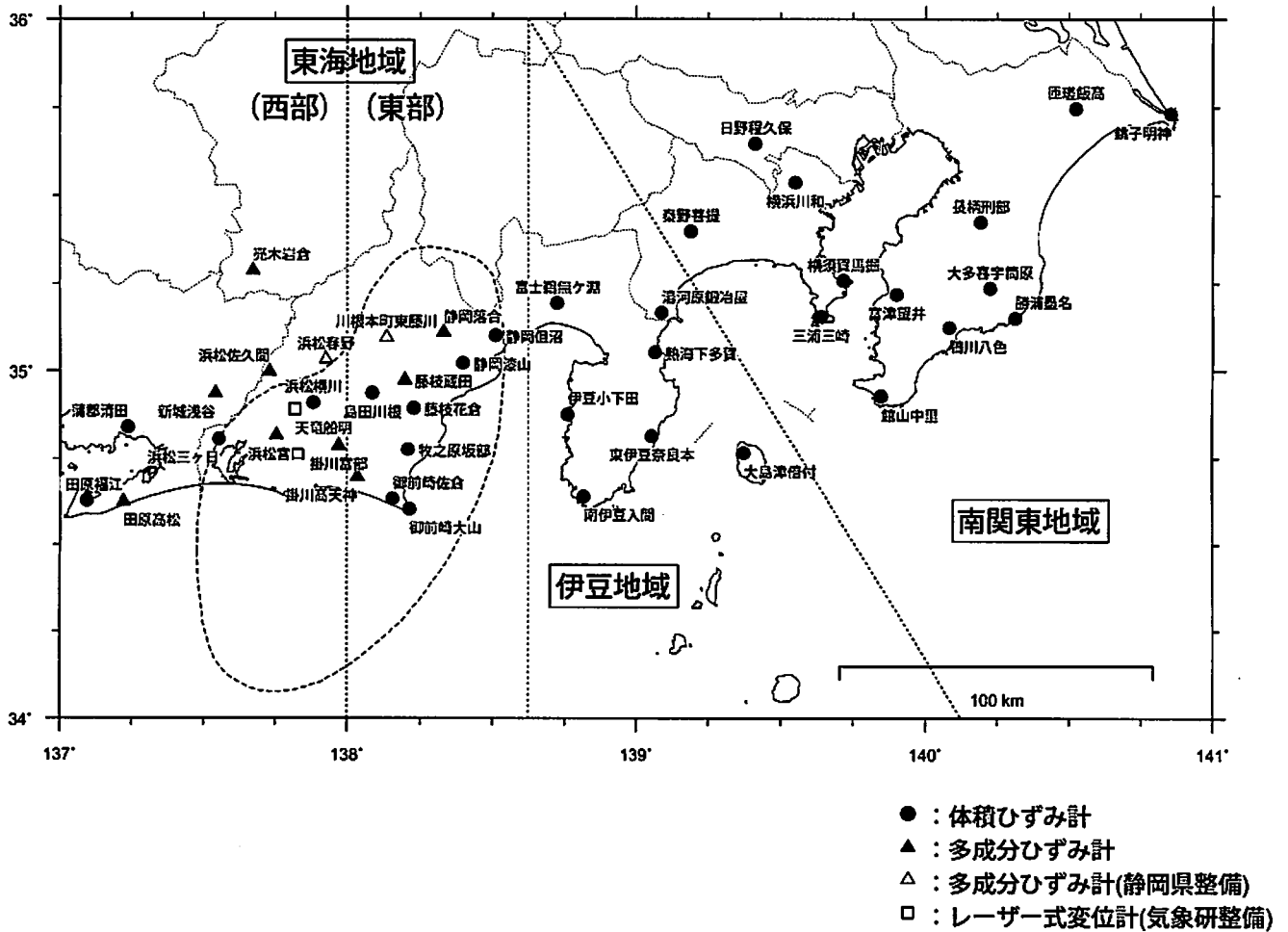
気象庁作成

## ひずみ計による観測結果 (2011年4月1日～2011年10月20日)

短期的ゆっくり滑りに起因すると見られる次の地殻変動がひずみ計観測網で観測された。

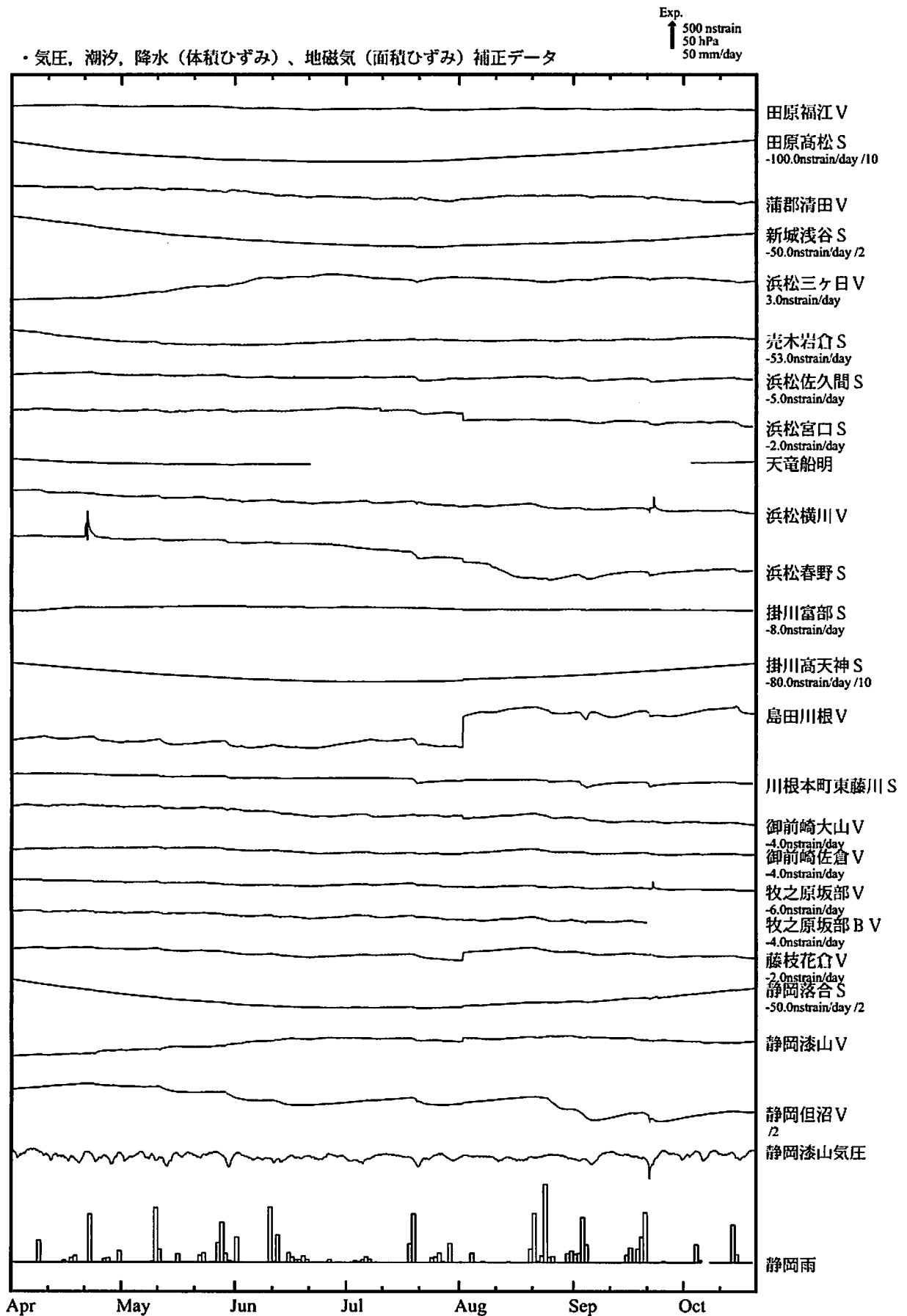
- SSE1 : 2011年7月26日頃から8月1日頃にかけて観測された。(第304回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
- SSE2 : 2011年8月20日頃から22日頃にかけて観測された。(第304回地震防災対策強化地域判定会資料参照)

ひずみ計の配置図

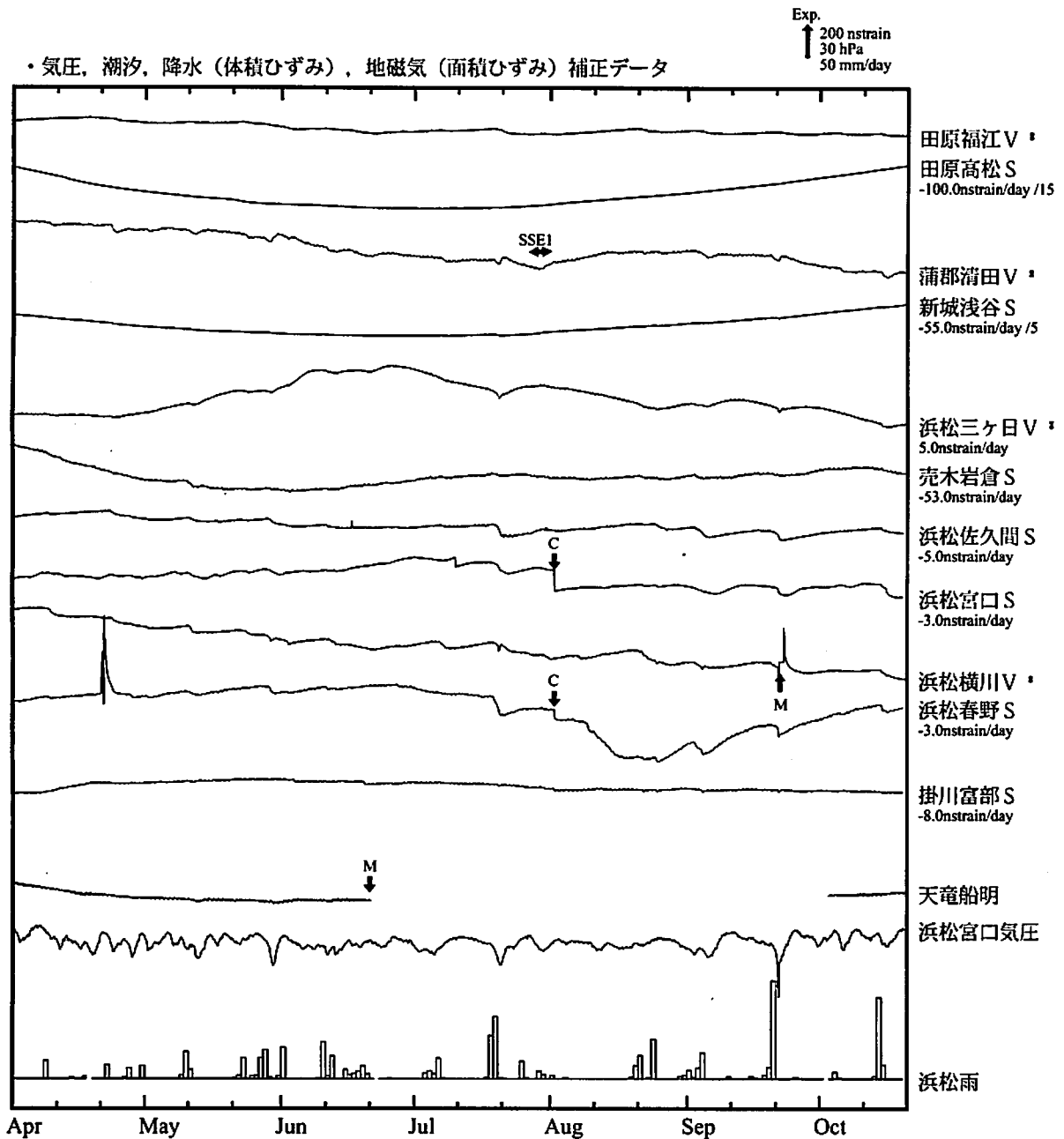


気象庁作成

# ひずみ変化 時間値 (東海地域)



# ひずみ変化 時間値 (東海地域 (西部))



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

※天竜船明(気象研究所整備)は、レーザー式変位計におけるひずみ変化を示す。

SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01

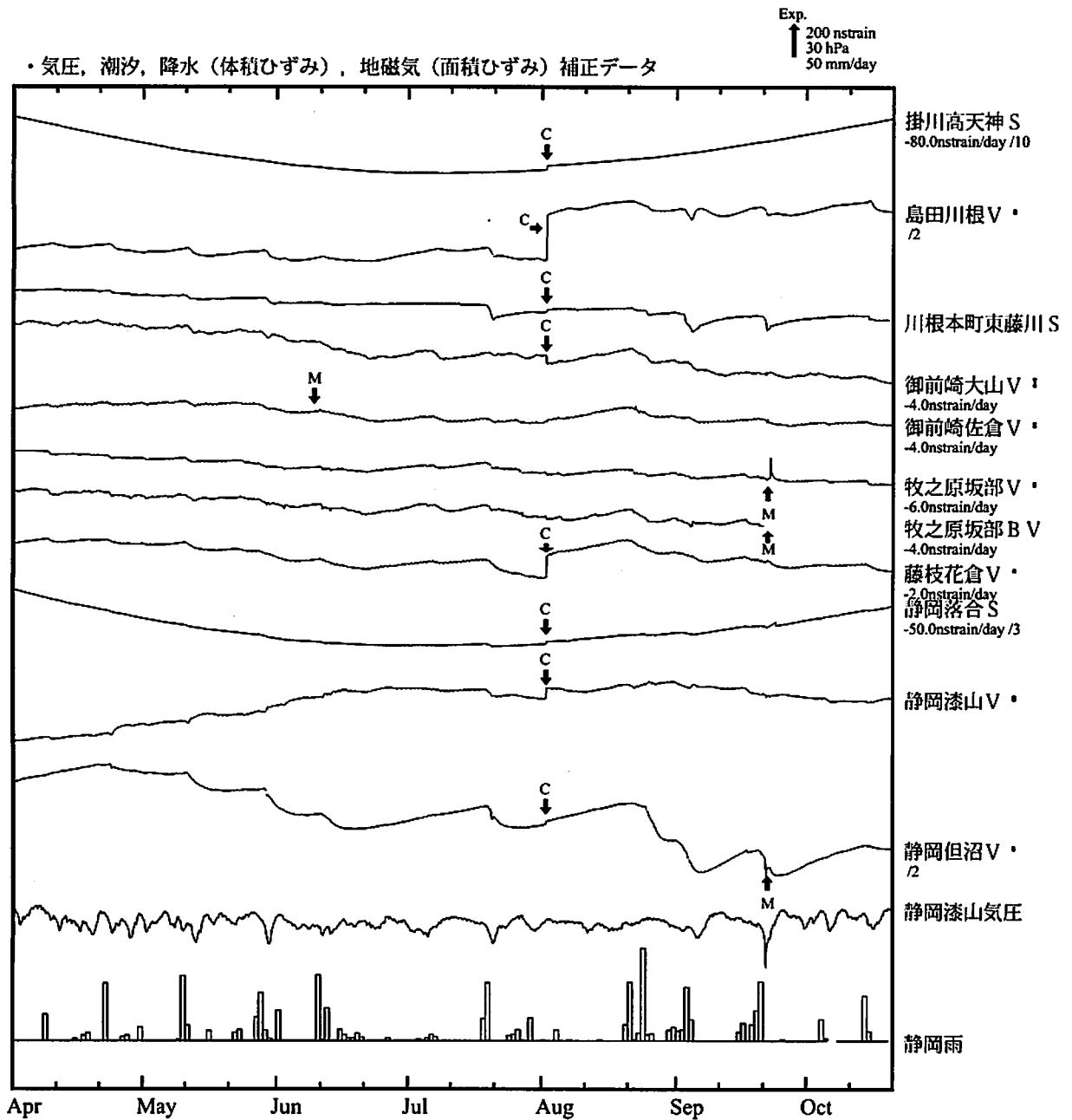
## 表示観測点の名称

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

田原福江	たはらふくえ
田原高松	たはらたかまつ
蒲郡清田	がまごおりせいだ
新城浅谷	しんしろあさや
浜松三ヶ日	はまつみっかび
売木岩倉	うるぎいわくら
浜松佐久間	はまつさくま
浜松宮口	はまつみやぐち
浜松横川	はまつよこかわ
浜松春野	はまつはるの
掛川富部	かけがわとんべ
天竜船明	てんりゅうふなぎら

気象庁作成

# ひずみ変化 時間値 (東海地域 (東部))



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。  
 ※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

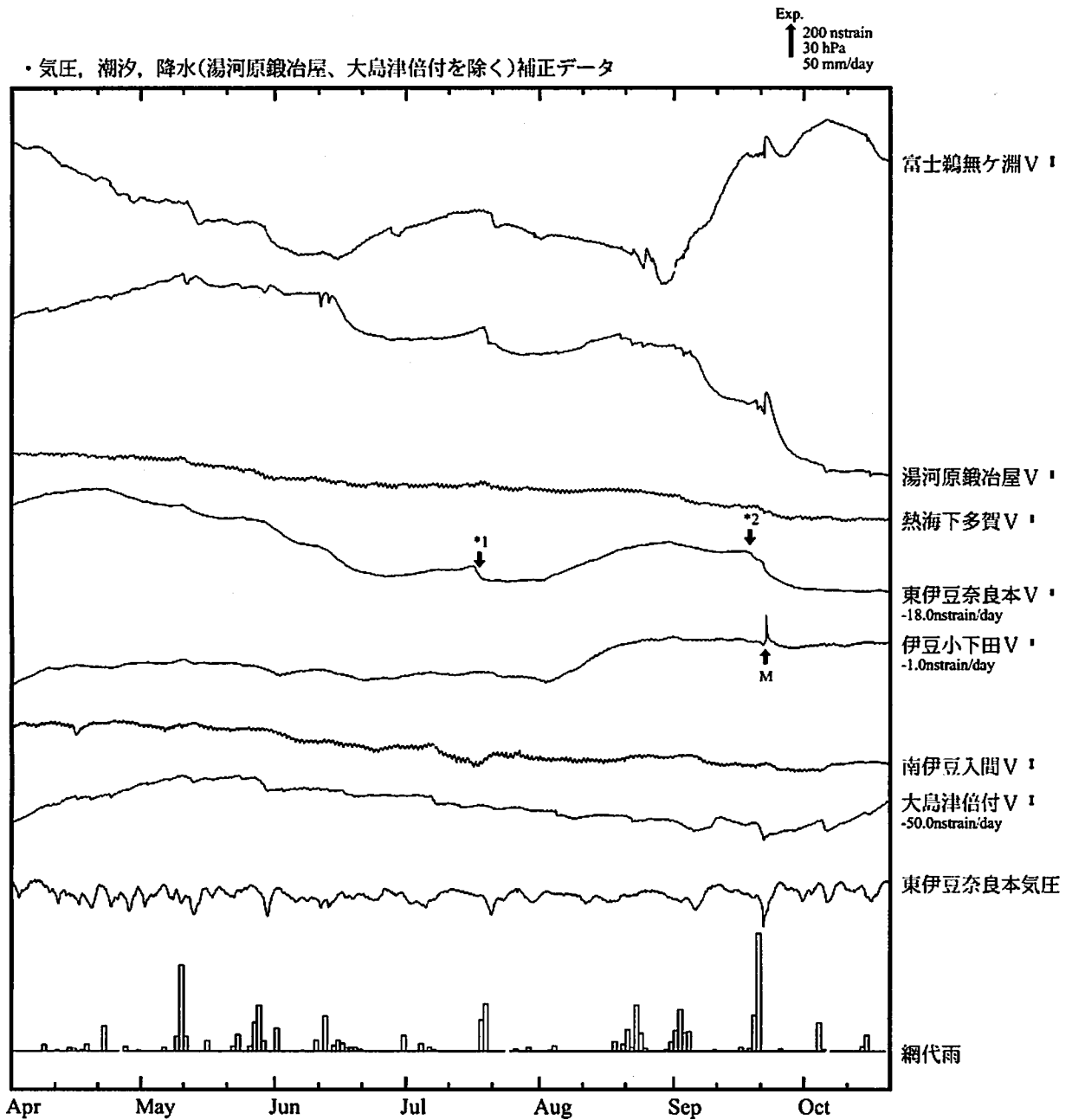
## 表示観測点の名称

掛川高天神	かけがわたかてんじん
島田川根	しまだかわね
川根本町東藤川	かわねほんちょう
	ひがしふじかわ
御前崎大山	おまえざきおおやま
御前崎佐倉	おまえざきさくら
牧之原坂部	まきのはらさかべ
藤枝花倉	ふじえだはなくら
静岡落合	しずおかおちあい
静岡漆山	しずおかうるしやま
静岡但沼	しずおかただぬま

気象庁作成



# ひずみ変化 時間値 (伊豆地域)



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- ・7月中旬に伊豆東部の地震活動に伴う変化が見られた(図中\*1)。
- ・9月中旬に伊豆東部の地震活動に伴う変化が見られた(図中\*2)。

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

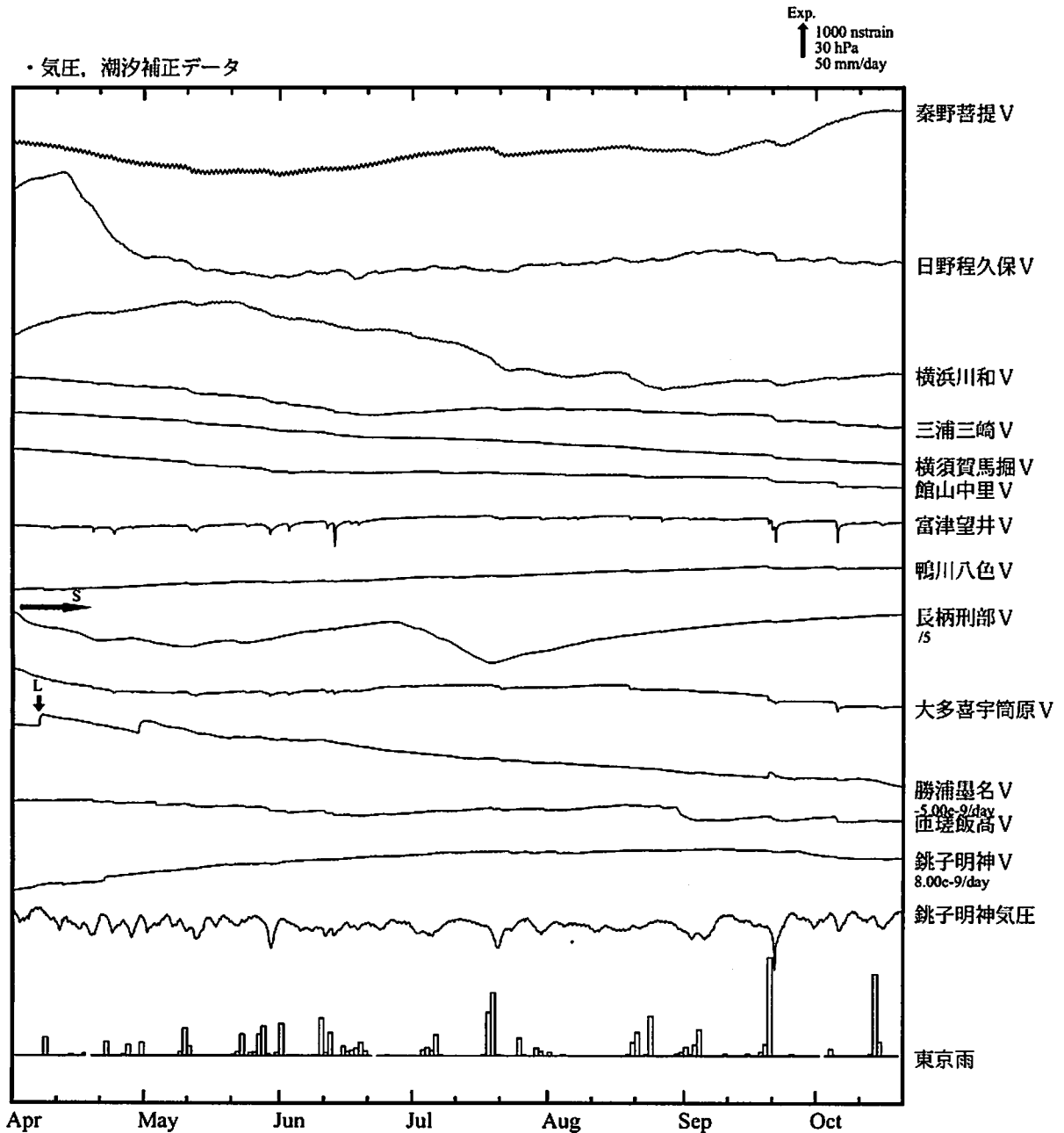
## 表示観測点の名称

富士鶴無ヶ淵	ふじうないがふち
湯河原鍛冶屋	ゆがわらかじや
熱海下多賀	あたみしもたが
東伊豆奈良本	ひがしいずならもと
伊豆小下田	いずこしもだ
南伊豆入間	みなみいづるま
大島津倍付	おおしまつばいつき

気象庁作成



# ひずみ変化 時間値 (南関東地域)



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

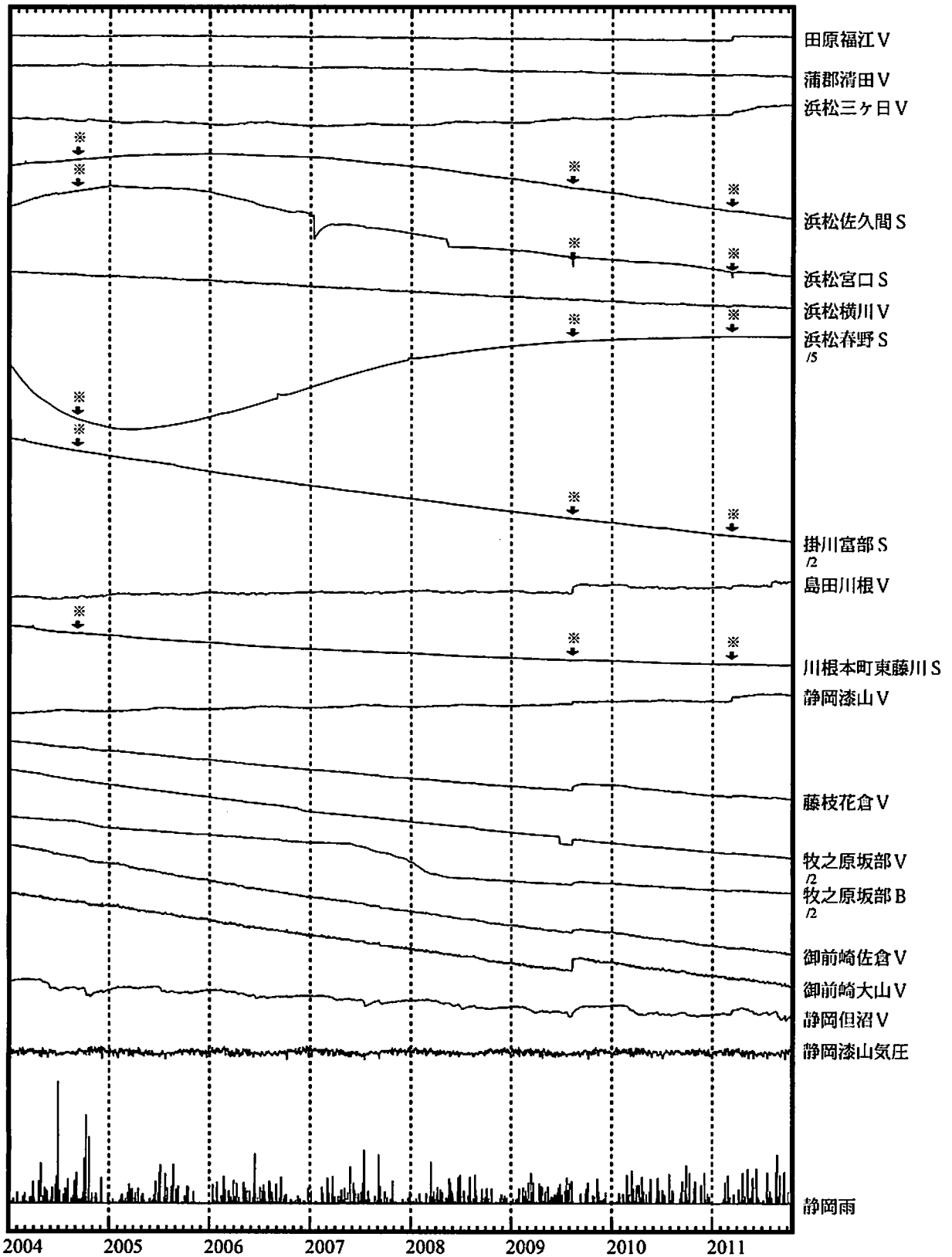
## 表示観測点の名称

秦野菩提	はだのぼだい
日野程久保	ひのほどくぼ
横浜川和	よこはまかわわ
三浦三崎	みうらみさき
横須賀馬堀	よこすかまぼり
館山中里	たてやまなかざと
富津望井	ふつつもちい
鴨川八色	かもがわやいろ
長柄刑部	ながらおさかべ
大多喜宇筒原	おおたきうとうぼら
勝浦墨名	かつうらとな
匝瑳飯高	そうさいいだか
銚子明神	ちょうしみょうじん

気象庁作成

ひずみ変化 日平均値 (東海地域)

↑ 5000 nstrain  
100 hPa  
100 mm

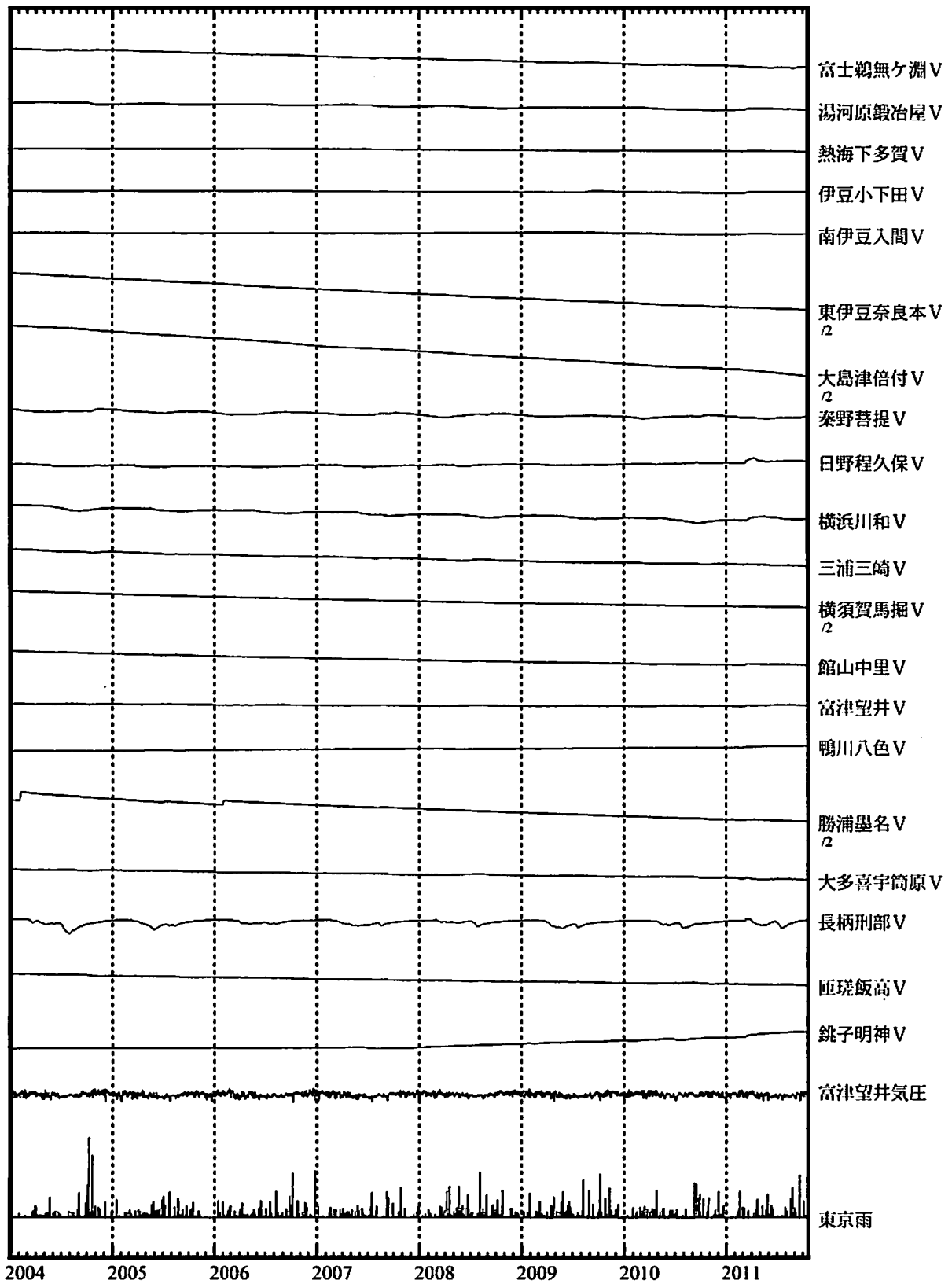


※面積ひずみは、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除外して計算している。

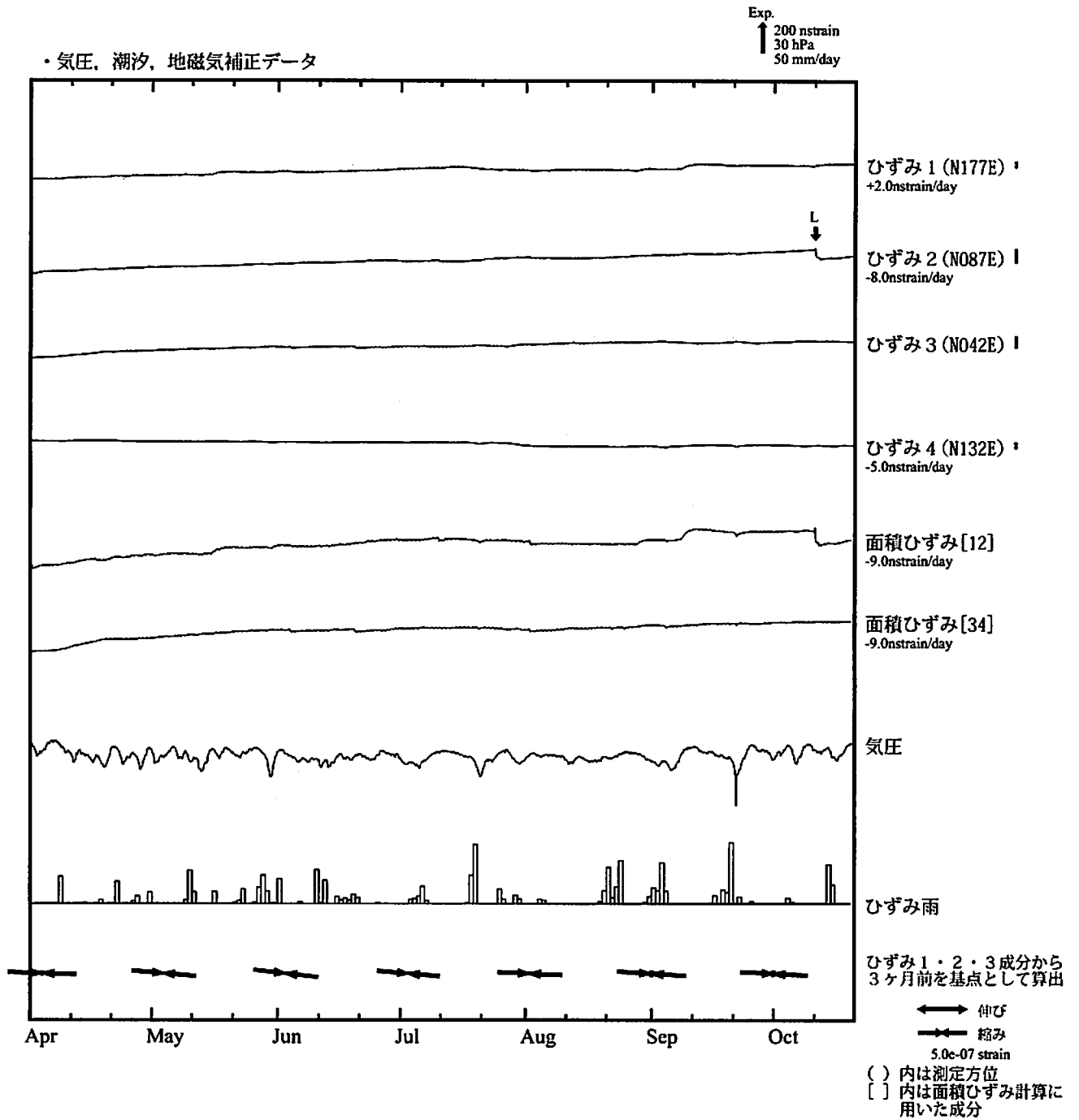
気象庁作成

ひずみ変化 日平均値 (伊豆・南関東)

↑ 30000 nstrain  
100 hPa  
100 mm

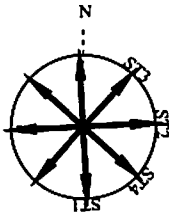


# 掛川富部 (かけがわとんべ) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

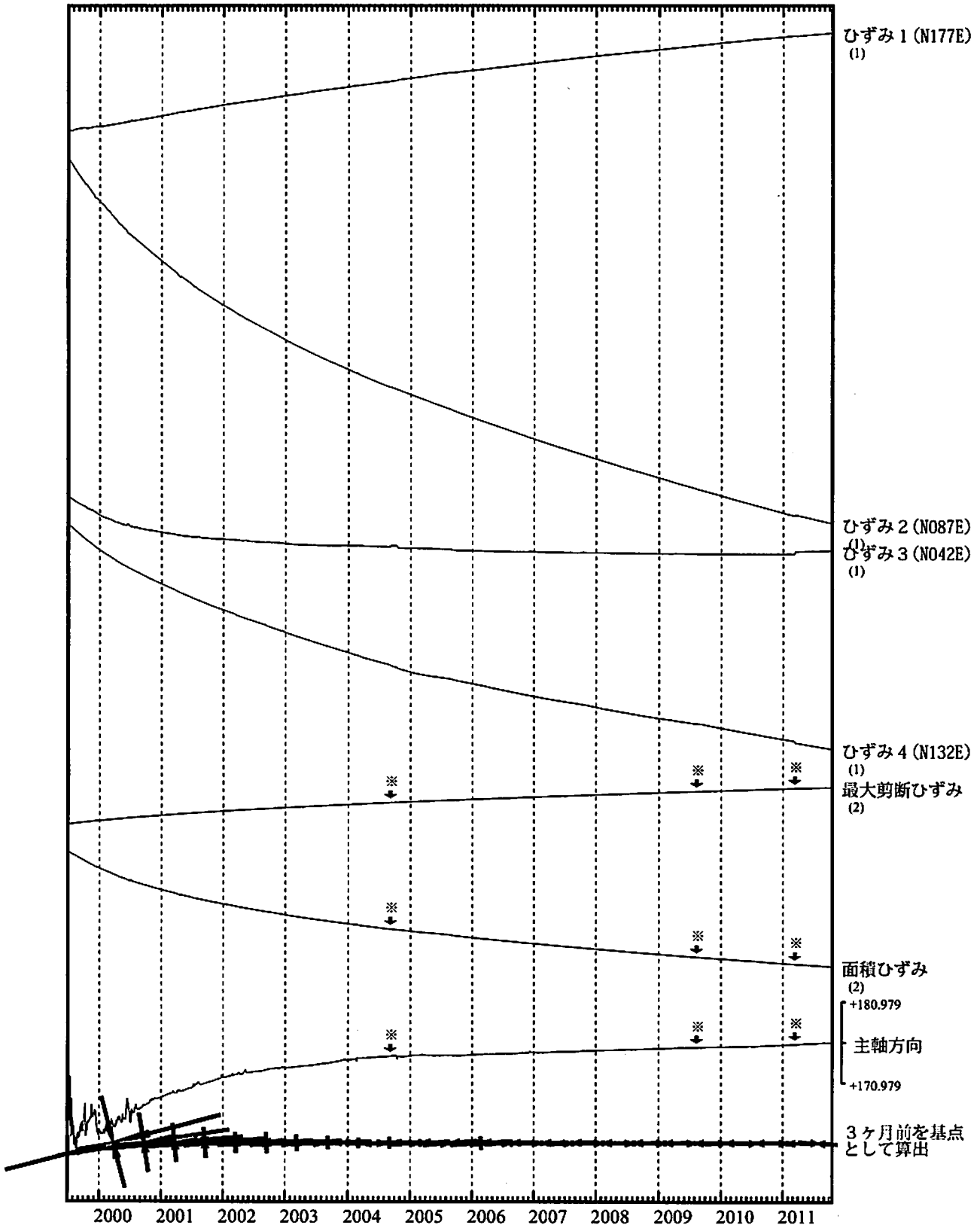


- C : 地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 掛川富部ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.  
↑ 5000 nstrain (1)  
20000 nstrain (2)



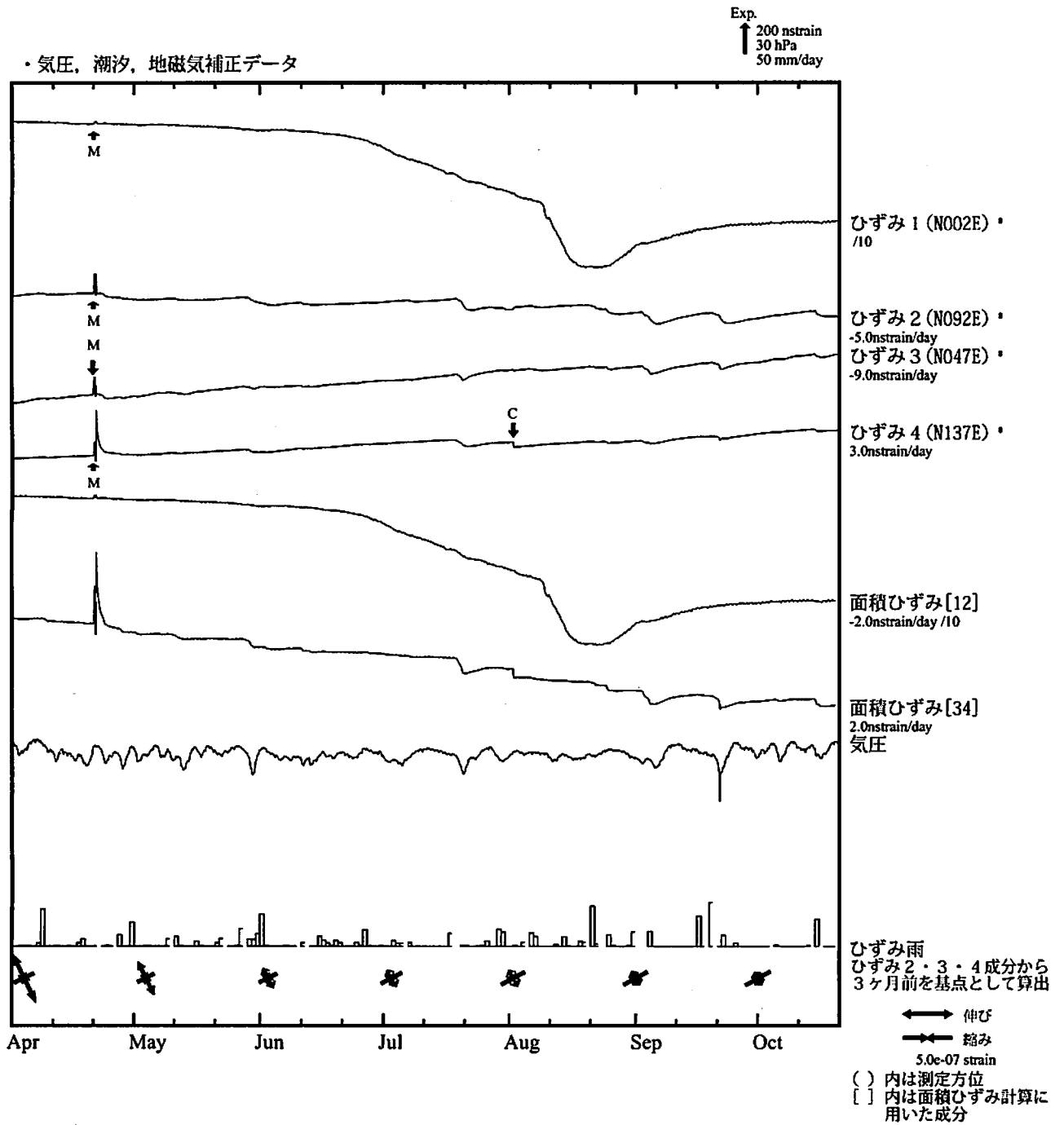
\*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマックなステップを除去して計算している。

← 伸び  
→ 縮み  
1.0e-06 strain

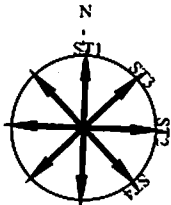
気象庁作成

浜松春野（はままつはるの）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

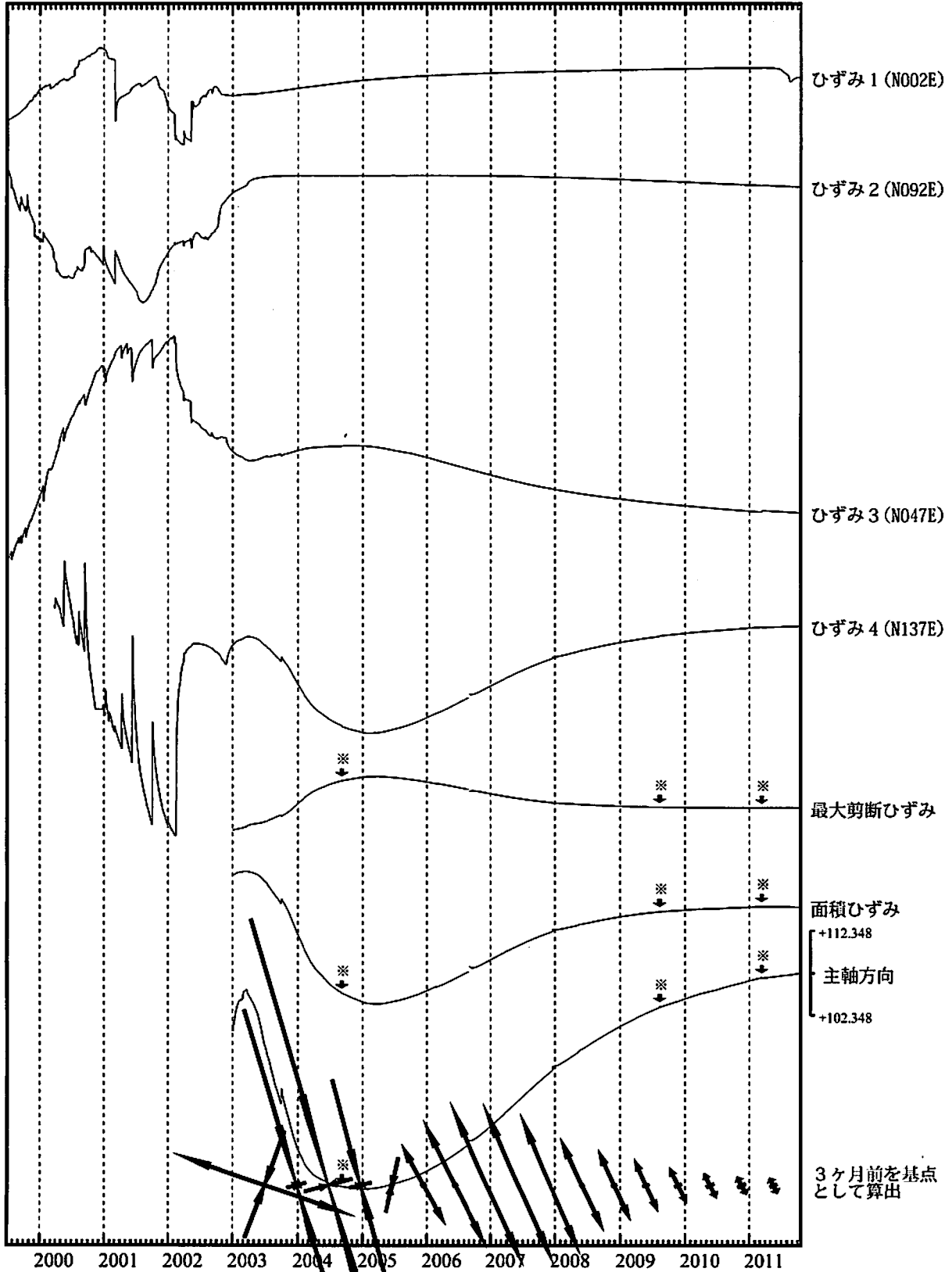


- C : 地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 浜松春野ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ 2、3、4の各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

Exp.  
↑ 20000 nstrain

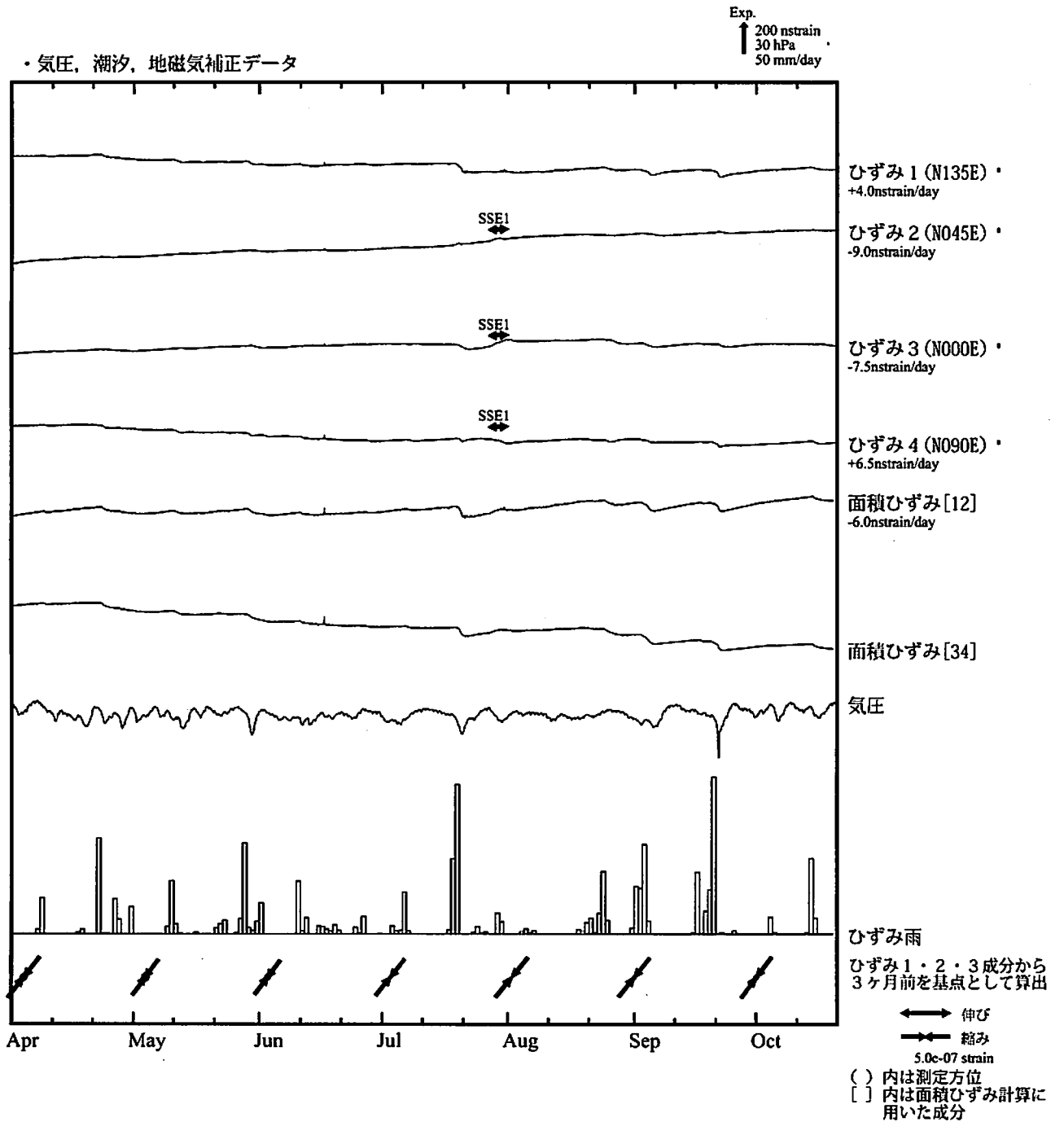


※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

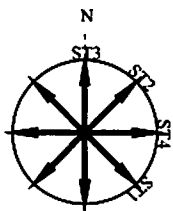
←→ 伸び  
→← 縮み  
2.0e-06 strain

気象庁作成

浜松佐久間（はまつさくま） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01

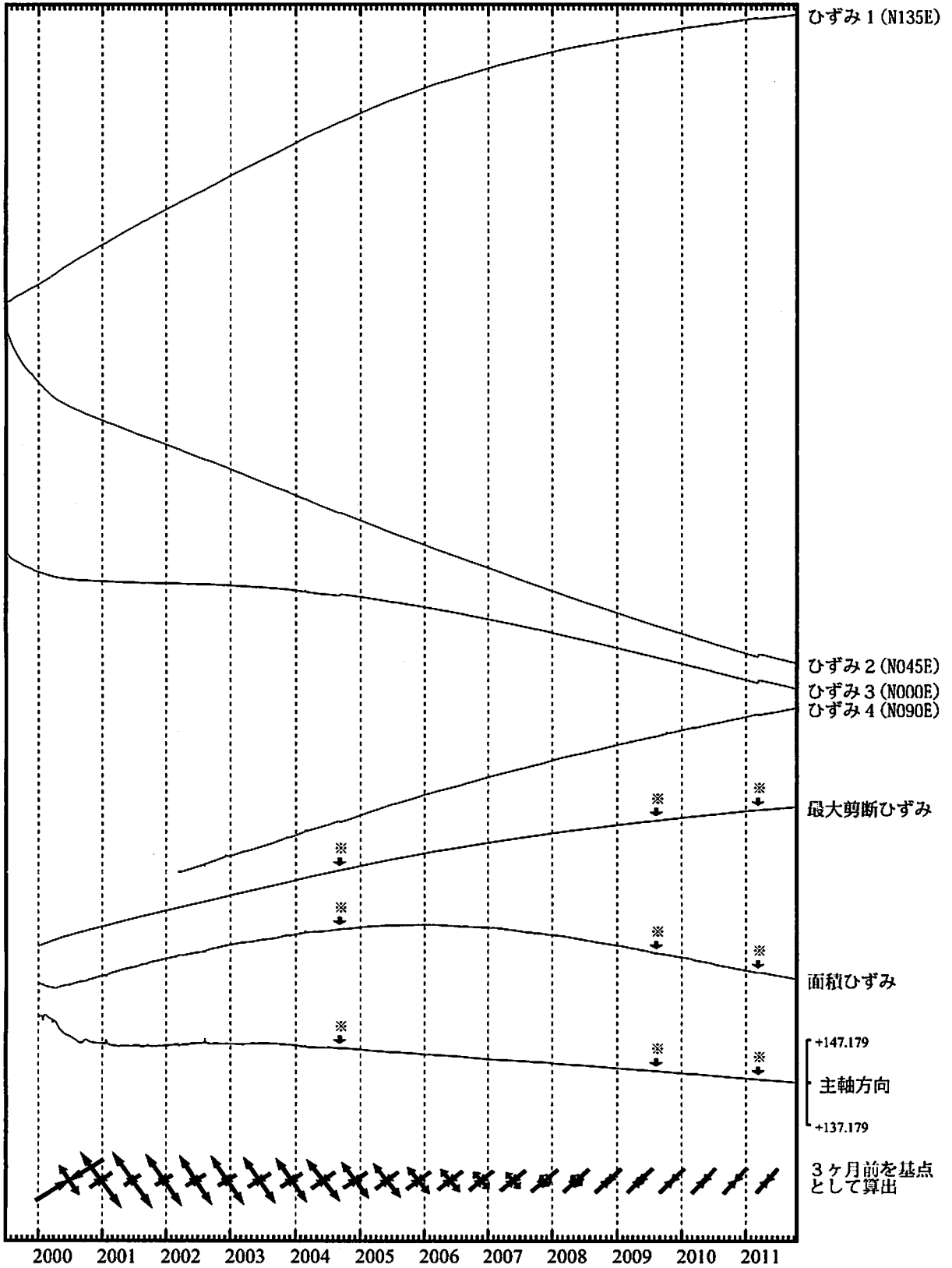
- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整



# 浜松佐久間ひずみ変化（日値）

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

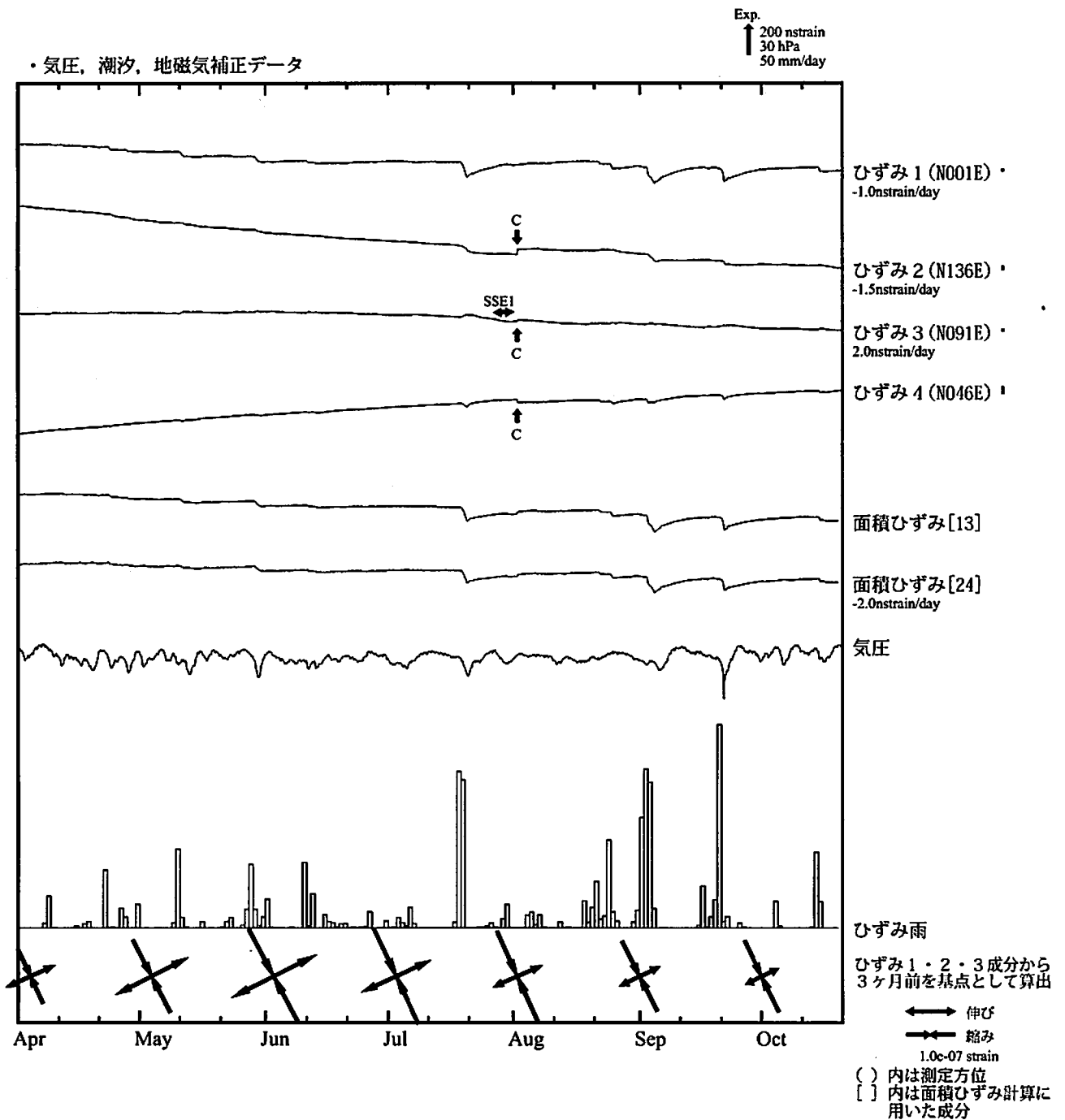
Exp.  
↑ 5000 nstrain



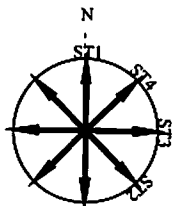
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

←→ 伸び  
←→ 縮み  
1.0e-06 strain

# 川根本町東藤川 (かわねほんちょうひがしふじかわ) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



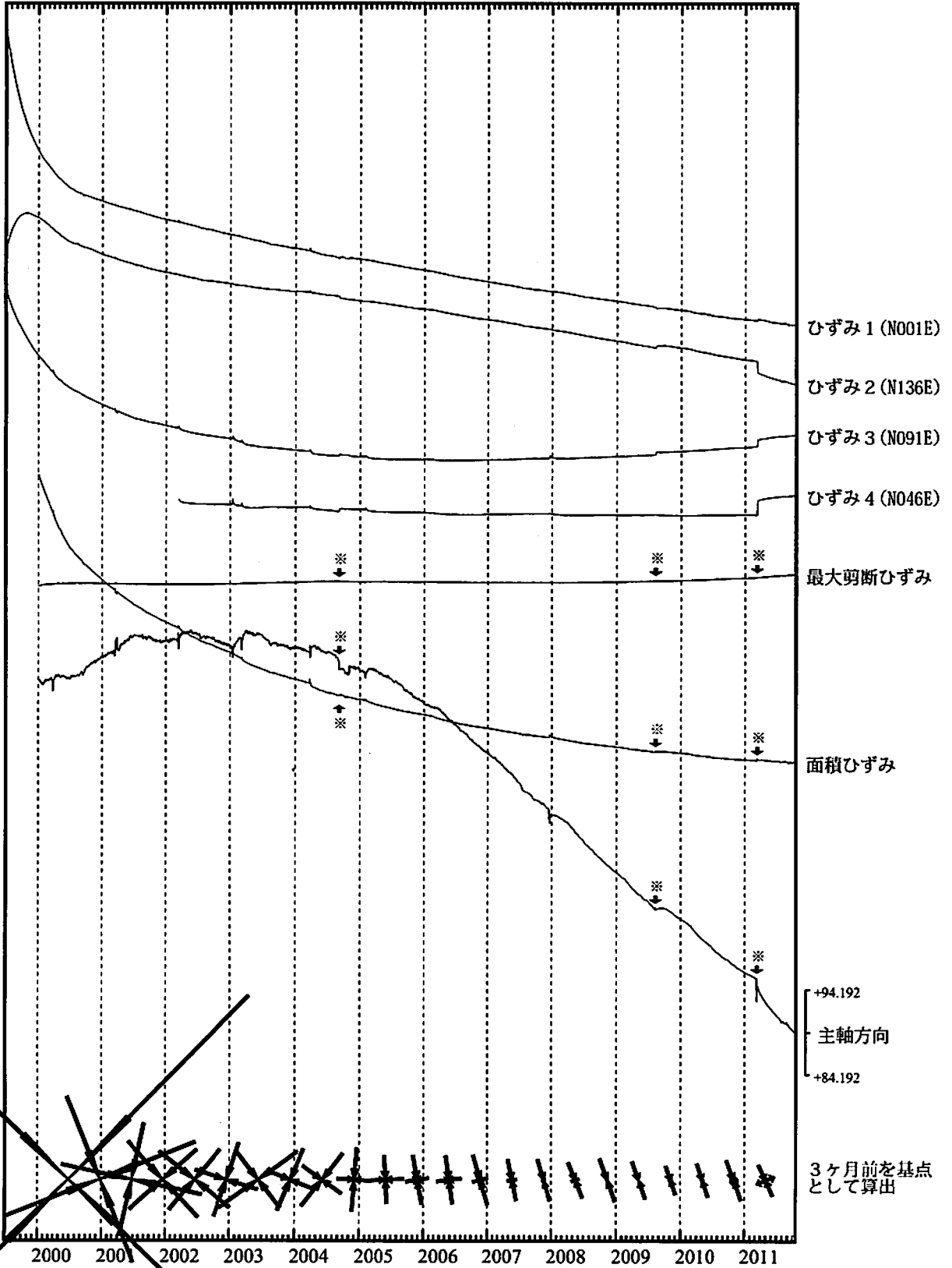
SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01

- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 川根本町東藤川ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみおよび面積ひずみはひずみ1、2、3の  
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

Exp.  
↑ 2000 nstrain

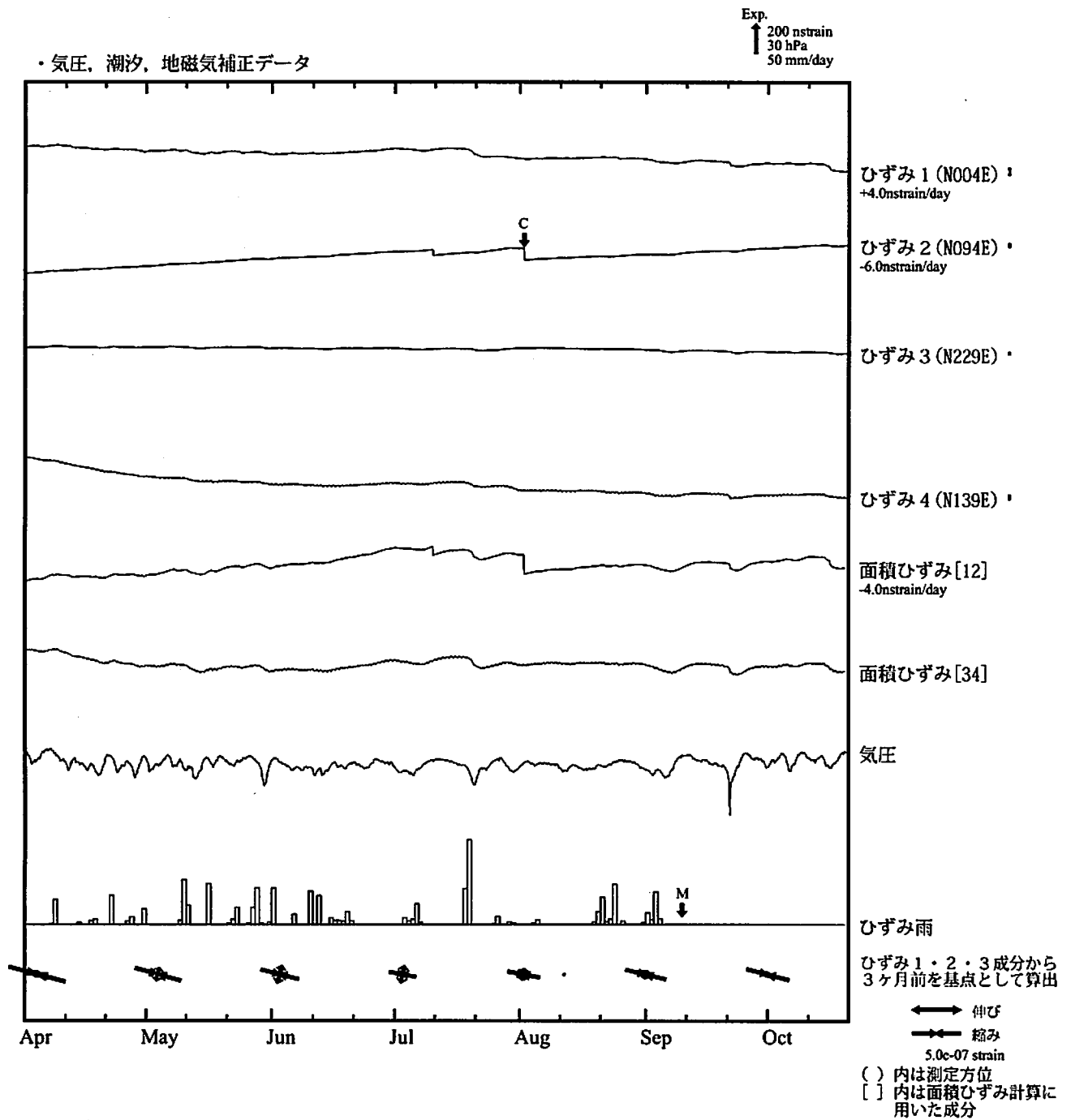


\*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

←→ 伸び  
←→ 縮み  
2.0e-07 strain

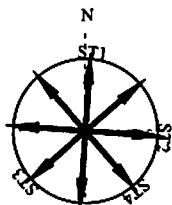
気象庁作成

# 浜松宮口（はまつみやぐち） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

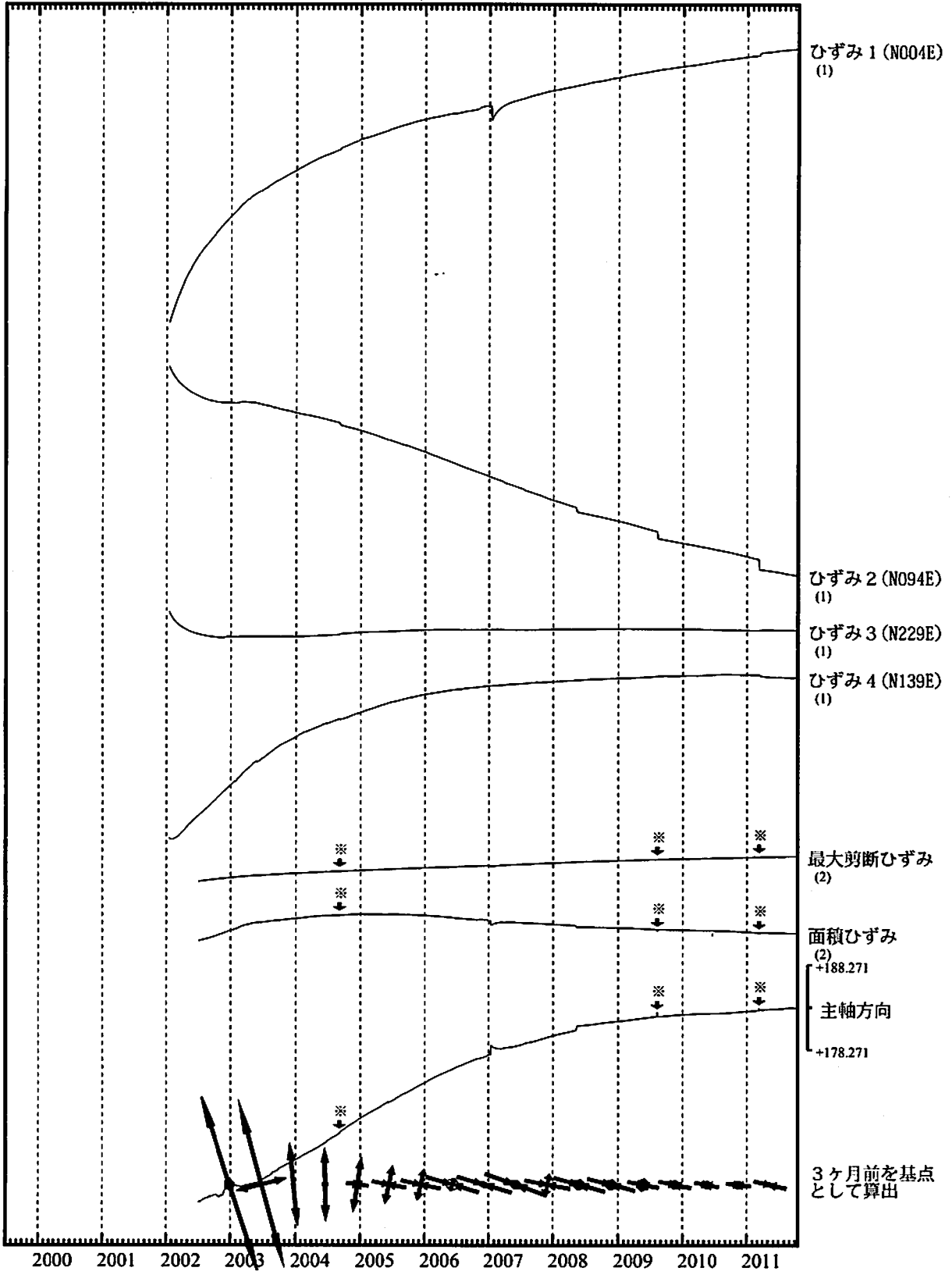


- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 浜松宮口ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ 1、2、3の各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

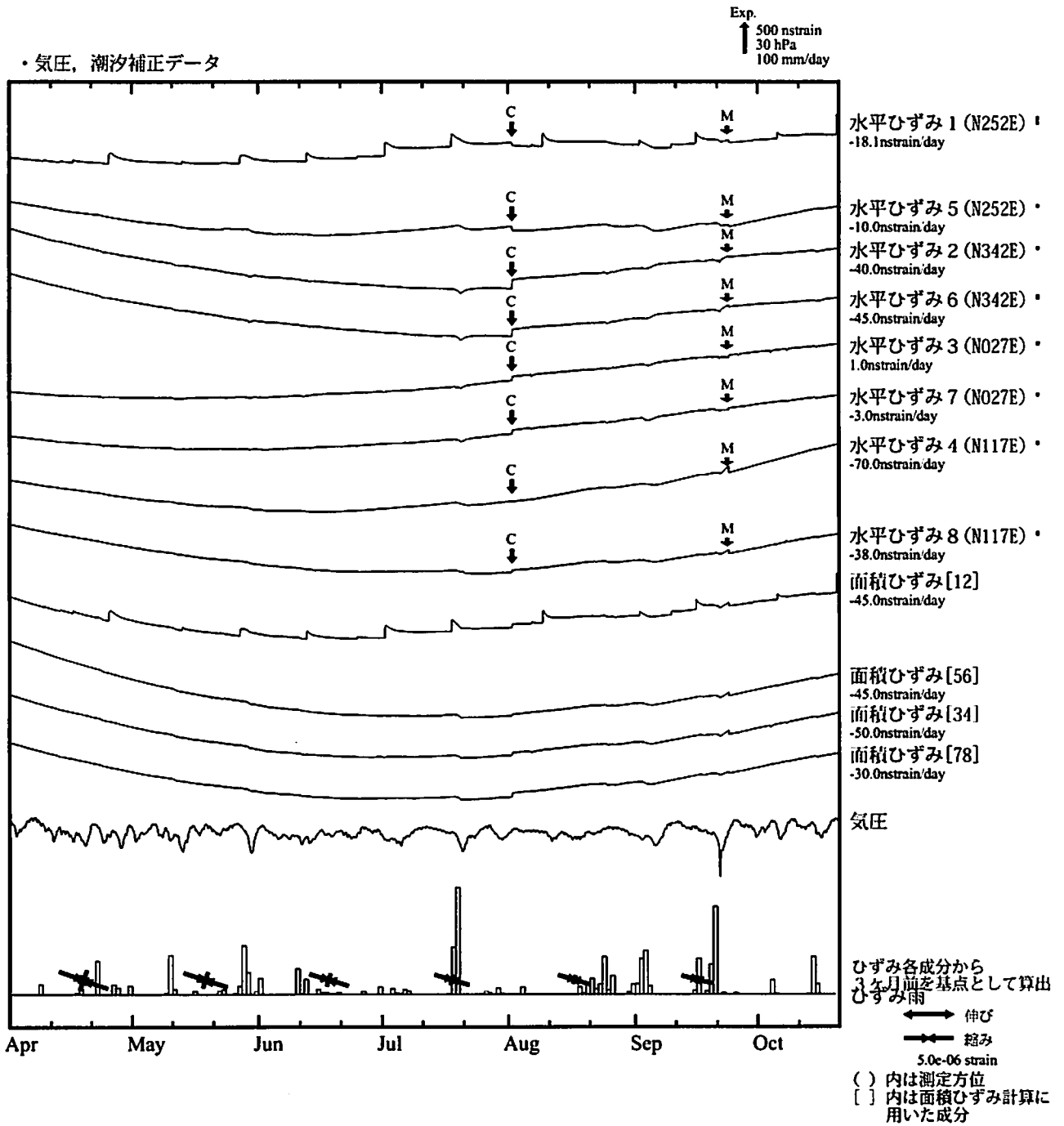
Exp.  
↑ 5000 nstrain (1)  
↑ 20000 nstrain (2)



\*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応  
 ※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスマミックなステップを除去して計算している。

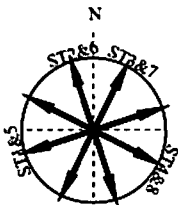
←→ 伸び  
 ←→ 縮み  
 1.0e-06 strain

静岡落合（しずおかおちあい） ひずみ変化 時間値



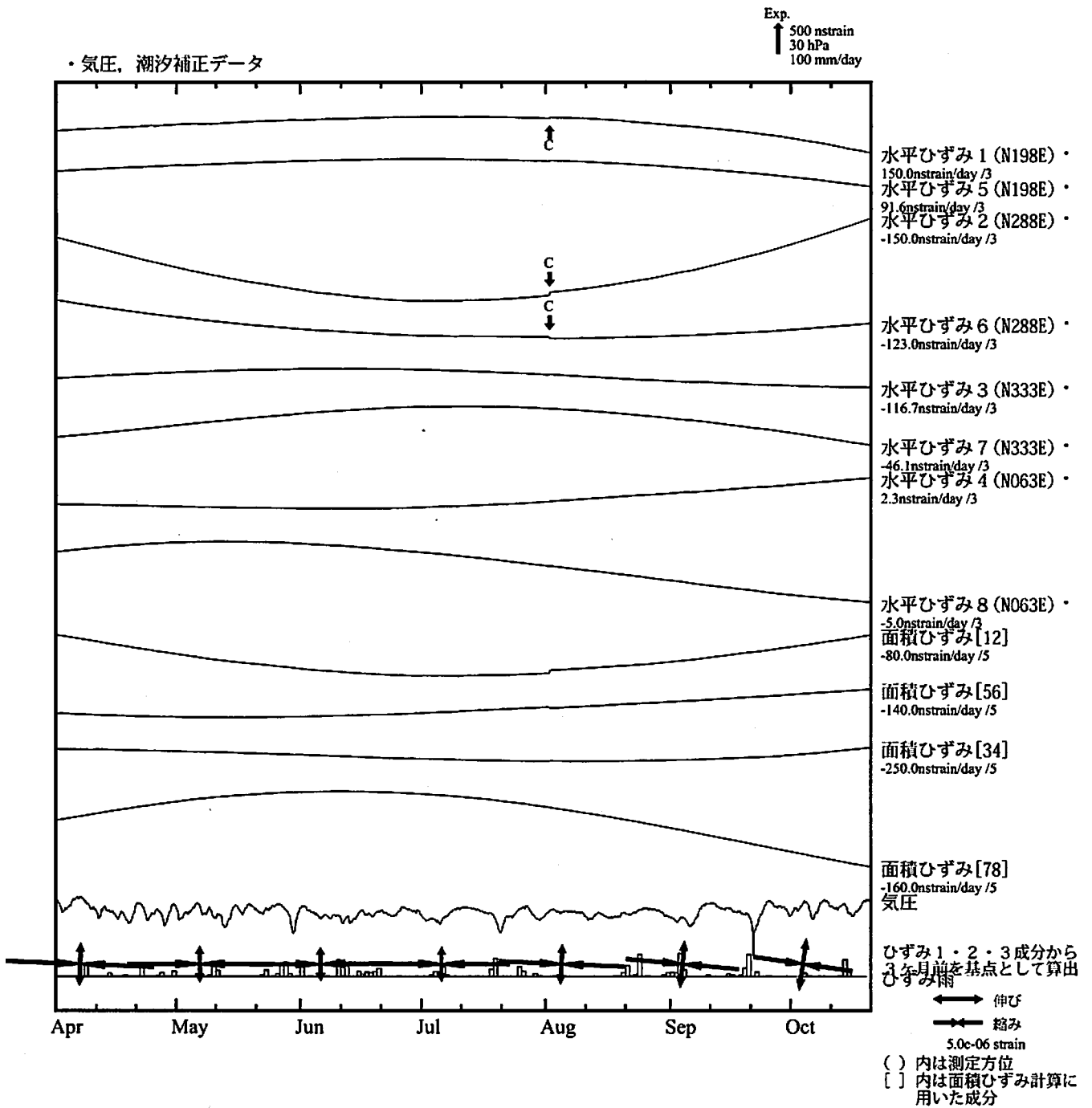
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。



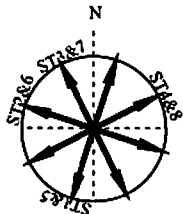
- C : 地震に伴うコサイミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 掛川高天神（かけがわたかてんじん） ひずみ変化 時間値



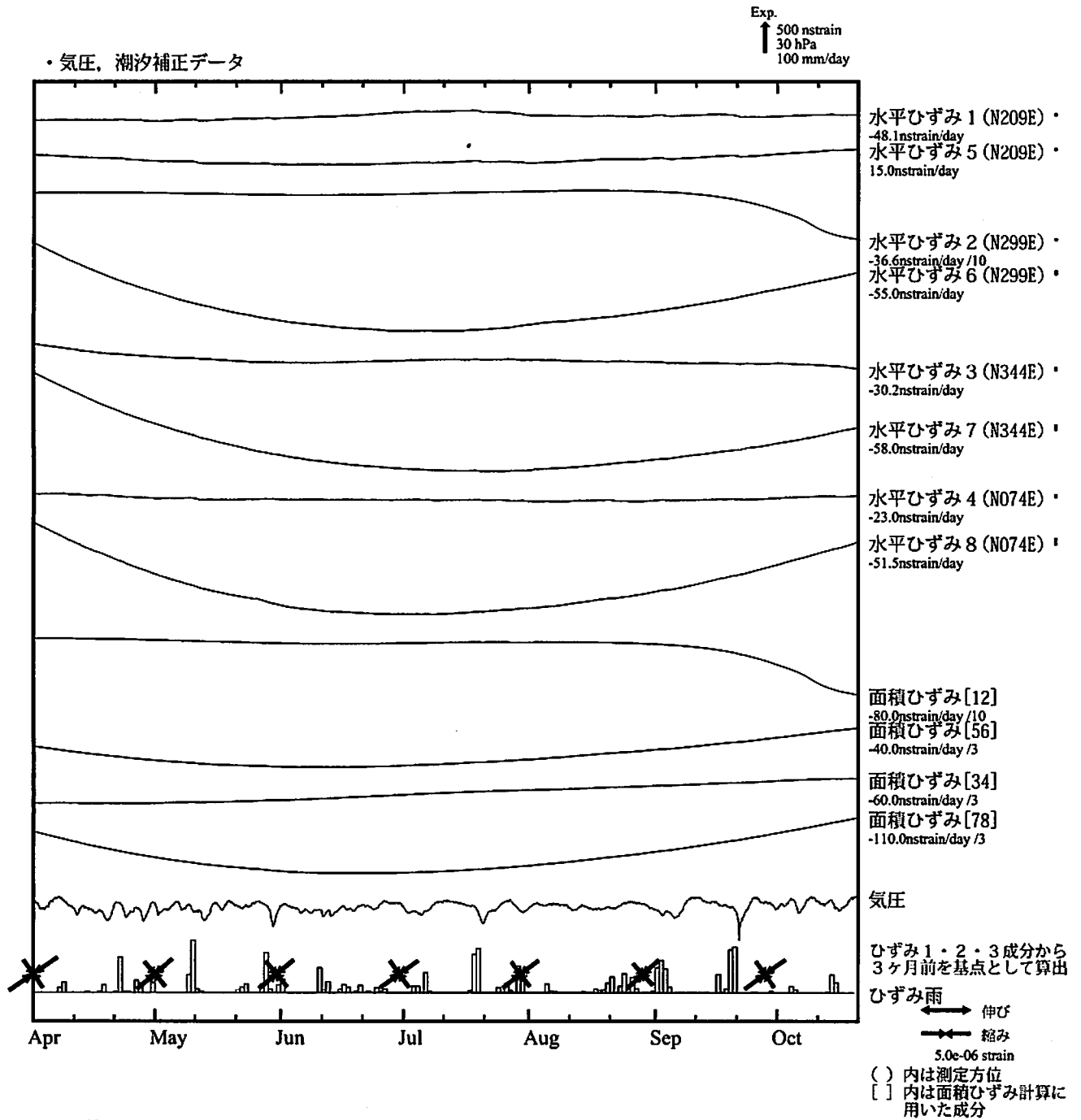
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。



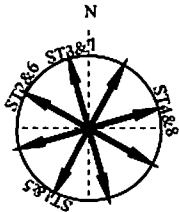
- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 売木岩倉（うるぎいわくら）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

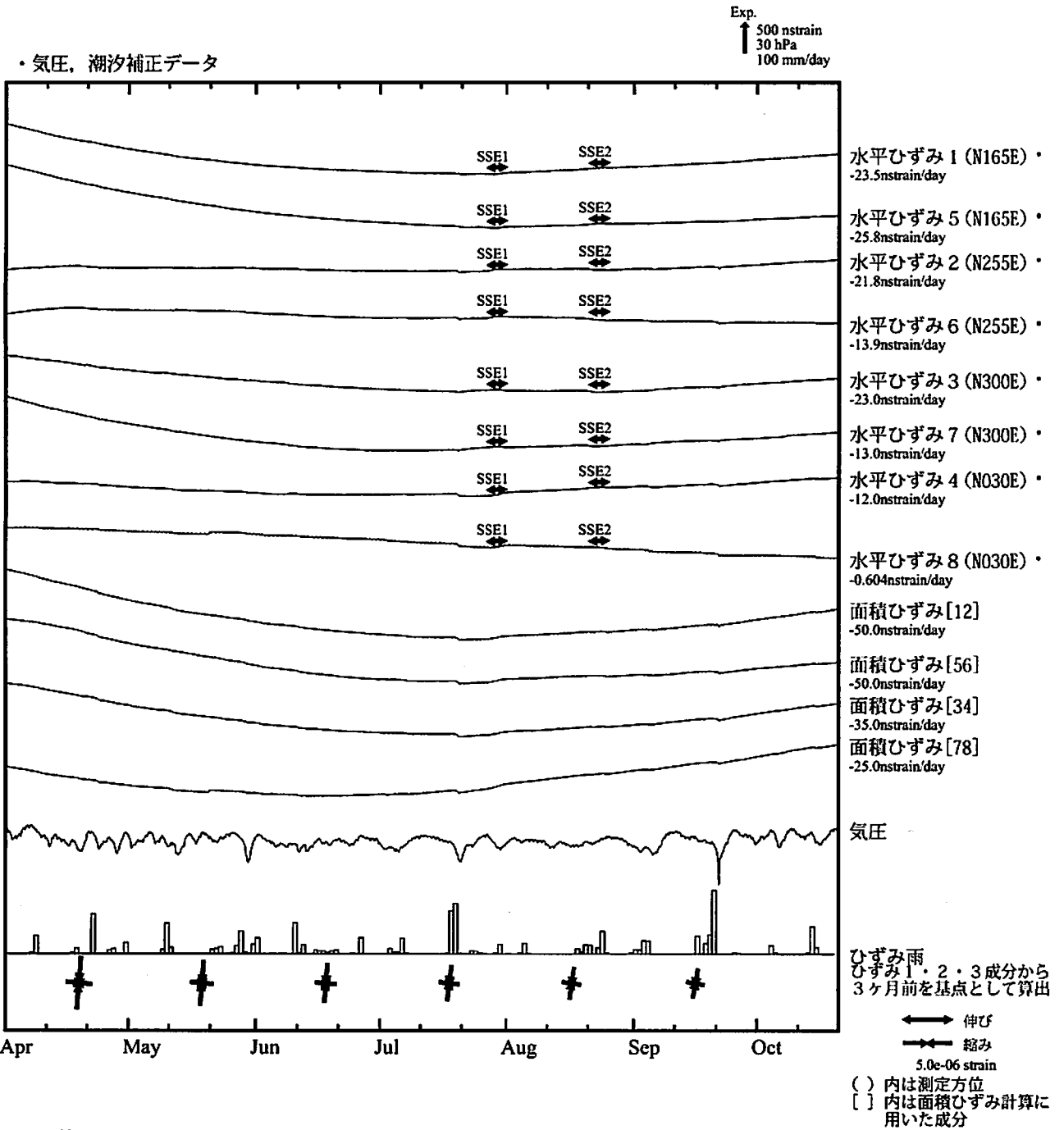
・特記事項なし。



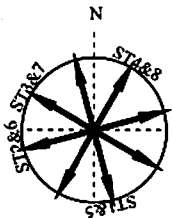
- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整



# 新城浅谷 (しんしろあさや) ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



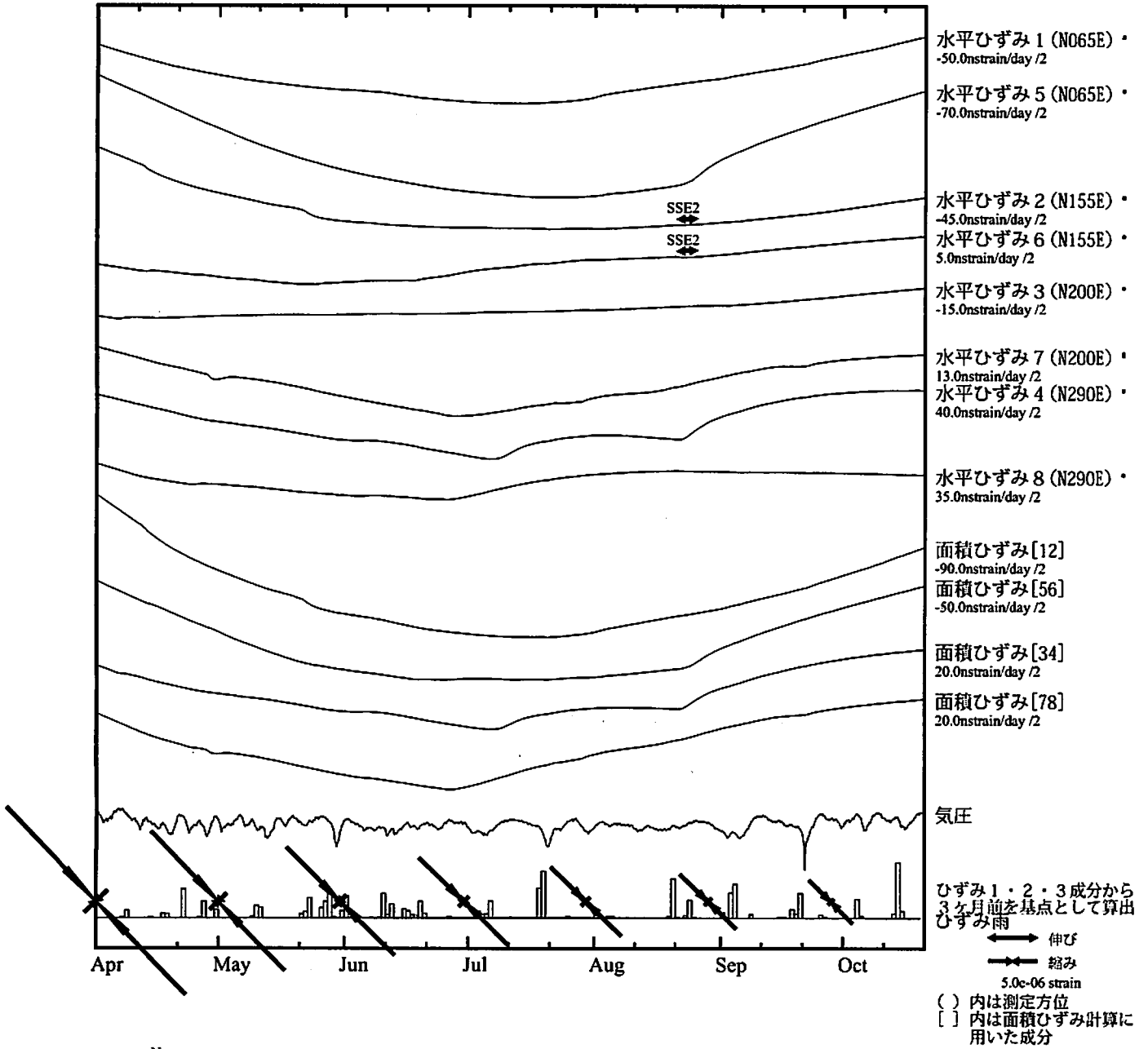
SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2011.07.26-08.01  
SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2011.08.20-08.22

C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化  
L : 局所的な変化  
S : 例年見られる変化  
M : 調整

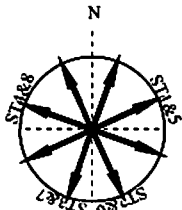
田原高松（たはらたかまつ） ひずみ変化 時間値

Exp.  
↑ 500 nstrain  
30 hPa  
50 mm/day

・気圧、潮汐補正データ



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2011.08.20-08.22

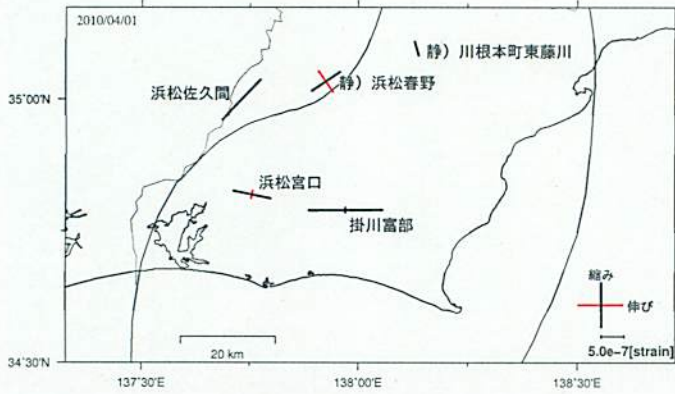
- C : 地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整

# 多成分ひずみ計データ

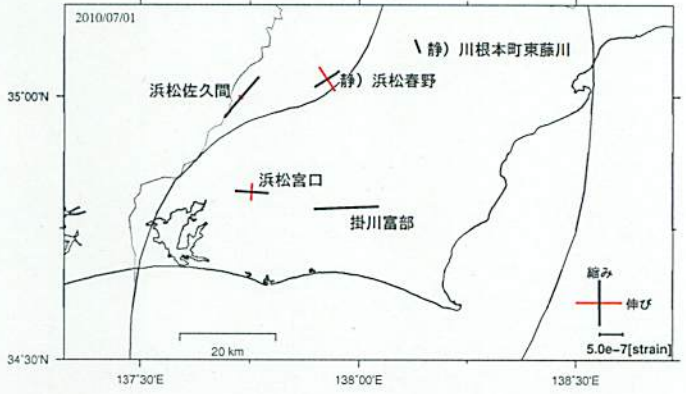
ひずみ1・2・3成分(浜松春野は、2・3・4成分)から90日前を基準として算出

2010.04.01~2011.10.20

2010/04/01



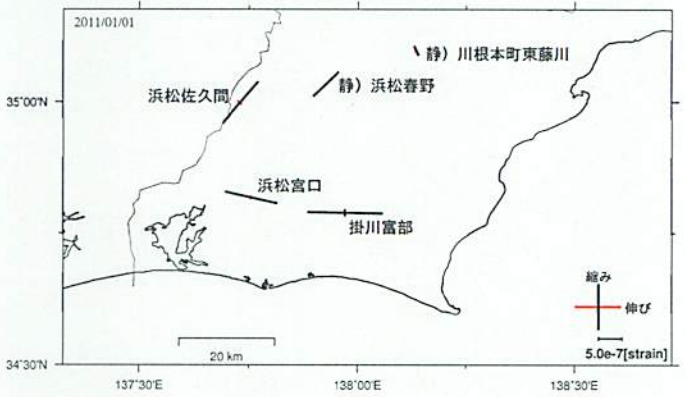
2010/07/01



2010/10/01



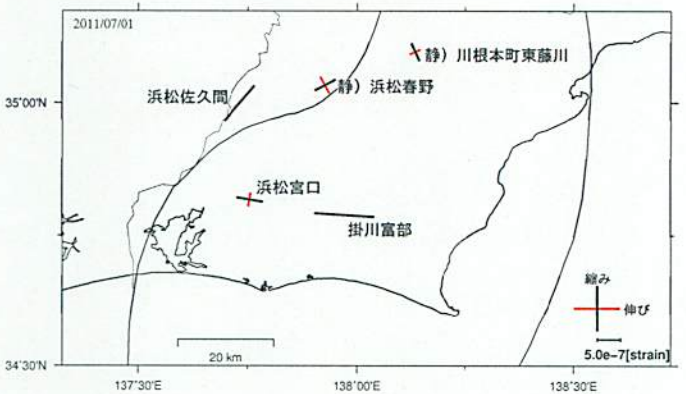
2011/01/01



2011/04/01



2011/07/01



2011/10/01



2011/10/20



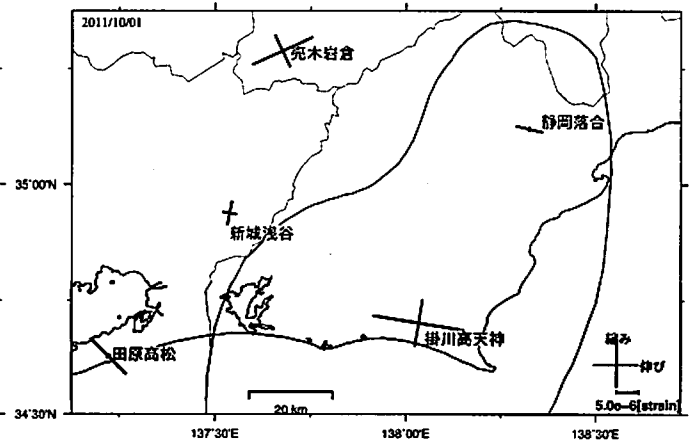
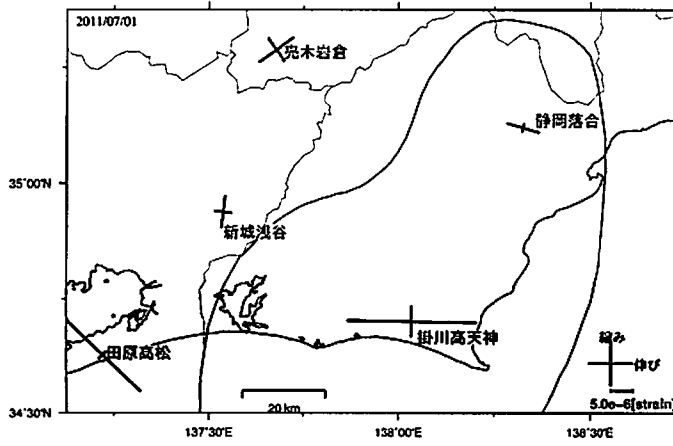
# 多成分ひずみ計データ 新設点

ひずみ1・2・3成分から90日前を基準として算出

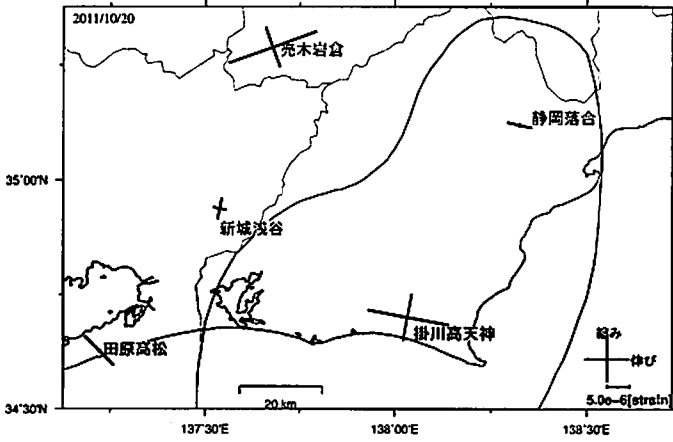
2011.07.01～2011.10.20

2011/07/01

2011/10/01



2011/10/20



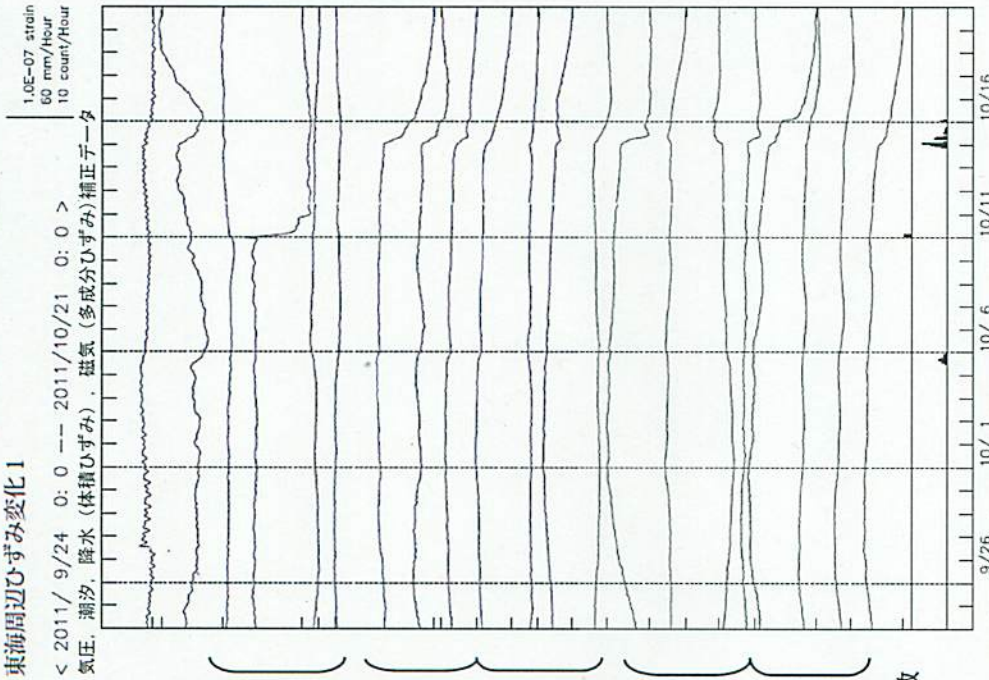


# 東海地域の短期的ゆっくりすべりの監視

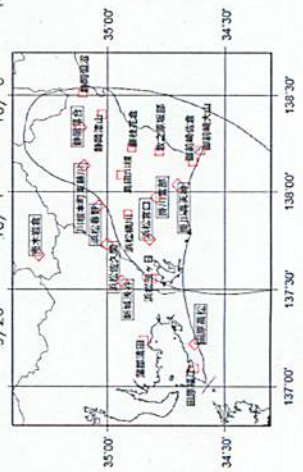
2011. 09. 24 ~ 2011. 10. 20

今期間、気象庁が監視している東海地方の各体積ひずみ計、多成分ひずみ計で短期的ゆっくりすべりが原因とみられる明瞭な変化は観測されていない。

## 東海周辺ひずみ変化 1

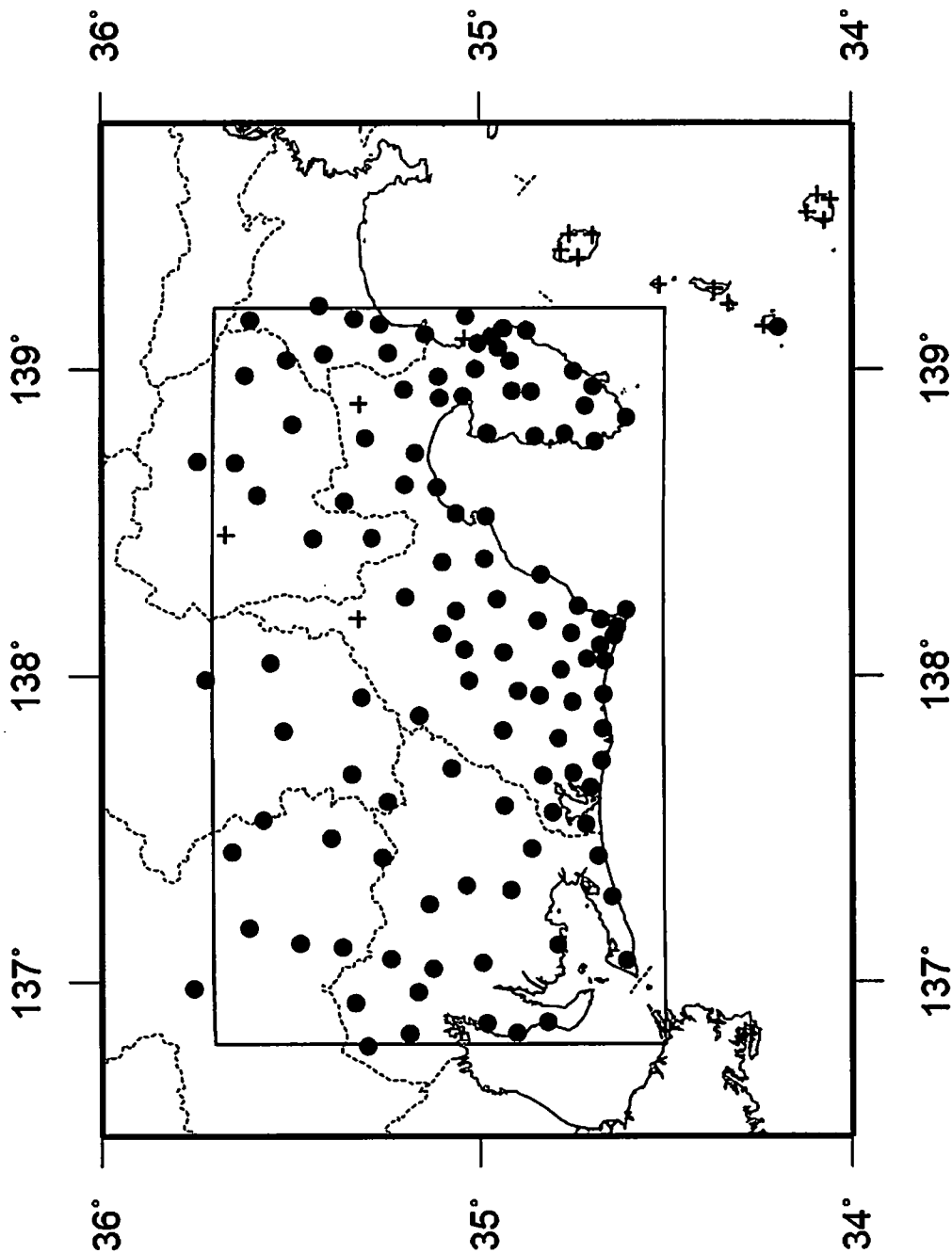


## 東海周辺ひずみ変化 2



# GPS6時間値による面的監視

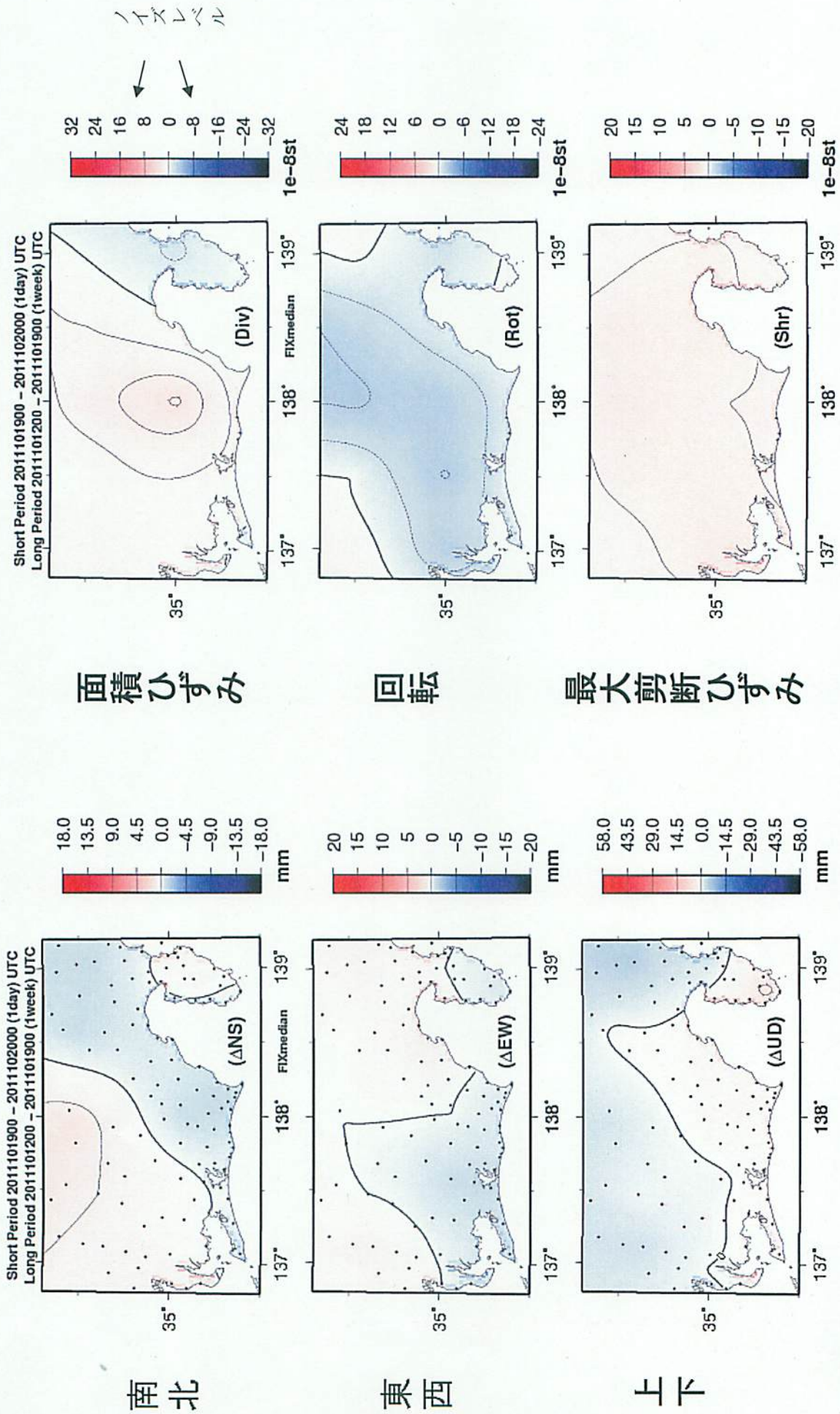
2011年10月20日現在  
気象研究所・気象庁資料



対象範囲(内側の矩形内)と使用観測点(●印)。+印の観測点はデータ不安定などにより今回の解析に使用していない。  
東海地域におけるGPS6時間値(国土地理院)を用いて、最近1日間、1週間、1ヶ月間と過去とを比較した。夏季に解析値のばらつきが見られるほかは特に目立った変位は見られない。



# 最近1日間とその前1週間との比較

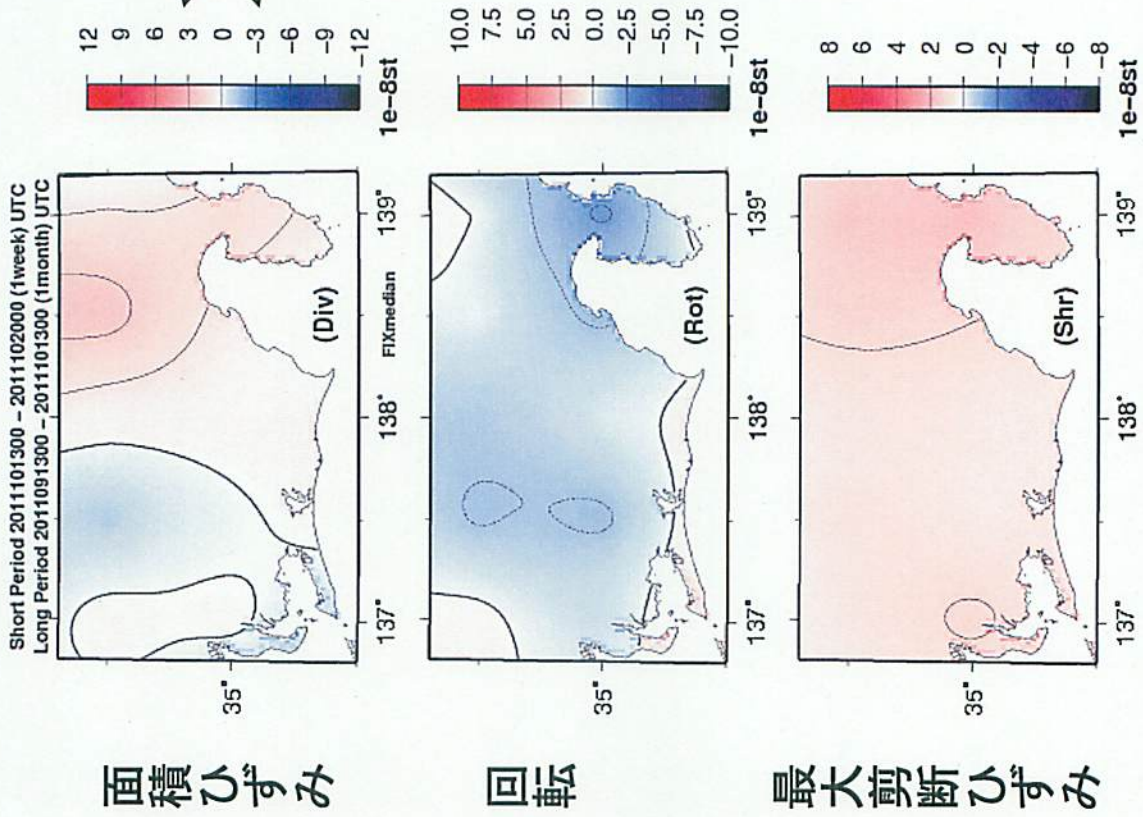
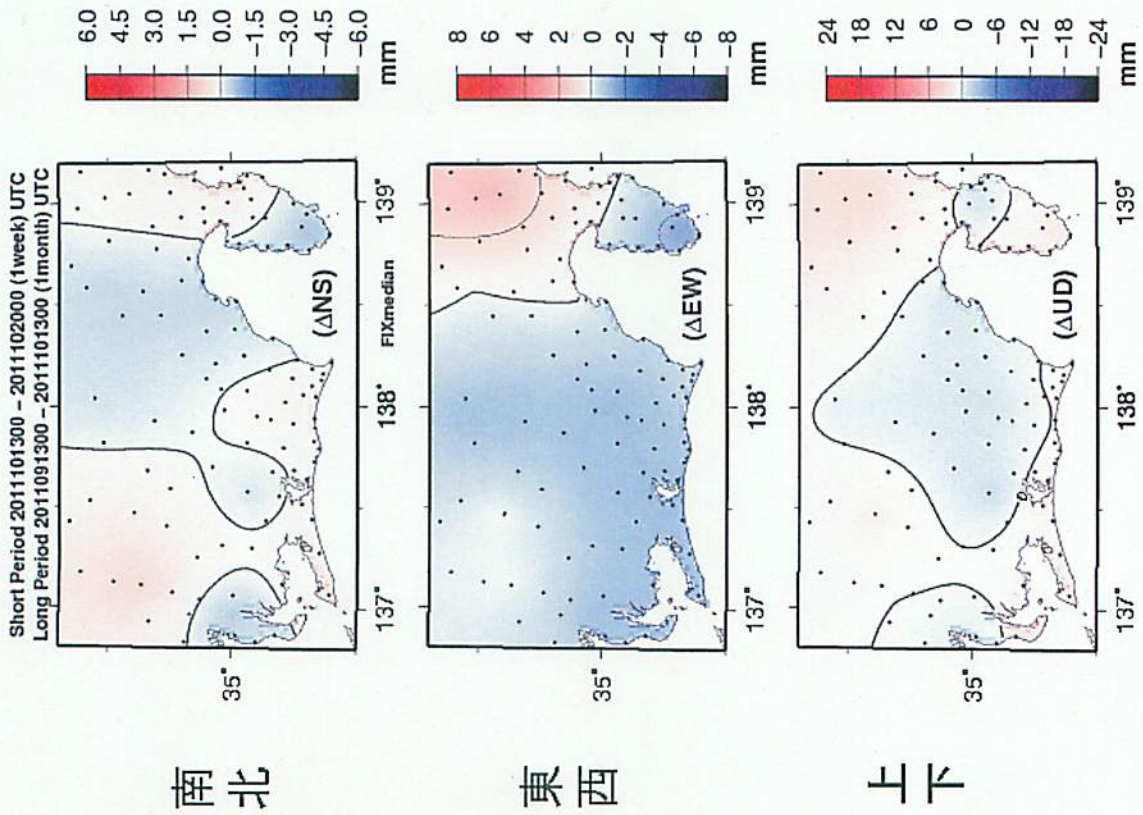


対象期間：2011/10/19 00:00 - 2011/10/20 00:00(1day)

基準期間：2011/10/12 00:00 - 2011/10/19 00:00(1week)



# 最近1週間とその前1ヶ月間との比較

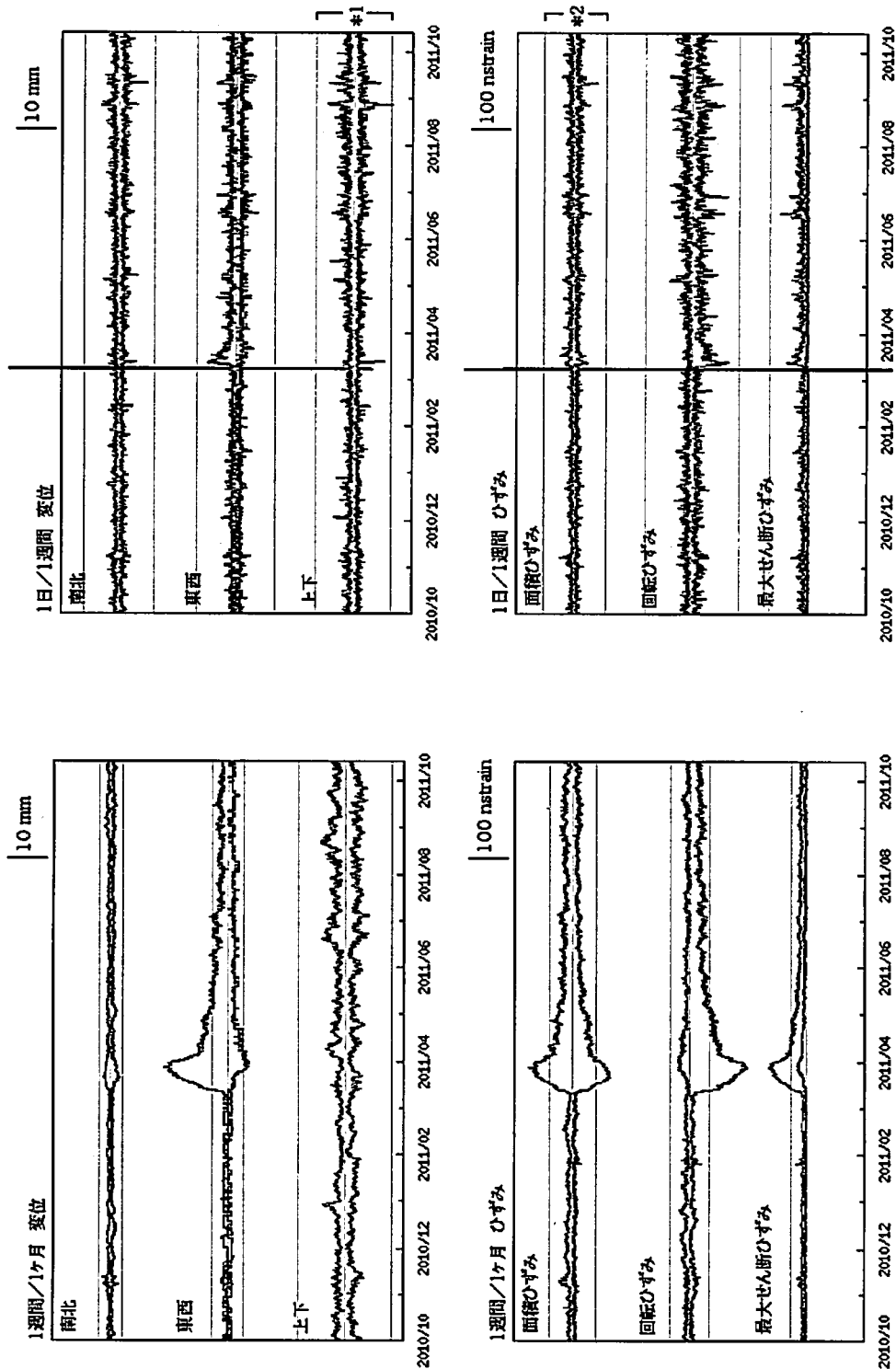


対象期間：2011/10/13 00:00 - 2011/10/20 00:00(1week)

基準期間：2011/09/13 00:00 - 2011/10/13 00:00(1month)

# 最近1年間(2010年10月1日00:00~2011年10月20日00:00)の 面的監視による対象範囲内の最大値の経過

(前ページまでのカラーマッピングはこれらのグラフの右端の状況。)



夏季に解析値のばらつきが見られる他、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の影響が見られる。点線はノイズレベルであり、異常検知のしきい値。しきい値は、2006年1月~2007年12月の2年間分のデータを元に、1年に1回出現する最大値・最小値を把握できる値を求め設定。  
\*1)の上下成分の1日-1週間は振幅を1/3倍、\*2)の発散ひずみ成分の1日-1週間は振幅を1/2倍にしてある。

## GPS 日値による面的監視（南海トラフ沿い；余効除去）

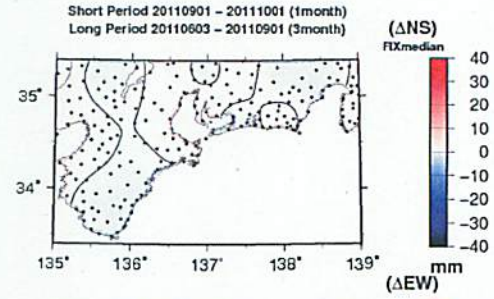
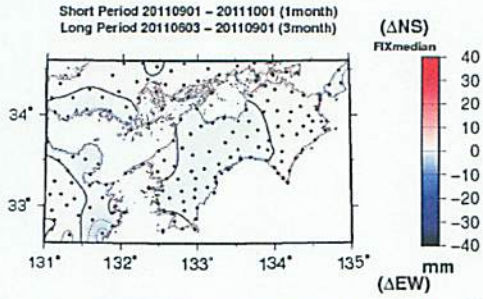
南海トラフ沿いの地域について紀伊水道を境に東西二つに分け、GPS1 日値 F3 解（国土地理院）を用いて、①最近 1 ヶ月間とその前の 3 ヶ月間の座標変化（各期間の中央値の差から 2 ヶ月間の変位）、②最近 1 ヶ月間と 1 年前の 1 ヶ月間との座標変化（1 年間の変位）、およびそれぞれ水平成分から計算したひずみを面的監視手法で見た。GPS 座標値は観測点ごとに定常変位と見なされる期間の直線トレンドを除去しており、年周変化は補正していない。また、主な地震に伴うオフセットと、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震に伴う余効変動を差し引いている。

四国南西部から九州東部に、2009 年末から 2010 年秋まで継続した豊後水道長期的スロースリップに伴う変位がわずかに見られる。

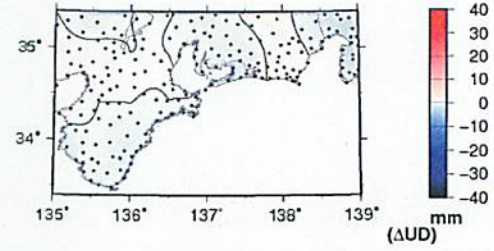
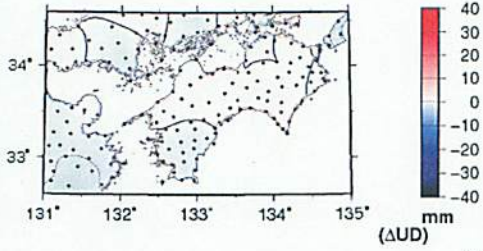


# ①最近2ヶ月間の変位とひずみ

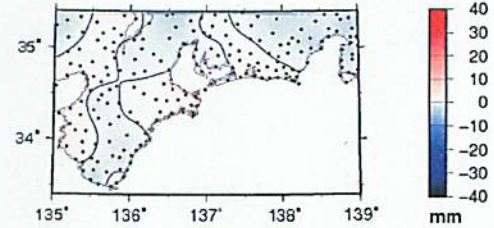
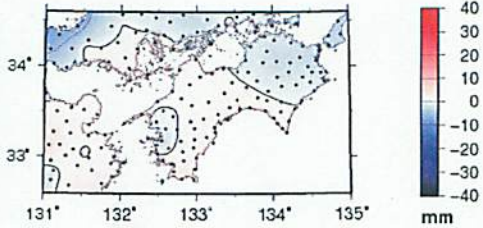
南北



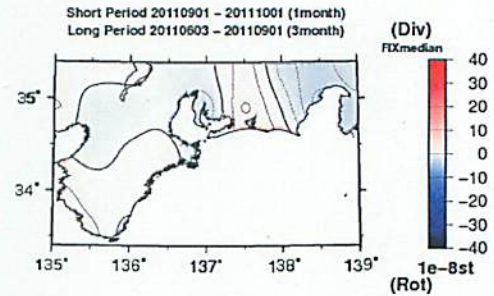
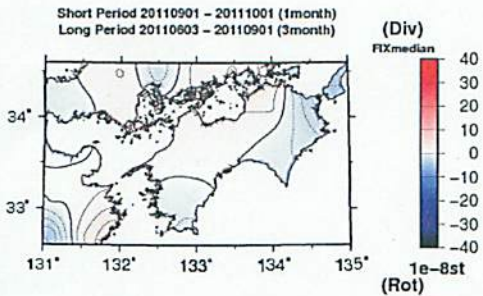
東西



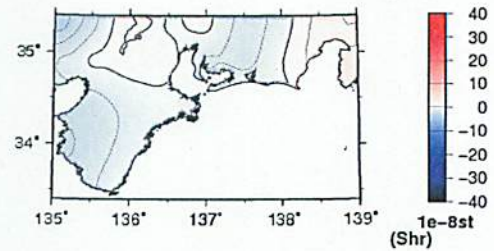
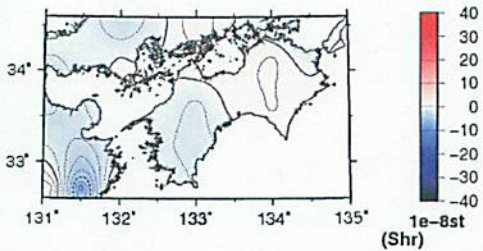
上下



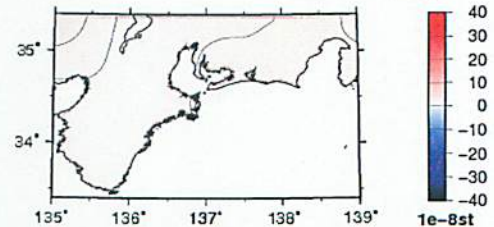
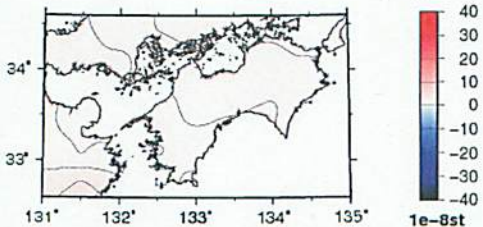
面積ひずみ



回転



最大せん断



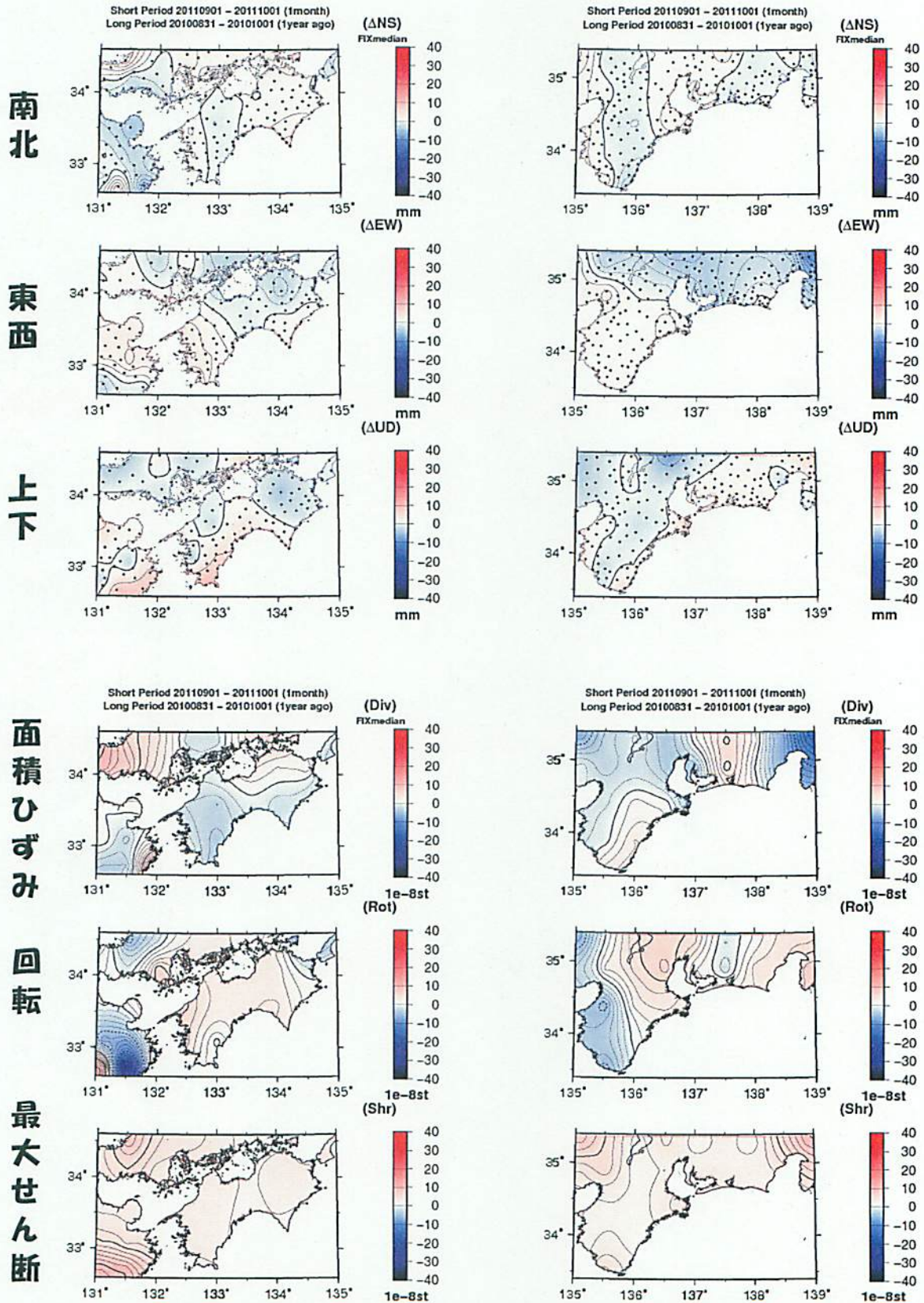
対象期間：2011/9/1-2011/10/1(1month)

基準期間：2011/6/3-2011/9/1(3month)

特に目立った変化は見られない。



## ②最近1年間の変位とひずみ



対象期間：2011/9/1-2011/10/1(1month)

基準期間：2010/8/31-2010/10/1(1month)

四国南西部から九州東部に、2009年末から2010年秋までの豊後水道長期的スロースリップに伴う変位がわずかに見られる。

気象庁・気象研究所作成